



Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.4

インストールガイド

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 向け

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.4 インストールガイド

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 向け

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Installation_Guide.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

これは、Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 のインストールとそのパッチリリースのガイドです。

目次

第1章 製品の概要	4
1.1. RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6	4
1.2. JBOSS EAP 6 の機能	4
1.3. RED HAT カスタマーポータル	5
第2章 インストール手順	6
2.1. JBOSS EAP 6 のインストール方法	6
2.2. JBOSS EAP 6 のインストールの前提条件	6
2.3. ZIP インストール	8
2.3.1. JBoss EAP 6 のダウンロード (Zip インストール)	8
2.3.2. JBoss EAP 6 をインストールします (ZIP インストール)	9
2.4. JBOSS EAP 6 のアンインストール (ZIP インストール)	10
2.5. INSTALLER	10
2.5.1. JBoss EAP 6 (インストーラー) のダウンロード	10
2.5.2. JBoss EAP インストールプログラムを実行します	11
2.5.3. JBoss EAP 6 (インストーラー) のアンインストール	15
2.6. RPM インストール	16
2.6.1. JBoss EAP 6 ソフトウェアチャンネルについて	16
2.6.2. JBoss EAP チャンネルの命名規則	17
2.6.3. JBoss EAP 6 の現在のチャンネルにサブスクライブする方法	18
2.6.4. JBoss EAP 6 マイナーチャンネルにサブスクライブする方法	18
2.6.5. サブスクリプションチャンネルの変更のサポート	19
2.6.6. 現在のチャンネルからマイナーチャンネルに変更する方法	19
2.6.7. JBoss EAP 6 のインストール (グラフィカル RPM インストール)	20
2.6.8. JBoss EAP 6 のインストール (テキストベースの RPM インストール)	21
2.6.9. RPM サービスプロパティの設定	22
2.7. 自動インストール	22
2.7.1. JBoss EAP 6 の複数インスタンスのインストール (インストーラー)	22
2.7.2. 各種ソースからの自動インストールスクリプト (auto.xml) を使用した JBoss EAP 6 のインストール	23
2.8. 自動インストールアプローチ	23
2.8.1. 自動インストールアプローチについて	24
2.8.2. 自動インストール変数ファイルでキー/パスワード値を事前設定して JBoss EAP 6 をインストール	24
2.8.3. インストール中にキー値/パスワードを指定して JBoss EAP 6 を自動的にインストール	25
2.9. ネイティブコンポーネントとユーティリティのインストール	25
2.9.1. ネイティブコンポーネントとネイティブユーティリティのインストール (Zip、インストーラー)	25
2.9.2. ネイティブコンポーネントとネイティブユーティリティのインストール (RPM インストール)	27
2.10. サービス設定	28
2.10.1. Red Hat Enterprise Linux で JBoss EAP 6 をサービスとして設定 (RPM メソッド)	28
2.10.2. Red Hat Enterprise Linux で JBossEAP6 をサービスとして設定 (Zip、インストーラー)	29
2.10.3. Microsoft Windows Server で JBoss EAP 6 をサービスとして設定 (Zip、インストーラー)	31
第3章 JBOSS EAP 6 のパッチ適用およびアップグレード	35
3.1. パッチとアップグレードについて	35
3.2. JBOSS EAP 6 のパッチ適用	35
3.2.1. パッチ適用メカニズムについて	35
3.2.2. Zip/インストーラーインストールのパッチ適用	36
3.2.2.1. パッチ管理システム	36
3.2.2.2. パッチ管理システムを使用した Zip 形式のパッチのインストール	38
3.2.2.3. パッチ管理システムを使用して Zip 形式でパッチ適用をロールバック	41
3.2.2.4. パッチ履歴の消去	44
3.2.3. RPM インストールへのパッチ適用	45

3.2.4. パッチメーリングリストのサブスクリプション	46
3.2.5. JBoss セキュリティーパッチの重大度と影響の評価	46
3.2.6. JBoss EAP にデプロイされたアプリケーション内にバンドルされた依存関係のセキュリティ更新の管理	48
3.3. JBOSS EAP 6 のアップグレード	48
3.3.1. アップグレードの準備	48
3.3.2. JBoss EAP 6 ZIP インストールのアップグレード	49
3.3.3. JBoss EAP 6 RPM インストールのアップグレード	51
3.3.4. JBoss EAP クラスターのアップグレード	51
付録A 参考資料	53
A.1. JBOSS EAP 6 で利用可能なダウンロード	53
A.2. JBOSS EAP 6 のディレクトリー構造	54
A.3. JBOSS EAP 6 の RPM パッケージリスト	57
A.4. JBOSS EAP 6 の RPM インストール設定ファイル	58
付録B インストーラーのスクリーンショット	60
B.1. 言語の選択	60
B.2. 使用許諾契約書	60
B.3. インストールパス	61
B.4. インストールするパックを選択します	62
B.5. 管理ユーザーの作成	63
B.6. クイックスタートインストール	64
B.7. MAVEN リポジトリーのセットアップ	65
B.8. ソケットバインディングのセットアップ	66
B.9. スタンドアロン設定のカスタムソケットバインディング	69
B.10. ドメイン設定のカスタムソケットバインディング	73
B.11. サーバーの起動	78
B.12. ログingleベルの設定	79
B.13. ランタイム環境の設定	81
B.14. パスワード VAULT の設定	83
B.15. SSL セキュリティーの設定	84
B.16. LDAP の設定	85
B.17. INFINISPAN の設定	86
B.18. セキュリティードメインの設定	87
B.19. JDBC ドライバーのセットアップ	89
B.20. データソースのセットアップ	89
B.21. インストールコンポーネントを確認する	90
B.22. インストールの進捗	91
B.23. インストール処理が完了しました	92
B.24. ショートカットを作成する	93
B.25. インストールスクリプトを生成する	94
付録C 改訂履歴	96

第1章 製品の概要

1.1. RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 (JBoss EAP 6) は、オープン標準に構築されたミドルウェアプラットフォームで、Java Enterprise Edition 6 仕様に準拠します。これは、JBoss Application Server 7 を高可用性クラスターリング、メッセージング、分散キャッシング、およびその他のテクノロジーと統合します。

JBoss EAP 6 には、必要な場合にだけサービスを有効にできる新しいモジュール構造が含まれます (サービスの起動時間が短縮されます)。

管理コンソールと管理コマンドラインインターフェースにより、XML 設定ファイルの編集が不要になり、タスクをスクリプト化および自動化する機能が追加されました。

また、JBoss EAP 6 には、セキュアでスケーラブルな Java EE アプリケーションの迅速な開発を可能にする API と開発フレームワークが含まれます。

バグの報告

1.2. JBOSS EAP 6 の機能

表1.1 JBoss EAP 6 の機能

機能	説明
Java 証明書	認定された Java Enterprise Edition 6 の Full Profile と Web Profile。
管理対象ドメイン	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数のサーバーインスタンスおよび物理ホストを一元管理し、スタンドアロンサーバーで単一のサーバーインスタンスを使用することを可能にします。 ● 設定、デプロイメント、ソケットバインディング、モジュール、拡張機能、およびシステムプロパティをサーバーグループごとに管理します。 ● アプリケーションのセキュリティ (セキュリティドメインを含む) の管理を一元化および簡略化します。
管理コンソールおよび管理 CLI	新しいドメインまたはスタンドアロンサーバー管理インターフェースです。XML 設定ファイルの編集は不要になりました。管理 CLI には、管理タスクをスクリプト化および自動化できるバッチモードも含まれています。

機能	説明
簡素化されたディレクトリーのレイアウト	modules ディレクトリーにすべてのアプリケーションサーバーモジュールが含まれるようになりました。共通およびサーバー固有の lib ディレクトリーは非推奨になりました。 domain ディレクトリーにはドメインデプロイメントのアーティファクトが含まれ、 standalone ディレクトリーにはスタンドアロンデプロイメントの設定ファイルが含まれています。
モジュラークラスローディングの仕組み	モジュールは必要に応じてロードおよびアンロードされます。これにより、パフォーマンスの向上およびセキュリティの強化が実現され、起動および再起動時間が短縮されます。
簡略化されたデータソース管理	データベースドライバーは他のサービスと同様にデプロイされます。さらに、データソースは管理コンソールまたは管理 CLI で直接作成および管理されます。
リソースの使用の削減と効率化	JBoss EAP 6 は、以前のバージョンよりも少ないシステムリソースを使用し、それらをより効率的に使用します。その他の利点として、JBoss EAP 6 は JBoss EAP 5 よりも起動と停止が早くなっています。

バグの報告

1.3. RED HAT カスタマーポータル

Red Hat カスタマーポータルは、Red Hat のナレッジリソースやサブスクリプションリソースを管理する集中プラットフォームです。Red Hat カスタマーポータルでは、以下を行うことができます。

- Red Hat エンタイトルメントやサポート契約の管理および維持。
- 正式サポートされたソフトウェアのダウンロード。
- 製品ドキュメントや Red Hat ナレッジベースの利用。
- グローバルサポートサービスへの連絡。
- Red Hat 製品のバグの登録。

カスタマーポータルはこちらからご利用いただけます。 <https://access.redhat.com>。

バグの報告

第2章 インストール手順

2.1. JBOSS EAP 6 のインストール方法

JBoss EAP 6 をインストールする方法は複数あります。状況によって最適な方法は異なります。このトピックには、各インストールタイプの概要と、関連するインストールプロセスに関する項へのリンクが記載されています。



注記

JBoss ON を使用して JBoss EAP パッチをデプロイおよびインストールする場合、Zip インストールで対象の JBoss EAP インスタンスをインストールしている必要があります。

表2.1 インストール方法

方法	説明	手順
ZIP インストール	Zip アーカイブを使用したインストールは、サポートされるすべてのオペレーティングシステムに適しています。インスタンスを手動で展開したい場合はこのプロセスを使用してください。	<ul style="list-style-type: none"> 「JBoss EAP 6 をインストールします (ZIP インストール)」
JAR インストーラー	JAR インストーラーはコンソールで実行するか、グラフィカルウィザードとして実行することができます。いずれの場合も、サーバーインスタンスのインストール手順および設定手順がステップごとに表示されます。このインストーラーを使用すると、クイックスタートや Maven リポジトリなどの追加設定を行うこともできます。サポートされるすべてのプラットフォームでは、この方法で JBoss EAP 6 をインストールすることが推奨されます。	<ul style="list-style-type: none"> 「JBoss EAP インストールプログラムを実行します」
RPM インストール	JBoss EAP 6 は、サポートされている RPM パッケージのグラフィカルインストーラーまたはコマンドラインインターフェイスを使用してインストールできます。この方法は、サポートされている Red Hat Enterprise Linux 5、6、および 7 のインストールに適しています。	<ul style="list-style-type: none"> 「JBoss EAP 6 のインストール (グラフィカル RPM インストール)」 「JBoss EAP 6 のインストール (テキストベースの RPM インストール)」

[バグの報告](#)

2.2. JBOSS EAP 6 のインストールの前提条件

JBoss EAP 6 の各インストールプロセスには、いくつかの前提条件があります。このセクションでは、一般的な要件と、インストール固有の要件について説明します。

表2.2 JBoss EAP 6 のインストールの前提条件

インストールタイプ	前提条件
一般的な要件	<ul style="list-style-type: none"> ● Red Hat カスタマーポータルでアカウントを設定します。詳細は、「Red Hat カスタマーポータル」を参照してください。 ● サポートされている設定を確認し、システムがサポートされていることを確認します https://access.redhat.com/articles/111663。 ● Red Hat がリリースした更新とエラータを適用し、システムが最新の状態であるようにしてください。
ZIP またはインストーラーの要件	<ul style="list-style-type: none"> ● インストールディレクトリーの管理者権限。 ● サポートされる Java Development Kit がインストールされている必要があります。 ● Microsoft Windows Server では、JAVA_HOME および PATH 環境変数が設定されている必要があります。設定されていないと、ショートカットが動作しません。 ● Hewlett-Packard HP-UX で、unzip ユーティリティーがインストールされていることを確認します。

インストールタイプ	前提条件
RPM の要件	<p>Red Hat Enterprise Linux 7 より、チャンネル という表現は リポジトリ に変更になりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Red Hat Network (Red Hat Enterprise Linux 5 および 6) に登録するか、Red Hat サブスクリプションマネージャー (Red Hat Enterprise Linux 7) を使用して、サーバーを登録します。登録プロセスの詳細については、https://access.redhat.com/documentation/ja-JP/Red_Hat_Subscription_Management/1/html/RHSM/index.html の『Red Hat サブスクリプションマネージャーの使用と設定』ガイドを参照してください。 ● サポートされる Java Development Kit がインストールされている必要があります。Java Development Kit RPM は、java 機能を提供してシステムにエクスポートする必要があります。 ● 以下のチャンネルをサブスクライブします。これは、Red Hat Enterprise Linux のすべてのバージョンとすべてのアーキテクチャーに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ Red Hat Enterprise Linux バージョンに適した Red Hat Enterprise Linux Server base と supplementary ソフトウェアチャンネル/リポジトリ。Java Development Kit のインストールには、supplementary チャンネル/リポジトリが必要です。 ○ JBoss Enterprise Application Platform チャンネルまたはリポジトリ。適切なチャンネルまたはリポジトリの詳細については、「RPM インストール」を参照してください。 ● ホストアーキテクチャーが ppc64 の場合は、次のチャンネル/リポジトリにサブスクライブします。 <ul style="list-style-type: none"> ○ Red Hat Enterprise Linux 6 は、rhel-ppc64-server-optional-6 チャンネルにサブスクライブします。 ○ Red Hat Enterprise Linux 7 は、rhel-7-for-power-server-optional-rpms-7Server リポジトリにサブスクライブします。 ● ホストアーキテクチャーが x86_64 の場合、追加の前提条件はありません。 ● 依存関係で JBoss EAP を使用するためにインストールする必要のあるパッケージのリストについては、「JBoss EAP 6 の RPM パッケージリスト」を参照してください。

バグの報告

2.3. ZIP インストール

2.3.1. JBoss EAP 6 のダウンロード (Zip インストール)

要件:

- 「[JBoss EAP 6 のインストールの前提条件](#)」

概要

JBoss EAP 6 の ZIP ファイルは Red Hat カスタマーポータルから入手できます。ZIP ファイルのインストールはプラットフォームに依存します。このトピックでは、アーカイブのダウンロード手順について説明します。

手順2.1 ZIP ファイルのダウンロード

1. ブラウザーを開き、<https://access.redhat.com> のカスタマーポータルにログインします。
2. **Downloads** をクリックします。
3. **Product Downloads** リストの **Red Hat JBoss Enterprise Application Platform** をクリックします。
4. **Version** ドロップダウンメニューから正しい JBoss EAP バージョンを選択します。
5. リストから **Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.x.x** を見つけ、**Download** オプションをクリックします。

結果

これで、JBoss EAP 6 がターゲットマシンにダウンロードされ、インストールの準備が整いました。

Zip インストールの次のステップ

- 「JBoss EAP 6 をインストールします (ZIP インストール)」

バグの報告

2.3.2. JBoss EAP 6 をインストールします (ZIP インストール)

Zip インストールの前のステップ

- 「JBoss EAP 6 のダウンロード (Zip インストール)」

概要

このトピックでは、ダウンロードした ZIP ファイルを使用して JBoss EAP 6 をインストールする手順について説明します。

手順2.2 ZIP ファイルのインストール

1. **ZIP アーカイブを目的の場所に移動します。**
ZIP ファイルを JBoss EAP 6 をインストールする予定のサーバーとディレクトリーに移動します。サーバーを起動および停止するユーザーは、このディレクトリーへの読み取りおよび書き込みアクセス権を持っている必要があります。
2. **適切なアプリケーションを使用して、ZIP アーカイブを目的の場所に展開します。**
Red Hat Enterprise Linux 環境では、**unzip** ユーティリティーを使用して ZIP アーカイブのコンテンツを展開します。

Microsoft Windows 環境では、ファイルを右クリックして **Extract All** を選択します。

Hewlett-Packard HP-UX 環境では、**unzip** ユーティリティーを使用して ZIP アーカイブのコンテンツを展開します。

結果

JBoss EAP 6 の正常なインストールの完了ZIP アーカイブを展開して作成されたディレクトリーは、サーバーの最上位ディレクトリーです。このディレクトリーを **EAP_HOME** と呼びます。

バグの報告

2.4. JBOSS EAP 6 のアンインストール (ZIP インストール)

前提条件

後のインスタンスで再使用される可能性がある変更された設定ファイルとデプロイメントを必ずバックアップしてください。

概要

このセクションでは、JBossEAP6 の Zip インストールをアンインストールするために必要な手順について説明します。

手順2.3 JBoss EAP 6 のアンインストール (Zip インストール)

1. Zip ファイルから JBoss EAP 6 フォルダーを抽出したディレクトリーに移動します。
2. **インストールディレクトリーを削除します。**
Zip インストールメソッドを使用すると、JBoss EAP 6 は単一のディレクトリーにインストールされます。インストールディレクトリーを削除して JBoss EAP 6 をアンインストールします。
3. **オプション: 作成した初期化スクリプトをすべて削除します。**
コンピューターにインストールする JBoss EAP 6 に依存する初期化スクリプトまたはその他のスクリプトを作成した場合、それらを削除します。

結果

JBoss EAP 6 がサーバーからアンインストールされます。

バグの報告

2.5. INSTALLER

2.5.1. JBoss EAP 6 (インストーラー) のダウンロード

要件:

- 「JBoss EAP 6 のインストールの前提条件」

概要

JBoss EAP 6 インストーラーアーカイブは、Red Hat カスタマーポータルから入手できます。**.jar** アーカイブを使用して、グラフィカルまたはテキストベースのインストーラーを実行できます。サポートされるすべてのプラットフォームで、インストーラーによる JBoss EAP 6 のインストールが推奨されます。このトピックでは、アーカイブのダウンロード手順について説明します。

手順2.4 インストーラーのダウンロード

1. ブラウザーを開き、<https://access.redhat.com> のカスタマーポータルにログインします。

2. **Downloads** をクリックします。
3. **Product Downloads** リストの **Red Hat JBoss Enterprise Application Platform** をクリックします。
4. **Version** ドロップダウンメニューから正しい JBoss EAP バージョンを選択します。
5. リストから **Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.x.x** インストーラー を見つけ、**Download** オプションをクリックします。

結果

これで、JBoss EAP 6 がターゲットマシンにダウンロードされ、インストールの準備が整いました。

インストーラー の次のステップ

- [「JBoss EAP 6 \(インストーラー\) のアンインストール」](#)

バグの報告

2.5.2. JBoss EAP インストールプログラムを実行します

JBoss EAP インストールプログラムは、グラフィカルモードまたはテキストモードで実行できます。このトピックでは、インストールプログラムをグラフィカルモードで実行するコマンドについて説明します。

手順2.5 JBoss EAP インストールプログラムを実行します

1. ターミナルを開き、ダウンロードしたインストールプログラムの JAR を含むディレクトリーに移動します。
2. 以下のコマンドを入力します。

```
java -jar jboss-eap-6.x.x-installer.jar
```



注記

Hewlett-Packard HP-UX または Solaris 環境では、`-d32/-d64` スイッチを使用して必要なアーキテクチャーを指定できます。以下のいずれかのコマンドを実行してインストーラーを起動します。

```
java -jar -d64 jboss-eap-6.x.x-installer.jar
```

または

```
java -jar -d32 jboss-eap-6.x.x-installer.jar
```

3. 以下の表の手順を実行します。

表2.3 JBoss EAP インストールプログラム画面

画面の名前	どのような場合に表示されるか	説明
「言語の選択」	Always	インストールプログラムに必要な言語を選択し、 OK をクリックします。
「使用許諾契約書」	Always	RED HAT JBOSS MIDDLEWARE のエンドユーザーライセンス契約。 I accept the terms of this license agreement を選択し、 Next をクリックします。
「インストールパス」	Always	JBoss EAP のインストールパスを選択し、 Next をクリックします。新しいディレクトリを作成するか、存在する場合は名前付きディレクトリを置き換えるように求められます。
「インストールするパックを選択します」	Always	インストールするパックを選択します。必要なパックは選択解除のために無効になっています。
「管理ユーザーの作成」	Always	管理ユーザーを作成し、パスワードを割り当てます。パスワードは 8 文字以上で、英字 1 文字、数字 1 文字、および英数字以外 1 文字を含む必要があります。 Next をクリックします。
「クイックスタートインストール」	Always	クイックスタートの例をインストールします。それらをインストールする場合は、 Yes を選択し、インストールパスを選択します。インストールしない場合は、 No を選択します。 Next をクリックします。
「Maven リポジトリのセットアップ」	クイックスタートの例をインストールすることを選択した場合	パブリックにホストされている Maven リポジトリは、クイックスタートで使用できます。デフォルトの選択では、このリポジトリを使用するようにインストールが自動的に設定されます。これは、クイックスタートを実行する最も簡単な方法です。必要に応じて、ローカルにインストールされたリポジトリへのパスを指定します。Maven 設定ファイルがデフォルトの場所がない場合はパスを指定します。
「ソケットバインディングのセットアップ」	Always	インストールでデフォルトのポートバインディングを使用するか、カスタムポートバインディングを設定するか、デフォルトバインディングのポートオフセットを設定します。カスタムバインディングを選択した場合は、ポートを設定するモード (スタンドアロンモード、ドメインモード、または両方のモード) を選択します。ポートオフセットを設定することを選択した場合は、オフセット番号を選択します。 ホストが IPv6 専用で設定されている場合は、 Enable pure IPv6 configuration チェックボックスを選択します。これにより、インストーラーによって必要な設定変更が行われます。 Next をクリックします。

画面の名前	どのような場合に表示されるか	説明
「スタンドアロン設定の カスタムソケットバイン ディング」	スタンドアロンモードに カスタムポートバイン ディングを設定するこ とを選択したとき。	さまざまなスタンドアロンモードのポートとシステム プロパティを設定し、 Next をクリックします。
「ドメイン設定のカスタ ムソケットバインディ ング」	ドメインモードにカスタ ムポートバインディ ングを設定するこ とを選択したとき。	さまざまなドメインモードのポートとシステムプロパ ティを設定し、 Next をクリックします。
「サーバーの起動」	Always	インストールプロセスの完了時に、優先するスター トアップオプションを選択します。 次へ をクリック します。
「ロギングレベルの設 定」	Always	ログレベルを設定するには Yes を選択し、この設 定を省略する場合は No を選択します。 Next をクリッ クします。
「ランタイム環境の設 定」	Always	デフォルト設定をインストールするには、 Perform default configuration を選択します。をインス トールします。高度な設定オプションのリストから 選択するには、 Perform advanced configuration を選択します。インストール後に詳 細オプションを設定することもできます。 Next をク リックします。
「パスワード vault の設 定」	ランタイム環境の詳細設 定でパスワード vault の インストールを選択した とき。	暗号化されたキーストアに機密パスワードをすべて 保存するようにパスワード vault を設定し、 Next を クリックします。詳細については、『管理および設 定ガイド』の『キーストアパスワードのマスクとパ スワード vault の初期化』を参照してください。
「SSL セキュリティー の設定」	ランタイム環境の詳細設 定で SSL セキュリ ティーの有効化を選択し たとき。	EAP 管理インターフェイスを保護するための SSL キーストアを設定します。 Next をクリックします。 詳細については、『セキュリティガイド』の 『SSL 暗号化キーと証明書の生成』を参照してくだ さい。 <div data-bbox="815 1615 1426 1995" style="background-color: #fff9c4; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div> <p>警告</p> <p>Red Hat は、影響するすべてのパッケージで TLSv1.1 または TLSv1.2 を利用するために SSL を明示的に無効化することを推奨しています。</p> </div> </div> </div>

画面の名前	どのような場合に表示されるか	説明
「LDAP の設定」	ランタイム環境の詳細設定で LDAP 設定の有効化を選択したとき。	LDAP ディレクトリーサーバーを管理コンソール、管理 CLI、または管理 API の認証ソースとして使用するよう LDAP 認証を有効にします。指定後に Next をクリックします。詳細については、『管理および設定ガイド』の『管理インターフェースに対する LDAP を使用した認証』を参照してください。
「Infinispan の設定」	ランタイム環境の詳細設定で Infinispan キャッシュのインストールを選択したとき。	キャッシュされたデータを管理するための Infinispan キャッシュを作成します。Infinispan に名前を付け、他のフィールドを設定して、 Next をクリックします。詳細については、『管理および設定ガイド』の『Infinispan』というタイトルの章を参照してください。
「セキュリティドメインの設定」	ランタイム環境の詳細設定でセキュリティドメインの追加を選択したとき。	PicketBox によって提供されるサービスを JBoss EAP サーバーインスタンスに組み込むようにセキュリティドメインを設定します。ほとんどのフィールドにはすでにデフォルト値が入力されており、変更する必要はありません。指定後に Next をクリックします。詳細については、『管理および設定ガイド』の『セキュリティドメイン』を参照してください。
「JDBC ドライバーのセットアップ」	ランタイム環境の詳細設定に JDBC ドライバーをインストールすることを選択したとき。	JDBC ドライバーをインストールしてセットアップし、アプリケーションコードを関連するデータベース言語に変換します。Driver Vendor ドロップダウンリストに表示されるサポート対象ドライバーのリストから適切なドライバーを選択します。詳細については、『管理および設定ガイド』の『データソース管理』というタイトルの章を参照してください。
「データソースのセットアップ」	ランタイム環境の詳細設定にデータソースをインストールすることを選択したとき。	アプリケーションが使用できるデータソースを設定します。データソース名を指定し、他のフィールドを設定して、 Next をクリックします。詳細については、『管理および設定ガイド』の『データソースの設定』を参照してください。
「インストールコンポーネントを確認する」	Always	選択内容を確認して、 Next をクリックします。
「インストールの進捗」	Always	インストールの進行が完了したら、 Next をクリックします。
「インストール処理が完了しました」	Always	処理が終了したら、 Next をクリックします。

画面の名前	どのような場合に表示されるか	説明
「ショートカットを作成する」	Always	Create shortcuts in the Start-Menu チェックボックスを選択してショートカットを作成し、適切なオプションを使用してショートカットを設定します。英数字、ダッシュ (-)、およびアンダースコア () のみを使用できます。Microsoft Windows では、スラッシュ (/) および バックスラッシュ (\) みを使用できます。 Next をクリックしてショートカットを作成します。
「インストールスクリプトを生成する」	Always	選択したインストールオプションをキャプチャする場合は、 Generate installation script and properties file をクリックします。次に、 Done をクリックします。 インストールが完了しました。

手順2.6 テキストベースのインストールプロセス

1. ターミナルを開き、ダウンロードしたインストールプログラムの JAR を含むディレクトリーに移動します。
2. 次のコマンドを実行して、テキストベースのインストーラーを起動します。

```
java -jar jboss-eap-6.x.x-installer.jar -console
```

3. 手順に従って JBoss EAP 6 をインストールします。

結果

インストールが完了し、JBoss EAP 6 がターゲットマシンにインストールされます。

バグの報告

2.5.3. JBoss EAP 6 (インストーラー) のアンインストール

インストーラー の前のステップ

- 「JBoss EAP 6 (インストーラー) のダウンロード」

概要

このセクションでは、グラフィカルまたはテキストベースのインストーラーを使用してインストールされた JBoss EAP 6 のインスタンスをアンインストールするために必要な手順について詳しく説明します。

手順2.7 JBoss EAP 6 のアンインストール (グラフィカルインストール)

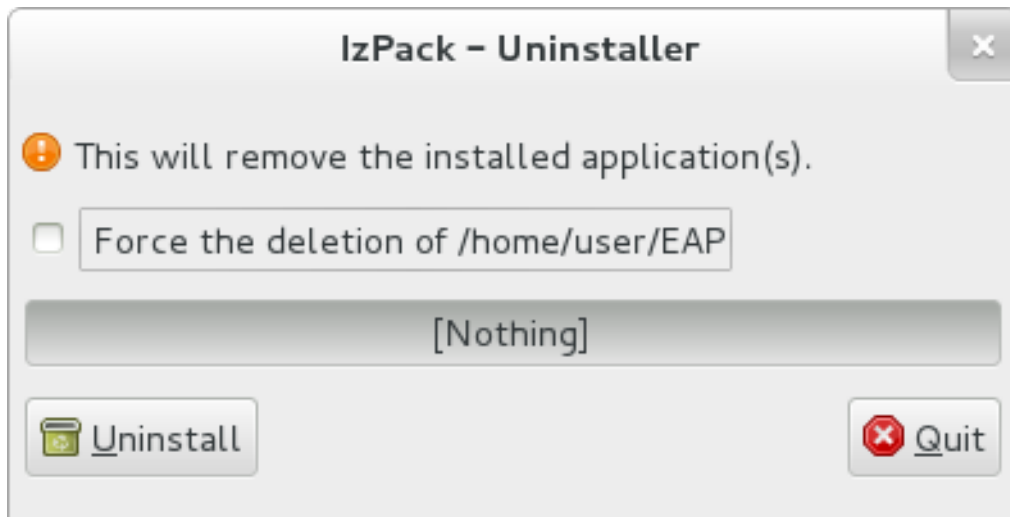
1. ターゲットマシンへの JBoss EAP 6 のインストール中に、JBoss EAP 6 をインストールしたディレクトリーに **Uninstaller** というディレクトリーが作成されます。このディレクトリーには、**uninstaller.jar** というファイルが含まれています。ターミナルウィンドウでこのディレクトリーに移動します。

2. 次のコマンドを実行して、GUI アンインストーラーを起動します。

```
java -jar uninstaller.jar
```

コマンドを実行すると、下図のとおり、グラフィカルアンインストーラーが起動します。JBoss EAP 6 インストールディレクトリーを削除したい場合はチェックボックスを選択します。

図2.1 グラフィカルアンインストーラーを使用して JBoss EAP 6 をアンインストール



3. **Uninstall** ボタンを押して、アンインストールプロセスを開始します。
4. アンインストールプロセスが終了したら、**Quit** ボタンを押してアンインストーラーを終了します。アンインストールが成功したら、アンインストーラーを起動した場所から **Uninstaller** ディレクトリーを手動で削除することをお勧めします。

手順2.8 テキストベースのアンインストールプロセス

1. コンソールで、インストールプロセス中に作成された **Uninstaller** ディレクトリーに移動します。これは、`EAP_HOME` の1つ上のレベルにあります。
2. 次のコマンドを実行して、テキストベースのアンインストーラーを起動します。

```
java -jar uninstaller.jar -console
```

3. 手順に従って JBoss EAP 6 をアンインストールします。

結果:

JBoss EAP 6 がサーバーからアンインストールされます。

[バグの報告](#)

2.6. RPM インストール

2.6.1. JBoss EAP 6 ソフトウェアチャネルについて

RPM を介して JBoss EAP 6 をインストールするには、いくつかのソフトウェアチャネルへのサブスクリプションが必要です。『Red Hat Enterprise Linux Server』ベースソフトウェアチャネルと、特定の JBossEAP6 チャネルの両方へのサブスクリプションが必要です。



注記

Red Hat Enterprise Linux 7 より、**channel** という表現は **repository** に変更になりました。ここでの手順では、**channel** という用語のみが使用されています。

JBoss EAP 6.3.2 までは、JBoss EAP チャンネルの選択は、Red Hat Enterprise Linux のバージョンとハードウェアアーキテクチャーによって **のみ** 決定されます。これに対するサブスクリプションである **現在の** チャンネルは、最新の JBoss EAP リリースを提供します。

JBoss EAP 6.3.3 から、現在の JBoss EAP チャンネル、または特定のマイナーリリースと該当するすべてのパッチを提供する **マイナー** チャンネルのいずれかにサブスクライブできます。これにより、JBoss EAP 6 の同じマイナーバージョンを維持しながら最新の深刻度が高いパッチとセキュリティーパッチを適用できます。



警告

RPM パッケージを使用して JBoss Web Server 3 と JBoss EAP 6 の両方を同じマシンにインストールすると、ライブラリーバージョンの競合が発生します。この問題を回避するには、RPM インストールメソッドを使用して JBoss Web Server 3 または JBoss EAP 6 のいずれかをインストールし、もう一方を ZIP インストールメソッドを使用してインストールします。

バグの報告

2.6.2. JBoss EAP チャンネルの命名規則

現在のチャンネルの命名規則は、**jbappplatform-6-ARCHITECTURE-server-6-rpm** です。x86_64 アーキテクチャーおよび Red Hat Enterprise Linux 6 に JBoss EAP 6.4 をインストールするには、**jbappplatform-6-x86_64-server-6-rpm** チャンネルへのサブスクリプションが必要です。

Red Hat Enterprise Linux 5 および Red Hat Enterprise Linux 6 のマイナーバージョンチャンネルの命名規則は、**jbappplatform-EAP_VERSION-ARCHITECTURE-server-RHEL_VERSION-rpm** です。

Red Hat Enterprise Linux 7 のマイナーバージョンチャンネルの命名規則は、x86_64 アーキテクチャーの場合は **jb-eap-EAP_VERSION-for-rhel-7-server-rpms**、ppc64 アーキテクチャーの場合は **jb-eap-EAP_VERSION-for-rhel-7-for-power-rpms** です。

EAP_VERSION

これは、JBoss EAP のメジャーおよびマイナーバージョンです。EAP_VERSION の値が **6.4** の場合は JBoss EAP 6.4 がインストールされ、値が **6** の場合は JBoss EAP 6 がインストールされます。

アーキテクチャー

これは、**i386**、**x86_64**、または **ppc** のいずれかです。

RHEL_VERSION

これは、Red Hat Enterprise Linux 5 の場合は **5**、Red Hat Enterprise Linux 6 の場合は **6**、Red Hat Enterprise Linux 7 の場合は **7** のです。

バグの報告

2.6.3. JBoss EAP 6 の現在のチャンネルにサブスクライブする方法

サブスクリプションコマンドは、登録メソッドにより異なります (Red Hat Subscription Manager または Red Hat Network Classic)。Red Hat Subscription Manager は、Red Hat Enterprise Linux 7 で使用できる唯一のメソッドです。

Red Hat Subscription Manager:

1. Red Hat Subscription Manager を使用して、Red Hat Enterprise Linux システムがお使いのアカウントに登録されている必要があります。詳細は、[Red Hat Subscription Management のドキュメント](#) を参照してください。
2. 次のコマンドを入力して、JBoss EAP 6 の現在のリポジトリにサブスクライブします。

```
subscription-manager repos --enable=jb-eap-6-for-rhel-7-server-rpms
```

Red Hat Network Classic の場合:

1. Red Hat Network Classic を使用して Red Hat Enterprise Linux システムがアカウントに登録されていることを確認します。詳細については、<https://access.redhat.com/solutions/11216> カスタマーポータルソリューションを参照してください。
2. 次のコマンドを入力して、JBoss EAP 6 の現在のチャンネルにサブスクライブします。

```
rhn-channel --add -c jbappplatform-6-x86_64-server-6-rpm
```



注記

指定されたソフトウェアチャンネルが存在しない場合、**rhn-channel** コマンドはエラーメッセージを提供しません。続行する前に、サブスクライブされているチャンネルを一覧表示し、登録に成功したことを確認してください。これを行うには、次のコマンドを入力します。

```
rhn-channel -l
```

バグの報告

2.6.4. JBoss EAP 6 マイナーチャンネルにサブスクライブする方法

サブスクリプションコマンドは、登録メソッドにより異なります (Red Hat Subscription Manager または Red Hat Network Classic)。Red Hat Subscription Manager は、Red Hat Enterprise Linux 7 で使用できる唯一のメソッドです。

Red Hat Subscription Manager:

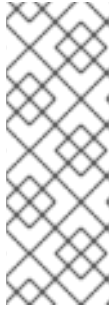
1. Red Hat Subscription Manager を使用して、Red Hat Enterprise Linux システムがお使いのアカウントに登録されている必要があります。詳細は、[Red Hat Subscription Management のドキュメント](#) を参照してください。
2. 次のコマンドを入力して、JBoss EAP 6 マイナーリポジトリにサブスクライブします。

```
subscription-manager repos --enable=jb-eap-6.4-for-rhel-7-server-rpms
```

Red Hat Network Classic の場合:

1. Red Hat Network Classic を使用して Red Hat Enterprise Linux システムがアカウントに登録されていることを確認します。詳細については、<https://access.redhat.com/solutions/11216> カスタマーポータルソリューションを参照してください。
2. 次のコマンドを入力して、JBoss EAP 6 マイナーチャンネルにサブスクライブします。

```
rhn-channel --add -c jbossplatform-6.4-x86_64-server-6-rpm
```



注記

指定されたソフトウェアチャンネルが存在しない場合、**rhn-channel** コマンドはエラーメッセージを提供しません。続行する前に、サブスクライブされているチャンネルを一覧表示し、登録に成功したことを確認してください。これを行うには、次のコマンドを入力します。

```
rhn-channel -l
```

バグの報告

2.6.5. サブスクリプションチャンネルの変更のサポート

JBoss EAP 6.3.3 (またはそれ以降) インストールのライフサイクルの間に、サブスクライブする JBoss EAP チャンネルを変更する必要がある可能性があります。チャンネル間の変更はサポートされていますが、次の条件があります。

現在のチャンネルからマイナーチャンネルへの変更

最新の マイナーチャンネルに変更する場合にサポートされます。

現在のマイナーチャンネルから別のマイナーチャンネルへの変更

JBoss EAP の次のマイナーバージョンへ変更する場合はサポートされます。たとえば、JBoss EAP 6.3 から JBoss EAP 6.4 への変更は**サポートされます**が、JBoss EAP 6.3 から JBoss EAP 6.5 への変更は**サポートされません**。

マイナーチャンネルから現在のチャンネルへの変更

最新の マイナーチャンネルから変更する場合にサポートされます。

バグの報告

2.6.6. 現在のチャンネルからマイナーチャンネルに変更する方法

Red Hat Enterprise Linux システムが **current** チャンネルにサブスクライブされており、代わりに **minor** チャンネルに切り替える場合は、この手順を実行します。そうすることで、システムが JBoss EAP 6.4 RPM の更新のみを受信し、それ以降のバージョンに更新されないようにします。

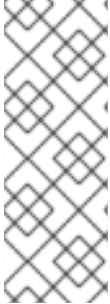
チャンネルを変更する前に、JBoss EAP インストールに該当するすべての更新が適用されていることを確認する必要があります。

Red Hat Classic の場合、次のコマンドを入力してホストを更新し、**current** チャンネルからサブスクライブを解除して、代わりに **minor** チャンネルにサブスクライブします。

```
yum update
```

```
rhn-channel --remove -c jbappplatform-6-x86_64-server-6-rpm
```

```
rhn-channel --add -c jbappplatform-6.4-x86_64-server-6-rpm
```



注記

指定されたソフトウェアチャンネルが存在しない場合、**rhn-channel** コマンドはエラーメッセージを提供しません。続行する前に、サブスクライブされているチャンネルを一覧表示し、登録に成功したことを確認してください。これを行うには、次のコマンドを入力します。

```
rhn-channel -l
```

Red Hat サブスクリプションマネージャーの場合、次のコマンドを入力してホストを更新し、**current** チャンネルからサブスクライブを解除して、代わりに **minor** チャンネルにサブスクライブします。

```
yum update
```

```
subscription-manager repos --disable=jb-eap-6-for-rhel-7-server-rpms --enable=jb-eap-6.4-for-rhel-7-server-rpms
```

バグの報告

2.6.7. JBoss EAP 6 のインストール (グラフィカル RPM インストール)

要件:

- [「JBoss EAP 6 のインストールの前提条件」](#)

概要

JBoss EAP 6 をインストールするグラフィカル RPM パッケージ方式は、Red Hat Enterprise Linux 5 および Red Hat Enterprise Linux 6 で使用できます。このトピックでは、インストールを完了するために必要な手順について説明します。

手順2.9 JBoss EAP 6 のインストール (グラフィカル RPM インストール)

PackageKit を使用して、JBoss EAP 6 をターゲットマシンにグラフィカルにインストールします。

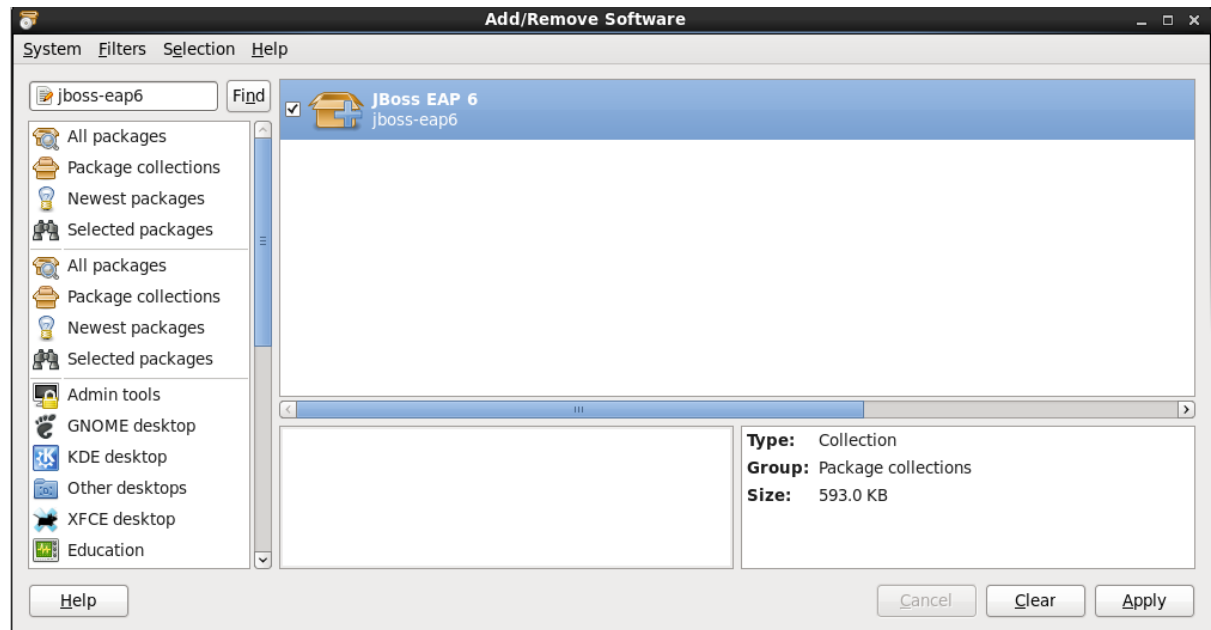
1. PackageKit を起動します。

PackageKit は、Red Hat Enterprise Linux の一部としてインストールされるオープンソースのパッケージ管理ソフトウェアです。ターゲットマシンで、**System** → **Administration** → **Add/Remove Software** を選択して PackageKit を起動します。

2. 検索ボックスに **jboss-eap6** と入力し、**Find** ボタンを押します。結果ボックスに JBoss EAP 6 パッケージが表示されます。

- JBoss EAP 6 パッケージを選択し、**Apply** ボタンを押します。下の図を参照してください。

図2.2 JBoss EAP 6 PackageKit のインストール



- 残りの手順に従って、JBoss EAP 6 をターゲットマシンにインストールします。

結果

インストールが完了し、JBoss EAP 6 がターゲットマシンにインストールされます。

バグの報告

2.6.8. JBoss EAP 6 のインストール (テキストベースの RPM インストール)

要件:

- 「JBoss EAP 6 のインストールの前提条件」

概要

JBoss EAP 6 をインストールする RPM パッケージ方式は、Red Hat Enterprise Linux 5、Red Hat Enterprise Linux 6、Red Hat Enterprise Linux 7 に適しています。このトピックでは、コマンドラインを使用してインスタンスをインストールするために必要な手順について説明します。

手順2.10 JBoss EAP 6 のインストール (テキストベースの RPM インストール)

- RPM パッケージをインストールします

YUM を使用して、**groupinstall** コマンドでデフォルトの JBoss EAP 6 グループパッケージをインストールします。

```
yum groupinstall jboss-eap6
```

- 初期化オプションを設定します。

RPM インストールには、サーバーを起動するための初期化スクリプトが含まれています。初期化スクリプトの設定は、いくつかの追加ファイルに含まれています。これらのファイルとそれに含まれるオプションの詳細については「JBoss EAP 6 の RPM インストール設定ファイル」を参照してください。

結果

インストールが完了しました。RPM インストールのデフォルトの **EAP_HOME** パスは **/usr/share/jbossas** です。インストールされているすべてのパッケージの完全なリストについては、「[JBoss EAP 6 の RPM パッケージリスト](#)」を参照してください。

バグの報告

2.6.9. RPM サービスプロパティの設定

本項では、RPM サービスプロパティと JBoss EAP インストールのその他の起動オプションを設定する方法について説明します。変更を行う前に設定ファイルをバックアップすることが推奨されます。

RPM インストールで使用可能なすべてのスタートアップコンフィギュレーションオプションのリストについては、「[JBoss EAP 6 の RPM インストール設定ファイル](#)」を参照してください。

- サーバー設定ファイルを指定します。
 - スタンドアロンサーバーを起動する場合、デフォルトで **standalone.xml** ファイルが使用されます。管理対象ドメインで実行する場合、デフォルトで **host.xml** ファイルが使用されます。他の設定ファイルを使用して JBoss EAP を起動するには、適切な RPM 設定ファイル (例: **/etc/sysconfig/jbossas**) に **JBOSS_SERVER_CONFIG** プロパティを設定します。RPM 設定ファイルのリストについては、「[JBoss EAP 6 の RPM インストール設定ファイル](#)」を参照してください。

```
JBOSS_SERVER_CONFIG="standalone-full-ha.xml"
```

- JVM オプションまたは Java プロパティを設定します。
 - JBoss EAP の起動スクリプトに渡す JVM オプションまたは Java プロパティを指定するには、起動設定ファイルを編集します。スタンドアロンサーバーの場合、このファイルは **EAP_HOME/bin/standalone.conf** になります。管理対象ドメインの場合、このファイルは **EAP_HOME/bin/domain.conf** になります。以下の例は、ヒープサイズを設定し、JBoss EAP 管理インターフェースを指定の IP アドレスにバインドします。

```
JAVA_OPTS="$JAVA_OPTS -Xms2048m -Xmx2048m"
JAVA_OPTS="$JAVA_OPTS -Djboss.bind.address.management=192.168.0.1"
```

バグの報告

2.7. 自動インストール

2.7.1. JBoss EAP 6 の複数インスタンスのインストール (インストーラー)

前提条件

- グラフィカルまたはテキストベースのインストーラーを使用して、自動インストールスクリプトを生成します。
 - .「[JBoss EAP インストールプログラムを実行します](#)」

概要

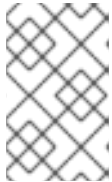
JBoss EAP 6 の複数の同一インスタンスは、グラフィカルまたはテキストベースのインストーラーを使

用して、インストールプロセス中に生成された自動インストールスクリプトを使用してインストールできます。このトピックでは、生成されたスクリプトを使用して JBoss EAP 6 をインストールするために必要な手順について説明します。

手順2.11 自動インストール

- ターミナルで次のコマンドを実行し、自動インストールスクリプトを使用して JBoss EAP 6 をインストールします。

```
java -jar jboss-eap-6.x.x-installer.jar auto.xml
```



備考

自動インストールに自動インストールスクリプト (auto.xml) を使用すると、インストーラーはデフォルトですべてのパスワードを入力するためのプロンプトを生成します。

結果

自動インストールスクリプトに基づいて、JBoss EAP 6 の同一インスタンスがインストールされました。

[バグの報告](#)

2.7.2. 各種ソースからの自動インストールスクリプト (auto.xml) を使用した JBoss EAP 6 のインストール

インストーラーは、実行されている場所に関係なく、ネットワーク上の任意の場所から自動インストールスクリプト (**auto.xml**) を使用できます。したがって、インストーラー (**jboss-eap-6.xx-installer.jar**) と自動インストールスクリプト (**auto.xml**) を異なるマシンに配置できます。このトピックでは、ネットワーク上の別の場所から JBoss EAP 6 を自動的にインストールする手順について説明します。

- ターミナルで次のコマンドのいずれかを入力して、ネットワーク上の現在の場所に自動インストールスクリプト (別のネットワーク上の場所にある) を指定します。

HTTP 経由でインストールスクリプトにアクセスするには、次のコマンドを入力し、**network-host** を FTP または HTTP サーバーのホスト名に置き換え、**auto.xml** をインストールスクリプトのファイル名に置き換えます。

```
java -jar jboss-eap-6.x.x-installer.jar http://network-host/auto.xml
```

FTP 経由でインストールスクリプトにアクセスするには、次のコマンドを入力します。

```
java -jar jboss-eap-6.x.x-installer.jar ftp://network-host/auto.xml
```

結果

JBoss EAP 6 がマシンにインストールされました。

[バグの報告](#)

2.8. 自動インストールアプローチ

2.8.1. 自動インストールアプローチについて

前提条件

インストーラーを実行し、グラフィカルまたはテキストベースのインストーラーを使用して自動インストールスクリプトを生成します (「JBoss EAP インストールプログラムを実行します」)。

概要

インストーラーによって生成された自動インストールスクリプトを使用して、JBoss EAP 6 を自動的にインストールする方法は 2 つあります。

- まず、自動インストールに必要なすべてのキー/パスワードの値を自動インストール変数ファイルに指定する方法です。
- 次に、インストール時にキー/パスワードの値を指定する方法です。

バグの報告

2.8.2. 自動インストール変数ファイルでキー/パスワード値を事前設定して JBoss EAP 6 をインストール

自動インストール変数ファイルにキー/パスワード値を事前設定することにより、JBoss EAP 6 を自動的にインストールするには、以下の手順を使用します。

手順2.12

1. 変数ファイルにキー値を入力します。

JBoss EAP 6 インストーラーは、自動インストールスクリプトと自動インストール変数ファイルを作成します。自動インストール変数ファイルには、自動インストールに必要なキーとパスワードのパラメーターのリストが含まれています。キー値を入力するには、自動インストール変数ファイルを開きます。各キーパラメーターに対して有効なキー/パスワード値を入力します。以下に例を示します。

```
adminPassword = password#2
vault.keystorepwd = vaultkeystorepw
ssl.password = user12345
```

2. 可変ファイル filename 引数を指定してインストーラーを実行し、自動インストールを開始します。

variablefile 引数を指定してインストーラーを実行することにより、完全に自動化された JBoss EAP インストールを開始できます。この引数は、変数ファイルのキー/パスワード値 (手順 1) をインストーラーに提供します。完全自動インストールを開始するには、ターミナルを開き、**auto.xml** と **auto.xml.variables** をファイルの名前に置き換えて次のコマンドを入力します。

```
java -jar jboss-eap-6.x.x-installer.jar auto.xml -variablefile auto.xml.variables
```

結果

JBoss EAP 6 がマシンにインストールされました。

バグの報告

2.8.3. インストール中にキー値/パスワードを指定してJBoss EAP 6 を自動的にインストール

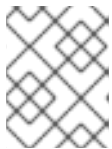
次の手順で、インストール中にキー値/パスワードを指定して、JBoss EAP 6 を自動的にインストールします。

手順2.13

- **変数引数を使用してインストーラーを実行します**

variables 引数を指定してインストーラーを実行し、変数リストを指定して、自動インストールを開始します。**variables** は、インストール中に変数とそのキーまたはパスワードの値を指定します。インストールプロセスを開始するには、ターミナルを開き、ファイル名 **auto.xml** と変数の値を独自のものに置き換えて次のコマンドを入力します。

```
java -jar jboss-eap-6.x.x-installer.jar auto.xml -variables
adminPassword=password#2,vault.keystorepwd=vaultkeystorepwd,ssl.password=user12345
```



備考

正常にインストールするには、変数名 (adminPassword、keystorepwd、ssl.password) を空のスペースなしで指定することが重要です。

バグの報告

2.9. ネイティブコンポーネントとユーティリティーのインストール

ネイティブコンポーネントは、特定のオペレーティングシステムとアーキテクチャー用に最適化するためにコンパイルされたオプションのコンポーネントです。場合によっては、ネイティブコンポーネントを使用するとパフォーマンスが向上することがあります。ネイティブコンポーネントには、HornetQ (AIO) のネイティブサポートと Tomcat Native Library が含まれます。詳細については、「[Red Hat Enterprise Linux で JBossEAP6 をサービスとして設定 \(Zip、インストーラー\)](#)」および『[管理および設定ガイド](#)』の『Jsvc』セクションを参照してください。

ネイティブユーティリティーは、サポートされている各オペレーティングシステムとアーキテクチャーに固有のオプションのユーティリティーです。これには、JBoss EAP 6 をサービスとしてオペレーティングシステムにインストールし、SSL 暗号化キーと証明書を生成するためのスクリプトとユーティリティーが含まれます。

ネイティブコンポーネントとネイティブユーティリティーに加えて、Web サーバーコネクタネイティブが負荷分散とクラスターリングに使用されます。Web サーバーコネクタネイティブを設定するには、『[管理および設定ガイド](#)』を参照してください。

バグの報告

2.9.1. ネイティブコンポーネントとネイティブユーティリティーのインストール (Zip、インストーラー)

前提条件

- Zip インストール、グラフィカルインストーラー、またはテキストベースインストーラーを使用して JBoss EAP 6 をインストールします。
 - 「[JBoss EAP 6 をインストールします \(ZIP インストール\)](#)」。

- 「JBoss EAP インストールプログラムを実行します」
- JBoss EAP 6 サーバーの管理 CLI または管理コンソールにアクセスします。『管理および設定ガイド』の『管理 CLI の起動』または『管理コンソールへのログイン』を参照してください。
- Red Hat Enterprise Linux 6 および 7 環境のネイティブコンポーネントの場合、以下を実行します。
 - Apache Portability Runtime (APR) および OpenSSL ライブラリーがインストールされ、公式リポジトリで利用可能な最新バージョンに更新されていることを確認します。最新の JBoss EAP ネイティブコンポーネントには古いバージョンの OpenSSL では利用できない機能が必要なため、古い OpenSSL ライブラリーは問題を引き起こす可能性があります。それらが更新されていることを確認するには、ターミナルを開き、次のコマンドを入力します。


```
sudo yum update apr apr-util openssl
```
 - JBoss EAP ネイティブコンポーネントの一部である Tomcat Native Library を使用する場合は、インストールする前にオペレーティングシステムパッケージ **tomcatjss** を削除する必要があります。
- HP-UX 環境のネイティブコンポーネントの場合、OpenSSL をインストールする必要があります。

手順2.14 ネイティブコンポーネントのダウンロードとインストール

1. Red Hat カスタマーポータルからオペレーティングシステムとアーキテクチャーのネイティブコンポーネントパッケージをダウンロードします。パッケージは、「JBoss EAP 6 のダウンロード (Zip インストール)」で指定されたのと同じ場所からダウンロードできます。
2. ダウンロードしたネイティブコンポーネントの zip アーカイブを JBoss EAP 6 インストールで解凍します。

EAP_HOME/modules/system/layers/base/org/jboss/as/web/main/lib/ に、オペレーティングシステムとアーキテクチャー用の新しいフォルダーがあるかどうかを確認することで、抽出の成功を確認できます。

3. 管理 CLI を使用して、次のコマンドで Web サブシステムのネイティブコンポーネントをアクティブ化します。

```
/subsystem=web:write-attribute(name=native,value=true)
```

4. JBoss EAP 6 サーバーを再起動して変更を適用します。

手順2.15 ネイティブユーティリティーのダウンロードとインストール

1. Red Hat カスタマーポータルからオペレーティングシステムとアーキテクチャー用のネイティブユーティリティーパッケージをダウンロードします。パッケージは、「JBoss EAP 6 のダウンロード (Zip インストール)」で指定されたのと同じ場所からダウンロードできます。
2. ダウンロードしたネイティブコンポーネントの zip アーカイブを JBoss EAP 6 インストールで解凍します。

EAP_HOME/modules/system/layers/base/ に **native** ディレクトリーがあるかどうかを確認することで、抽出が成功したことを確認できます。

3. 特定のネイティブユーティリティー機能を設定するには、JBoss EAP ドキュメントスイートおよび Red Hat カスタマーポータルに記載されている手順を参照してください。

バグの報告

2.9.2. ネイティブコンポーネントとネイティブユーティリティーのインストール (RPM インストール)

RPM インストール方法を使用して EAP をインストールした場合にのみ、RPM インストール方法を使用して、ネイティブコンポーネント、ユーティリティー、および対応するすべての依存関係をインストールできます。ネイティブをインストールする RPM パッケージ方法は、Red Hat Enterprise Linux 5、6、および 7 に適しています。このトピックでは、コマンドラインを使用してネイティブコンポーネントとユーティリティーをインストールするために必要な手順について説明します。

前提条件

- 「JBoss EAP 6 のインストールの前提条件」

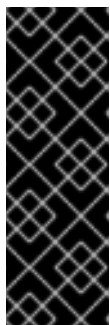
手順2.16 ネイティブコンポーネントとネイティブユーティリティーのインストール

1. ネイティブコンポーネントとユーティリティーをインストールします。

Red Hat Enterprise Linux 5、6、および 7 にネイティブコンポーネントとユーティリティー（およびそれらの依存関係）をインストールするには、管理者アカウントを使用して次のコマンドを実行します。その際に、**package_name** をインストールする必要があるネイティブコンポーネントの名前に置き換えます。

```
yum install package_name
```

次のネイティブコンポーネントをインストールできます: **mod_cluster-native**、**mod_jk**、**mod_rt**、**mod_snmp**、**apache-commons-daemon-jsvc-eap6**、**httpd**、**httpd-devel**、**jbosscas-hornetq-native**、**jbosscas-jbossweb-native**。



重要

yum groupinstall jboss-eap6 コマンドを実行して JBoss EAP 6 グループパッケージをインストールすると、デフォルトでネイティブコンポーネントである **jbosscas-hornetq-native** および **jbosscas-jbossweb-native** がインストールされます。JBoss EAP 6 のインストールで「JBoss EAP 6 のインストール (グラフィカル RPM インストール)」または「JBoss EAP 6 のインストール (テキストベースの RPM インストール)」を使用した場合、**jbosscas-hornetq-native** と **jbosscas-jbossweb-native** をインストールする必要はありません。



注記

特定のネイティブコンポーネントをインストールするには、正しいパッケージ名を指定することが重要です。パッケージ名では大文字と小文字が区別されます。Red Hat Enterprise Linux 7 では、**httpd** パッケージの名前は **httpd22** です。したがって、Red Hat Enterprise Linux 7 に Apache HTTP サーバーをインストールするために **yum install package_name** コマンドを実行する場合、パッケージ **httpd** を **httpd22** に置き換える必要があります。

2. サーバーの再起動

JBossEAP6 サーバーを再起動して変更を適用します。

[バグの報告](#)

2.10. サービス設定

2.10.1. Red Hat Enterprise Linux で JBoss EAP 6 をサービスとして設定 (RPM メソッド)

前提条件

- RPM 方法 (グラフィカルまたはテキストベース) を使用して JBoss EAP 6 をインストールしている。
 - [「JBoss EAP 6 のインストール \(グラフィカル RPM インストール\)」](#)
 - [「JBoss EAP 6 のインストール \(テキストベースの RPM インストール\)」](#)
- サーバーの管理者権限が必要です。



重要

単一のマシン上に複数の JBoss EAP インスタンスをシステムサービスとして設定することはサポートされません。

概要

RHN (RPM) 方法でインストールされた場合、次の手順を使用して、JBoss EAP 6 をサービスとして Red Hat Enterprise Linux にインストールします。

手順2.17 Red Hat Enterprise Linux で RPM メソッドを使用して JBoss EAP 6 をサービスとして設定

1. **JBoss EAP 6 をインストールします。**
上記の前提条件セクションにリストされている手順の1つを使用し、RPM メソッドを介して JBoss EAP 6 をインストールします。
2. **サービスを有効にします。**
JBoss EAP 6 の RPM インストール方法は、必要なサービスファイルを正しい場所にインストールします。サービスとして設定するために必要なのは、次のコマンドを発行することだけです。

```
chkconfig jbossas on
```

ドメインモードでサービスとして設定するには、次のコマンドを発行します。

```
chkconfig jbossas-domain on
```

結果

JBoss EAP 6 は、Red Hat Enterprise Linux がデフォルトの実行レベルに達すると自動的に起動し、オペレーティングシステムがシャットダウンルーチンを実行すると自動的に停止します。

バグの報告

2.10.2. Red Hat Enterprise Linux で JBossEAP6 をサービスとして設定 (Zip、インストーラー)

前提条件

- Zip インストール、グラフィカルインストーラー、またはテキストベースインストーラーを使用して JBoss EAP 6 をインストールします。
 - 「JBoss EAP 6 をインストールします (ZIP インストール)」。
 - 「JBoss EAP インストールプログラムを実行します」。
- サーバーの管理者権限が必要です。

概要

インストールが zip、テキスト、またはグラフィカルな方法で行われた場合、次の手順を使用して、JBoss EAP 6 をサービスとして Red Hat Enterprise Linux にインストールします。RHN (RPM) 方法を使用してインストールが行われた場合、このプロセスは適用されません。

手順2.18 サービスの設定



注記

以下の手順では、JBoss EAP 6 をサービスとしてスタンドアロンモードで実行する方法について説明します。JBoss EAP 6 をサービスとしてドメインモードで実行するには、同じ手順を使用しますが、**jboss-as-standalone.sh** を **jboss-as-domain.sh** に置き換えます。

1. **起動スクリプトと設定ファイルを見つけます。**
起動スクリプトと関連の設定ファイルは **EAP_HOME/bin/init.d/** ディレクトリーにあります。
2. **jboss-eap.conf ファイルの起動オプションをカスタマイズします。**
ファイル **jboss-as.conf** をテキストエディターで開きます。**jboss-as.conf** ファイルにはいくつかのオプションがあります。少なくとも、**JBOSS_HOME** および **JBOSS_USER** 変数の値を正しく指定ください。これらの変数がない場合は追加します。
3. **ファイルをシステムディレクトリーにコピーします。**
 - a. まだ存在しない場合は **/etc/jboss-as** を作成します。

```
sudo mkdir /etc/jboss-as
```
 - b. 変更した設定ファイルを **/etc/jboss-as** ディレクトリーにコピーします。

```
sudo cp EAP_HOME/bin/init.d/jboss-as.conf /etc/jboss-as
```
 - c. 起動スクリプトを **/etc/init.d** ディレクトリーにコピーします。

```
sudo cp EAP_HOME/bin/init.d/jboss-as-standalone.sh /etc/init.d
```

起動スクリプトを実行可能にします。

```
sudo chmod +x /etc/init.d/jboss-as-standalone.sh
```

4. 起動スクリプトをサービスとして追加します。

jboss-as-standalone.sh サービス管理コマンドを使用して、自動的に起動されるサービスのリストに新しい **jboss-eap-rhel.sh** サービスを追加します。

```
sudo chkconfig --add jboss-as-standalone.sh
```

5. サービスを起動します。

Red Hat Enterprise Linux の次のコマンドのいずれかを使用して、サービスが正しくインストールされていることをテストします。

- Red Hat Enterprise Linux 5 および 6 の場合:

```
sudo service jboss-as-standalone.sh start
```

- Red Hat Enterprise Linux 7 の場合:

```
sudo service jboss-as-standalone start
```

すべてが正常に行われた場合は、緑色の OK が表示されます。エラーが発生した場合は、エラーログを確認し、設定ファイルでパスが正しいことを確認してください。



注記

Red Hat Enterprise Linux 7 では緑色の OK は表示されません。

6. サーバーを再起動すると、サービスが自動的に開始されるようにします。

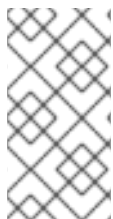
サーバーの再起動時に自動的に開始されるサービスのリストにサービスを追加するには、次のコマンドを発行します。

```
sudo chkconfig jboss-as-standalone.sh on
```

結果

JBoss EAP 6 は、Red Hat Enterprise Linux がデフォルトの実行レベルに達すると自動的に起動し、オペレーティングシステムがシャットダウンルーチンを実行すると自動的に停止します。

手順2.19 Red Hat Enterprise Linux から JBoss EAP 6 サービスをアンインストール



注記

以下の手順では、JBoss EAP 6 サービスをスタンドアロンモードでアンインストールする方法について説明します。ドメインモードで JBoss EAP 6 サービスをアンインストールするには、同じ手順を使用しますが、**jboss-as-standalone.sh** を **jboss-as-domain.sh** に置き換えます。

- サービスが実行中の場合は最初にターミナルを開き、サービス名を指定して **stop** コマンドを実行し、サービスを停止します。

```
sudo service jboss-as-standalone.sh stop
```

- サービスのリストから JBoss EAP を削除します。

```
sudo chkconfig --del jboss-as-standalone.sh
```

- システムディレクトリーファイルを削除します。

- サービス起動スクリプトを削除します。

```
sudo rm /etc/init.d/jboss-as-standalone.sh
```

- サービス設定ファイルを削除します。

```
sudo rm /etc/jboss-as/jboss-as.conf
```



重要

`/etc/jboss-as` は標準のシステムディレクトリーではありません。使用されている他のファイルがない場合にのみ、ディレクトリー自体も削除してください。

```
sudo rm -rf /etc/jboss-as/
```

結果

JBoss EAP 6 サービスがサーバーからアンインストールされます。

バグの報告

2.10.3. Microsoft Windows Server で JBoss EAP 6 をサービスとして設定 (Zip、インストーラー)

前提条件

- Zip インストール、グラフィカルインストーラー、またはテキストベースインストーラーを使用して JBoss EAP 6 をインストールします。
 - 「JBoss EAP 6 をインストールします (ZIP インストール)」。
 - 「JBoss EAP インストールプログラムを実行します」
- サーバーの管理者権限が必要です。
- JAVA_HOME** システム環境変数を設定する必要があります。
- JBoss EAP 6 サーバーインスタンスが実行されていない必要があります。



重要

システム環境変数を設定する場合、Windows Server のコマンドプロンプトで **set** コマンドを使用しても、環境変数が永続的に設定されるわけではありません。**setx** コマンドを使用するか、**Control Panel** の **System** インターフェイスを使用する必要があります。

概要

次の手順を使用して、JBoss EAP 6 を Microsoft Windows Server のサービスとして設定します。

手順2.20 Microsoft Windows で JBoss EAP 6 のサービスを設定

1. システム環境変数を作成します。

以下の2つのシステム環境変数を作成します。

- JBoss EAP 6 インストールディレクトリーを示す **JBOSS_HOME**
- **NOPAUSE=1**

2. まだ設定されていない場合は、アーキテクチャーのネイティブユーティリティーパッケージをダウンロードして抽出します。

Windows Server パッケージのネイティブユーティリティーが Jboss EAP 6 の一部としてインストールされていない場合は、適切な 32 ビットまたは 64 ビットパッケージを Red Hat カスタマーポータル <https://access.redhat.com> からダウンロードします。JBoss EAP 6 インストールを介してネイティブユーティリティーアーカイブを抽出します。

これにより、JBoss EAP 6 インストールの **EAP_HOME\modules\system\layers\base** に **native** ディレクトリーが作成されます

3. サービスをインストールします。

ターミナルを開き、ディレクトリーを **EAP_HOME\modules\system\layers\base\native\sbin** に変更します。

次の表に示す使用可能なオプションを使用して、**service install** コマンドで新しいサービスを作成できます。

表2.4 service install オプション

引数またはスイッチ	説明
/startup	自動起動するサービスを示します。指定しない場合、サービスは手動で開始されるように設定されます。
/controller HOST:PORT	管理インターフェイスのホストとポート。省略した場合、デフォルトは localhost:9999 です。
/host [DOMAIN_HOST]	オプションのホストコントローラー名でドメインモードを使用することを示します。ホストコントローラー名を省略した場合は、デフォルトの名前 master が使用されます。
/loglevel LEVEL	サービスのログレベル: ERROR 、 INFO 、 WARN 、または DEBUG 。省略した場合、デフォルトは INFO です。
/name SERVICE_NAME	作成するサービスの名前。スペースを含めることはできません。省略した場合、デフォルトは JBossEAP6 です。
/desc "DESCRIPTION"	サービスの説明。省略した場合、デフォルトは "JBoss Enterprise Application Platform 6" です。

引数またはスイッチ	説明
<code>/serviceuser</code> <code>DOMAIN\USERNAME</code>	サービスを実行するアカウントの名前を指定します。 <code>DOMAIN\USERNAME</code> の形式のアカウント名を使用します。省略した場合、サービスはローカルシステムアカウントとして実行されます。
<code>/servicepass</code> <code>PASSWORD</code>	<code>/serviceuser</code> アカウントのパスワード。
<code>/jbossuser</code> <code>USERNAME</code>	オプションで、shutdown コマンドに使用する JBoss EAP 6 ユーザー名。
<code>/jbosspass</code> <code>PASSWORD</code>	<code>/jbossuser</code> アカウントのパスワード。 <code>/jbossuser</code> が指定されている場合に必要です。
<code>/config XML_FILE</code>	使用する server-config を指定します。デフォルトは standalone.xml または domain.xml です。
<code>/hostconfig XML_FILE</code>	ドメインモードでのみ使用するホスト設定を指定します。デフォルトは host.xml です。
<code>/base directory</code>	サーバー/ドメインコンテンツのベースディレクトリーを完全修飾パスとして指定します。デフォルトは %JBOSS_HOME%\standalone または %JBOSS_HOME%\domain です。
<code>/logpath path</code>	ログファイルのパスを指定します。 <code>/base</code> は、 <code>/logpath</code> が定義されていない場合に適用されます。デフォルトは、ドメインモードまたはスタンドアロンモードにより異なり、それぞれ %JBOSS_HOME%\domain\log または %JBOSS_HOME%\standalone\log です。
<code>/debug</code>	サービスインストールをデバッグモードで実行します。

以下は、スタンドアロンモードまたはドメインモードで新しいサービスを作成するための基本的な **install** コマンドの例です。以下のコマンドを実行します。サービスのログレベルは必要に応じて変更してください。

- スタンドアロンモード:

```
service.bat install /loglevel INFO
```

- ドメインモード:

JBoss EAP 6 ドメインコントローラーのデフォルトマスターを使用していない場合は、*master* を JBoss EAP 6 ドメインコントローラーの正しいホスト名またはエイリアスに置き換えます。

```
service.bat install /host master /loglevel INFO
```

JBossEAP6 という名前の新しい Windows サービスが作成されます。

4. Services コンソールで新規サービスを検証します。

ターミナルで次のコマンドを実行して、Windows Services コンソールを開きます。

```
services.msc
```

デフォルトのサービス名が使用された場合は、Windows サービスのリストに新しいサービスの名前 **JBoss EAP6** が表示されます。サービスコンソールからサービスを起動および停止でき、さらにサービスの起動方法および起動時に関する設定を変更できます。

5. **ターミナルから JBoss EAP 6 サービスを起動および停止します。**

ターミナルからサービスを起動するには、以下のコマンドを使用します (必要な場合は、サービス名を変更します)。

```
net start JBossEAP6
```

ターミナルからサービスを停止するには、以下のコマンドを使用します (必要な場合は、サービス名を変更します)。

```
net stop JBossEAP6
```

結果

JBoss EAP 6 サービスは Microsoft Windows Server で設定されます。

手順2.21 Microsoft Windows Server からの JBoss EAP 6 サービスのアンインストール

- サービスが実行中の場合は最初にターミナルを開き、サービス名を指定して **net stop** コマンドを実行し、サービスを停止します。

```
net stop JBossEAP6
```

ターミナルで、ディレクトリーを **EAP_HOME\modules\system\layers\base\native\sbin** に変更し、次のコマンドを実行します。

```
service uninstall
```

結果

JBoss EAP 6 サービスが Microsoft Windows Server から削除されました。

[バグの報告](#)

第3章 JBOSS EAP 6 のパッチ適用およびアップグレード

3.1. パッチとアップグレードについて

メジャーアップグレード

JBoss EAP 5 から JBoss EAP 6 など、アプリケーションを他のメジャーリリースに移動する場合にメジャーアップグレードまたは移行が必要になります。このタイプの移行は、このガイドでは取り上げていません。以前のリリースの JBoss EAP から移行する方法については、カスタマーポータル https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_jboss_enterprise_application_platform/?version=6.4 で JBoss EAP 6 の『移行ガイド』を参照してください。

マイナーアップデート

JBoss EAP では、定期的にポイントリリースが提供されます。マイナー更新は、パッチを介して適用されません。ある JBoss EAP ポイントリリースから別のリリースに移行する場合 (例: JBoss EAP 6.3 から JBoss EAP 6.4)、Java EE 仕様に準拠し、プライベート、非対応、またはテクノロジープレビューのモジュールをまったく使用していないアプリケーションでコード変更を必須にしてはいけません。JBoss EAP インストールをアップグレードする前に、潜在的なアップグレードの問題を回避するために必ず「[アップグレードの準備](#)」を確認してください。

累積パッチ

JBoss EAP では、バグおよびセキュリティーの修正が含まれる個別パッチまたは累積パッチも定期的に提供されます。累積パッチは、6.4.1 から 6.4.2 など、最後の数字のマイナーリリースバージョンを増分します。これらのパッチに移行は必要なく、サーバー設定ファイルには影響を及ぼしません。CLI パッチ機能は、必要に応じてパッチと設定もロールバックできます。パッチ適用プロセスについては、この章の次のセクションで詳しく説明します。

以下も参照してください。

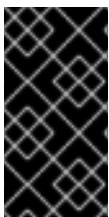
- [「JBoss EAP 6 のパッチ適用」](#)
- [「JBoss EAP 6 のアップグレード」](#)

[バグの報告](#)

3.2. JBOSS EAP 6 のパッチ適用

3.2.1. パッチ適用メカニズムについて

JBoss パッチは、zip (すべての製品用) と RPM (製品のサブセット用) の 2 つの形式で配布されます。



重要

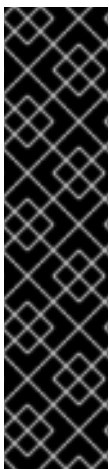
JBoss 製品のインストールは、常に 1 つのパッチメソッド (zip パッチまたは RPM パッチ) のみを使用して更新する必要があります。RPM を介して利用できるのはセキュリティーパッチと累積パッチのみであり、RPM インストールを使用しているお客様は zip パッチを使用して更新することはできません。

JBoss パッチは、非同期更新または計画的更新のいずれかになります。

- 非同期更新: 既存製品の通常の更新サイクル外でリリースされる個々のパッチ。これらには、セキュリティパッチや、特定の問題を修正するために Red Hat グローバルサポートサービス (GSS) が提供する個別のパッチが含まれる場合があります。
- 計画的更新: 既存製品の累積パッチ。そのバージョンの製品に対して以前に開発されたすべての更新が含まれます。

パッチが計画的更新と非同期更新のどちらの一部としてリリースされるかは、修正される問題の重大度によって異なります。通常、影響が少ない問題は延期され、影響を受ける製品の次の累積パッチまたはマイナーリリースで解決されます。通常、中程度以上の影響の問題は、影響を受ける製品に対する重要度の高い順に非同期更新として対処され、特定の問題の修正のみが含まれています。

JBoss 製品のセキュリティ更新はエラータによって (zip と RPM の両方の方法で) 提供されます。エラータには、解決された欠陥のリスト、それらの重大度の評価、影響を受ける製品、欠陥のテキストによる説明、およびパッチへの参照がカプセル化されています。バグ修正の更新は、エラータを介して発表されません。



重要

パッチが適用された後、実行時に取得される jar は、`EAP_HOME/modules/system/layers/base/.overlays/$PATCH_ID/$MODULE` ディレクトリーから取得されることに注意してください。元のファイルは `EAP_HOME/modules/system/layers/base/$MODULE` に残されます。パッチ適用メカニズムは、セキュリティ上の理由から元の jar ファイルを無効にします。これは、モジュールを更新するパッチを適用すると、元のモジュールの jar ファイルが使用できないように変更されることを意味します。パッチがロールバックされると、元のファイルは使用可能な状態に戻されます。これは、適用されたパッチをロールバックするには、適切なロールバック手順を使用する必要があることも意味します。適切なロールバック手順については、「[パッチ管理システムを使用して Zip 形式でパッチ適用をロールバック](#)」を参照してください。

Red Hat が JBoss のセキュリティ上の欠陥を評価する方法のについて、詳細は「[JBoss セキュリティパッチの重大度と影響の評価](#)」を参照してください。

Red Hat は、セキュリティ関連の欠陥についてサブスクライバーに通知するためのメーリングリストを維持しています。「[パッチメーリングリストのサブスクリプション](#)」を参照してください。

バグの報告

3.2.2. Zip/インストーラーインストールのパッチ適用

3.2.2.1. パッチ管理システム

JBoss EAP 6 パッチ管理システムは、ダウンロードした ZIP パッチを単一の JBoss EAP 6 スタンドアロンサーバーまたはドメインホストに適用するために使用されます。これには、`patch` コマンドを使用して管理 CLI からアクセスするか、管理コンソールからアクセスできます。

パッチ管理システムを使用して、管理対象ドメイン全体で JBoss EAP 6 ホストに自動的にパッチを適用することはできませんが、管理対象ドメイン内のホストに個別にパッチを適用することはできます。管理対象ドメインホストにパッチを適用すると、そのホスト上のすべての JBoss EAP サーバーがパッチで更新されます。JBoss EAP 管理対象ドメインにパッチを適用する場合、最初にドメインコントローラーにパッチを適用する必要があります。



重要

RPM 方法を使用してインストールされた JBoss EAP 6 サーバーインスタンスは、パッチ管理システムを使用して更新できません。RPM がインストールされた JBoss EAP 6 サーバーを更新の更新については、「[RPM インストールへのパッチ適用](#)」を参照してください。



注記

パッチ管理システムは、JBoss EAP 6.2 以降のバージョン用に作成されたパッチでのみ使用できます。6.2 より前のバージョンの JBoss EAP のパッチについては、https://access.redhat.com/documentation/ja-JP/JBoss_Enterprise_Application_Platform/ で入手可能な関連バージョンのドキュメントを参照してください。

パッチの適用に加えて、パッチ管理システムは、インストールされているパッチの状態に関する基本情報を提供し、パッチの適用をすぐにロールバックする方法も提供します。

パッチを適用またはロールバックするとき、パッチ管理システムは、ユーザーによる変更がないか、変更しているモジュールおよびその他のファイルをチェックします。ユーザーの変更が検出され、競合処理スイッチが指定されていない場合、パッチ管理システムは操作を中止し、競合があることを警告します。警告には、競合しているモジュールとその他のファイルのリストが含まれます。操作を完了するには、競合を解決する方法 (ユーザーの変更を保持またはオーバーライド) を指定するスイッチを使用して再試行する必要があります。

次の表に、管理 CLI `patch` コマンドの引数とスイッチのリストを示します。

表3.1 patch コマンドの引数とスイッチ

引数またはスイッチ	説明
<code>apply</code>	パッチを適用します。
<code>--override-all</code>	競合がある場合、パッチ操作はユーザーによる変更をオーバーライドします。
<code>--override-modules</code>	モジュールを変更した結果として競合が発生した場合、このスイッチはそれらの変更をパッチ操作の内容でオーバーライドします。
<code>--override=path(,path)</code>	指定されたその他のファイルの場合に限り、競合する変更済みファイルがパッチ操作のファイルでオーバーライドされます。
<code>--preserve=path(,path)</code>	指定されたその他のファイルの場合に限り、これにより、競合する変更済みファイルが保持されます。
<code>--host=HOST_NAME</code>	管理対象ドメインサーバーで使用でき、パッチ操作が実行されるホストを指定します。

引数またはスイッチ	説明
info	現在インストールされているパッチに関する情報を返します。 オプションで、レイヤー/アドオンパッチを含む特定のパッチの詳細情報のために、 --patch-id=PATCH_ID -v を提供できます。
inspect	ダウンロードしたパッチファイルを調べて、パッチに関する重要な情報を返します。
history	パッチ適用履歴に関する情報を返します。
rollback	パッチの適用をロールバックします。
--patch-id=PATCH_ID	ロールバックに必要な、ロールバックするパッチの ID。
--reset-configuration=TRUE FALSE	ロールバックに必要で、ロールバック操作の一部としてサーバー設定ファイルを復元するかどうかを指定します。
--rollback-to	ロールバックするパッチが個別の (1 回限りの) パッチである場合、この引数を使用して、ロールバック操作が、指定されたパッチの上に適用された他のすべての 1 回限りのパッチもロールバックするよう指定します。

バグの報告

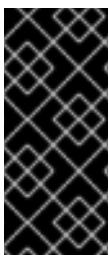
3.2.2.2. パッチ管理システムを使用した Zip 形式のパッチのインストール

要件:

- 「JBoss EAP 6 のインストールの前提条件」

概要

zip 形式のパッチは、JBoss EAP 6 パッチ管理システムを使用して、管理 CLI または管理コンソールからインストールできます。



重要

パッチ管理システムは、JBoss EAP 6.2 で追加された機能です。6.2 より前のバージョンの JBoss EAP の場合、パッチを zip 形式でインストールするプロセスは異なります。 https://access.redhat.com/documentation/ja-JP/JBoss_Enterprise_Application_Platform/ で関連バージョンのドキュメントを参照してください。

前提条件

- Red Hat カスタマーポータルへの有効なアクセスおよびサブスクリプション。
- zip 形式でインストールされた JBoss 製品の現在のサブスクリプション。
- 更新する JBoss EAP 6 サーバーの管理 CLI または管理コンソールへのアクセス。これらのインターフェイスにアクセスする手順については、『Administration and Configuration Guide』の [Log in to the Management Console](#) または [Launch the Management CLI](#) を参照してください。



警告

パッチをインストールする前に、カスタマイズされたすべての設定ファイルとともに JBoss 製品をバックアップする必要があります。

手順3.1 管理 CLI を使用して JBoss EAP 6 サーバーインスタンスに zip パッチを適用

1. カスタマーポータル <https://access.redhat.com/downloads/> から、パッチ zip ファイルをダウンロードします。
2. パッチファイルへの適切なパスを指定して以下のコマンドを使用し、管理 CLI からパッチを適用します。

```
patch apply /path/to/downloaded-patch.zip
```

パッチの適用時に競合が存在する場合は、**patch** ツールによって警告が表示されます。コマンドを再実行して競合を解決する際に使用できる **patch** については、「[パッチ管理システム](#)」を参照してください。

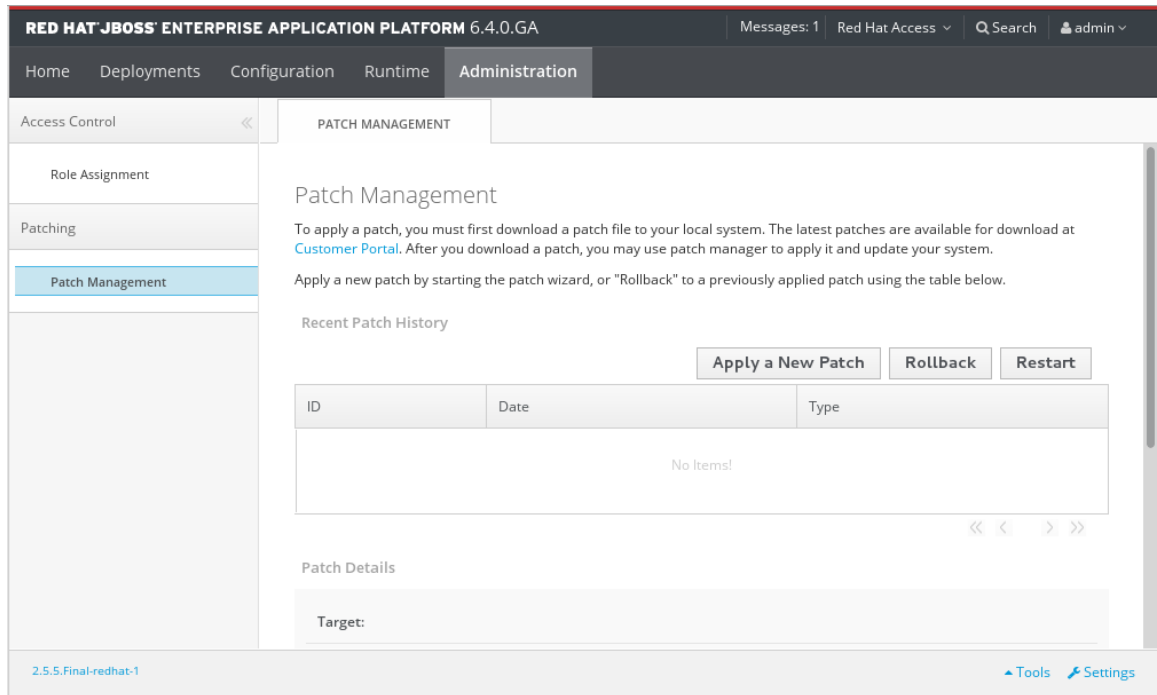
3. JBoss EAP 6 サーバーを再起動して、パッチを反映します。

```
shutdown --restart=true
```

手順3.2 管理コンソールを使用して JBoss EAP 6 サーバーインスタンスに zip パッチを適用

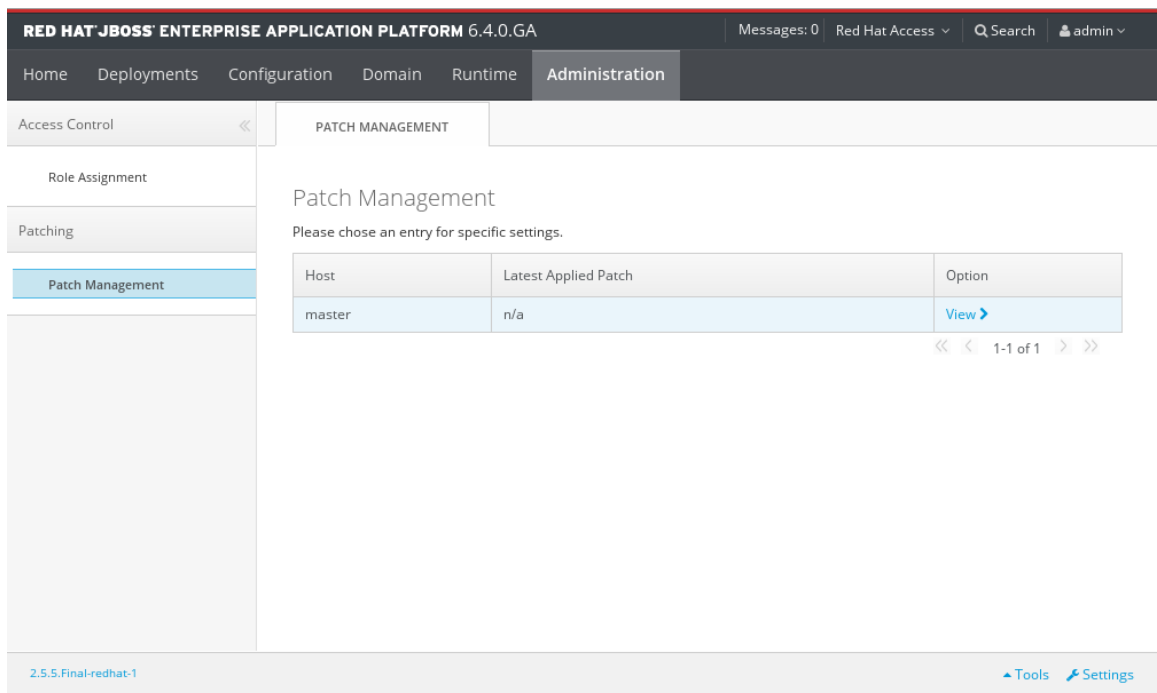
1. カスタマーポータル <https://access.redhat.com/downloads/> から、パッチ zip ファイルをダウンロードします。
2. パッチ管理ビューに移動します。
 - スタンドアロンサーバーの場合、管理コンソールで、画面上部の **Administration** タブをクリックし、**Patch Management** をクリックします。

図3.1 スタンドアロンサーバーのパッチ管理ビュー



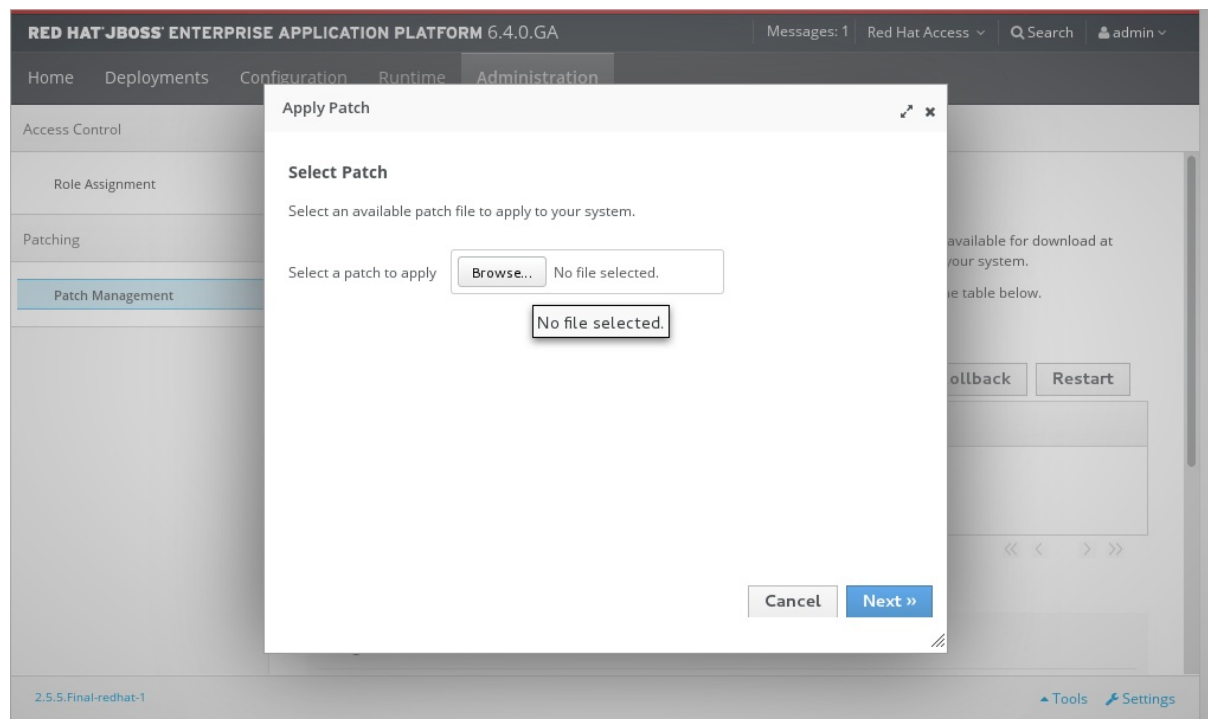
- 管理対象ドメインの場合、管理コンソールで、画面上部の **Administration** タブをクリックし、**Patch Management** をクリックします。**Host** テーブルからパッチを適用するホストを選択し、**View** をクリックします。

図3.2 管理対象ドメインのパッチ管理ビュー



3. **Apply a New Patch** をクリックします。
 - 管理対象ドメインホストにパッチを当てる場合は、次の画面で、ホストのサーバーをシャットダウンするかどうかを選択し、**Next** をクリックします。
4. **Browse** ボタンをクリックして適用するダウンロードしたパッチを選択し、**Next** をクリックします。

図3.3 パッチ適用ダイアログ



- a. パッチの適用の試行に競合が存在する場合は、警告が表示されます。**View error details** をクリックして、競合の詳細を確認します。競合が存在する場合は、操作をキャンセルするか、**Override all conflicts** を選択し、**Next** をクリックします。競合を上書きすると、パッチのコンテンツがユーザーの変更を上書きします。
5. パッチの適用が正常に完了したら、今すぐ JBoss EAP 6 サーバーを再起動してパッチを適用するかどうかを選択し、**Finish** をクリックします。

結果

JBoss EAP 6 サーバーインスタンスには最新の更新がパッチされています。

バグの報告

3.2.2.3. パッチ管理システムを使用して Zip 形式でパッチ適用をロールバック

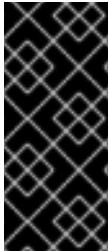
概要

JBoss EAP 6 パッチ管理システムを使用して、管理 CLI または管理コンソールを介して以前に適用された zip パッチの適用をロールバックできます。



警告

パッチ管理システムを使用したパッチ適用のロールバックは、一般的なアンインストール機能として意図されていません。これは、望ましくない結果をもたらしたパッチの適用直後にのみ使用することを目的としています。



重要

パッチ管理システムは、JBoss EAP 6.2 で追加された機能です。6.2 より前のバージョンの JBoss EAP の場合、パッチを zip 形式でロールバックするプロセスは異なります。https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_jboss_enterprise_application_platform/?version=6.4 で関連バージョンのドキュメントを参照してください。

前提条件

- 以前に JBoss EAP 6 パッチ管理システムを使用して適用されたパッチ。
- JBoss EAP 6 サーバーの管理 CLI または管理コンソールへのアクセス。カスタマーポータル (https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_jboss_enterprise_application_platform/?version=6.4) で、『管理および設定ガイド』の『管理 CLI の起動』または『管理コンソールへのログイン』を参照してください。



警告

いずれかの手順を行場合は、**Reset Configuration** オプションの値を指定する際に注意して行ってください。

TRUE に設定した場合、パッチロールバックプロセスによって JBoss EAP 6 サーバー設定ファイルもパッチ適用前の状態にロールバックされます。パッチの適用後に JBoss EAP 6 サーバー設定ファイルに追加された変更はすべて失われます。

FALSE に設定すると、サーバー設定ファイルはロールバックされません。この状況では、パッチによって名前空間などの構成が変更されている可能性があるため、ロールバック後にサーバーが起動しない可能性があります。名前空間は無効になり、手動で修正する必要があります。

手順3.3 管理 CLI を使用して JBoss EAP 6 サーバーインスタンスからパッチをロールバック

1. 管理 CLI から、**patch info** コマンドを使用して、ロールバックするパッチの ID を見つけます。
 - 累積パッチの場合、パッチ ID は **patch info** 出力に表示された最初の **cumulative-patch-id** の値です。
 - 個々のセキュリティーまたはバグ修正パッチ ID は、**patch info** 出力に表示された最初の **patches** の情報としてリストされます。その際に、最後に適用された個別パッチが最初にリストされます。
2. 管理 CLI から、前の手順の適切なパッチ ID を使用してパッチをロールバックします。

```
patch rollback --patch-id=PATCH_ID --reset-configuration=TRUE
```

パッチのロールバック時に競合が存在する場合は、**patch** ツールによって警告が表示されます。コマンドを再実行して競合を解決する際に使用できる **patch** については、「[パッチ管理システム](#)」を参照してください。

3. パッチロールバックを有効にするには、JBoss EAP 6 サーバーを再起動します。

```
shutdown --restart=true
```

手順3.4 管理コンソールを使用して JBoss EAP 6 サーバーインスタンスからパッチをロールバック

- 管理コンソールで以下を実行します。
 - スタンドアロンサーバーの場合: 画面上部の **Administration** タブをクリックし、**Patch Management** をクリックします。
 - 管理対象ドメインの場合: 画面上部の **Administration** タブをクリックし、**Patch Management** をクリックします。**Patch Management** テーブルから関連するホストを選択し、**View** をクリックします。
- Recent Patch History** テーブルで、ロールバックするパッチを選択し、**Rollback** をクリックします。

図3.4 パッチ管理の最近パッチ履歴テーブル

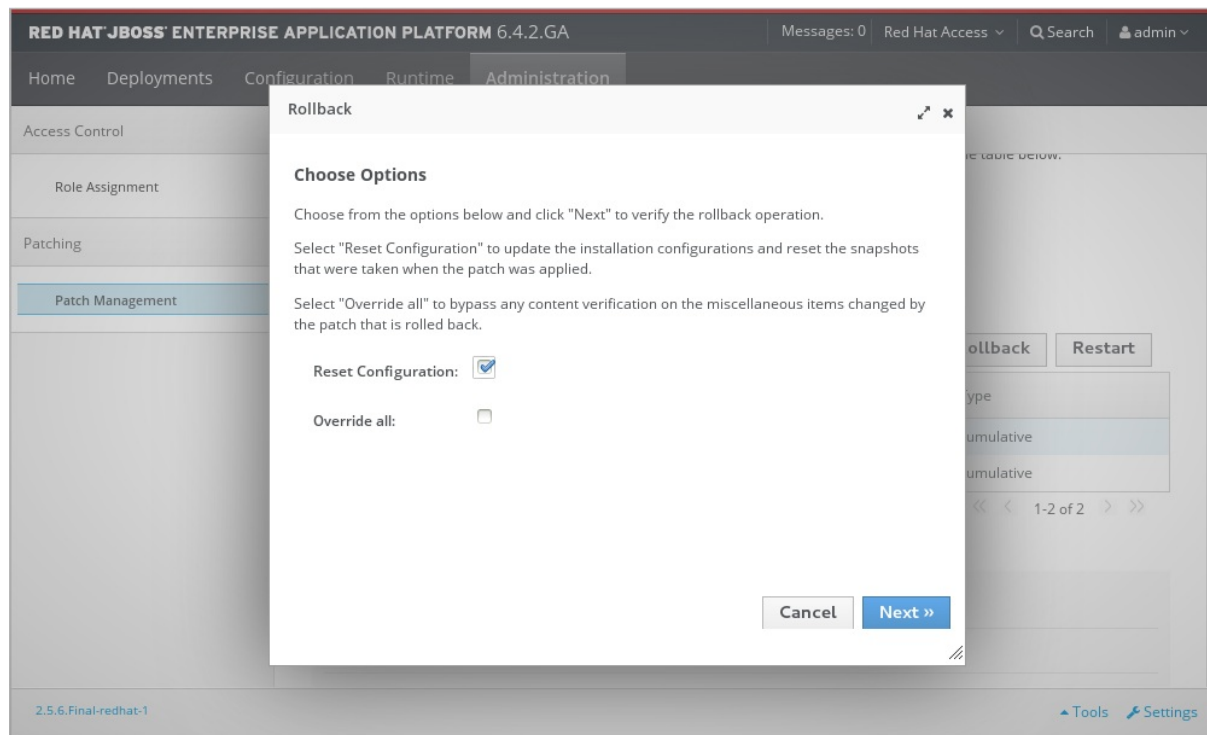
The screenshot shows the JBoss EAP 6 Administration console interface. The top navigation bar includes 'Home', 'Deployments', 'Configuration', 'Runtime', and 'Administration'. The 'Administration' tab is active, and the 'Patch Management' sub-tab is selected. The main content area displays the 'Patch Management' section, which includes a 'Recent Patch History' table. The table has columns for 'ID', 'Date', and 'Type'. The data rows are as follows:

ID	Date	Type
jboss-eap-6.4.2.CP	8/7/15 3:31 PM	cumulative
jboss-eap-6.4.1.CP	8/7/15 3:31 PM	cumulative

Below the table, there are buttons for 'Apply a New Patch', 'Rollback', and 'Restart'. The 'Latest Applied Patch' is identified as 'jboss-eap-6.4.2.CP'. The 'Patch Details' section shows 'Target:' and 'Target Version:' fields.

- 管理対象ドメインホストの場合は、次の画面で、ホストのサーバーをシャットダウンするかどうかを選択し、**Next** をクリックします。
- ロールバックプロセスのオプションを選択して、**Next** をクリックします。

図3.5 オプションダイアログの選択



4. ロールバックするオプションとパッチを確認してから **Next** をクリックします。
 - a. **Override all** オプションが選択されておらず、パッチのロールバック時に競合が発生した場合、警告が表示されます。**View error details** をクリックして、競合の詳細を確認します。競合が存在する場合は、操作をキャンセルするか、**Choose Options** をクリックし、**Override all** チェックボックスを選択して操作を再試行します。競合を上書きすると、ロールバック操作でユーザーの変更がオーバーライドされます。
5. パッチが正常にロールバックされたら、変更を有効にするために JBoss EAP 6 サーバーを再起動するかどうかを選択し、**Finish** をクリックします。

結果

パッチ、およびオプションでサーバー設定ファイルも、JBoss EAP 6 サーバーインスタンスでロールバックされます。

バグの報告

3.2.2.4. パッチ履歴の消去

パッチが JBoss EAP 6 サーバーに適用されると、ロールバック操作で使用するためのパッチの内容および履歴が保存されます。複数の累積パッチが適用されている場合、パッチ履歴が使用するディスク領域はかなりの量になる場合があります。

管理 CLI コマンドを使用すると、現在使用されていない古いパッチをすべて削除することができます。このコマンドを使用する場合は、GA リリースとともに最新の累積パッチのみが保持されます。これは、これまでに複数の累積パッチが適用されている場合にのみ領域を解放するのに役立ちます。

```
/core-service=patching:ageout-history
```




重要

パッチ履歴を消去すると、これあまでに適用されたパッチをロールバックできなくなります。

バグの報告

3.2.3. RPM インストールへのパッチ適用

要件:

- 「JBoss EAP 6 のインストールの前提条件」

概要

JBoss パッチは、ZIP (すべての製品用) と RPM (製品のサブセット用) の 2 つの形式で配布されます。このタスクでは、RPM 形式でパッチをインストールするために必要な手順について説明します。

前提条件

- Red Hat Network への有効なサブスクリプション。
- RPM パッケージでインストールされた JBoss 製品の現在のサブスクリプション。

手順3.5 RPM メソッドで JBoss 製品にパッチを適用

JBoss 製品のセキュリティ更新はエラータによって (zip と RPM の両方の方法で) 提供されます。エラータには、解決された欠陥のリスト、それらの重大度の評価、影響を受ける製品、欠陥のテキストによる説明、およびパッチへの参照がカプセル化されています。

JBoss 製品の RPM ディストリビューションの場合、エラータには更新された RPM パッケージへの参照が含まれています。パッチは、**yum** を使用してインストールできます。



注記

zip インストールのみが、管理コンソールまたは管理 CLI **patch** コマンドを使用してパッチを適用できます。



警告

パッチをインストールする前に、カスタマイズされたすべての設定ファイルとともに JBoss 製品をバックアップする必要があります。

1. JBoss ウォッチメーリングリストのサブスクライバーになるか、JBoss ウォッチメーリングリストアーカイブを参照して、セキュリティパッチに関する通知を受け取ります。
2. セキュリティパッチのエラータを読み、ご使用の環境の JBoss 製品に適用されることを確認します。

3. ご使用の環境の JBoss 製品にセキュリティーパッチが適用される場合は、リンクをたどって、エラータに含まれている更新された RPM パッケージをダウンロードしてください。
4. 下記を使用して、

```
yum update
```

パッチをインストールします。



重要

RPM インストールを更新すると、JBoss 製品は RPM でリリースされたすべての修正で累積的に更新されます。

結果

JBoss 製品には、RPM 形式を使用した最新の更新のパッチが適用されます。

バグの報告

3.2.4. パッチメーリングリストのサブスクライブ

概要

Red Hat の JBoss チームは、Red Hat JBoss Middleware 製品のセキュリティーに関する発表用のメーリングリストを管理しています。このセクションでは、このリストにサブスクライブするためには何が必要か説明します。

前提条件

- なし

手順3.6 JBoss Watch List のサブスクライブ

1. 次のリンクをクリックして、JBoss Watch メーリングリストページに移動します: [JBoss Watch メーリングリスト](#)。
2. **Subscribing to Jboss-watch-list** セクションにメールアドレスを入力します。
3. [名前を入力して、自分のパスワードを選択できます。これはオプションですが、推奨されません。]
4. **Subscribe** ボタンを押して、サブスクリプションプロセスを開始します。
5. メーリングリストのアーカイブを参照するには、[JBoss Watch Mailing List Archives](#) にアクセスします。

結果

メールアドレスを確認すると、JBoss パッチメーリングリストにサブスクライブされ、セキュリティー関連の発表を受信するようになります。

バグの報告

3.2.5. JBoss セキュリティーパッチの重大度と影響の評価

各 JBoss セキュリティーの欠陥のリスクを伝えるために、Red Hat は、欠陥の影響を特定するために使用できる Common Vulnerability Scoring System (CVSS) バージョン 2 の基本スコアに加えて、低、中、重要、および重大の 4 段階の重大度スケールを使用します。

表3.2 JBoss セキュリティーパッチの重大度評価

重大度	説明
重大な影響	この評価は、認証されていないリモートの攻撃者によって簡単に悪用され、ユーザーの操作を必要とせずにシステムの侵害 (任意のコード実行) につながる可能性のある欠陥に与えられます。これらは、ワームによって悪用される可能性のある種類の脆弱性です。認証されたりリモートユーザー、ローカルユーザー、またはありそうもない設定を必要とする欠陥は、重大な影響として分類されません。
重要な影響	この評価は、リソースの機密性、整合性、または可用性を簡単に損なう可能性のある欠陥に与えられます。これらは、ローカルユーザーが特権を取得したり、認証されていないリモートユーザーが認証によって保護されるべきリソースを表示したり、認証されたりリモートユーザーが任意のコードを実行したり、ローカルまたはリモートユーザーがサービス拒否を引き起こしたりすることを可能にする脆弱性の種類です。
中程度の影響	この評価は、悪用するのがより困難である可能性があるが、特定の状況下では、リソースの機密性、整合性、または可用性の妥協につながる可能性がある欠陥に与えられます。これらは、重大な影響または重要な影響を及ぼした可能性があるが、欠陥の技術的評価に基づき悪用されにくい、またはありそうもない設定に影響を与える可能性のあるタイプの脆弱性です。
低	この評価は、セキュリティに影響を与える他のすべての問題に与えられます。これらは、ありそうもない状況でなければ悪用できない、または悪用に成功しても最小限の影響しかないと考えられるタイプの脆弱性です。

CVSS v2 スコアの影響コンポーネントは、機密性 (C)、整合性 (I)、および可用性 (A) の 3 つの潜在的な影響を組み合わせた評価に基づいています。これらはそれぞれ、なし (N)、部分的 (P)、または完全 (C) として評価できます。

JBoss サーバードプロセスは非特権ユーザーとして実行され、ホストオペレーティングシステムから分離されているため、JBoss のセキュリティ上の欠陥の影響は、なし (N) または部分的 (P) のいずれかのみ評価されます。

例3.1 CVSSv2 影響スコア

以下の例は、CVSS v2 の影響スコアを示しています。この例は、欠陥を悪用しても、システムの機密性にはまったく影響せず、システムの整合性に部分的な影響があり、システムの可用性に完全な影響があります (つまりカーネルクラッシュなど、システムが完全に使用できな異状態になります)。

C:N/I:P/A:C

重大度評価と CVSS スコアを組み合わせることで、組織は、各問題が独自の環境に与えるリスクについて情報に基づいた決定を下し、それに応じてアップグレードをスケジュールできます。

CVSS2 の詳細については、[CVSS2 ガイド](#) を参照してください。

バグの報告

3.2.6. JBoss EAP にデプロイされたアプリケーション内にバンドルされた依存関係のセキュリティ更新の管理

Red Hat は、JBoss EAP ディストリビューションの一部であるすべてのコンポーネントにセキュリティパッチを提供します。ただし、JBoss EAP の多くのユーザーは、JBoss EAP ディストリビューションの一部として提供されるコンポーネントを排他的に使用するのではなく、独自の依存関係をバンドルするアプリケーションをデプロイします。たとえば、デプロイされた WAR ファイルには、WEB-INF/lib/ディレクトリーに依存関係 JAR が含まれている場合があります。これらの JAR は、Red Hat が提供するセキュリティパッチの範囲外です。JBoss EAP にデプロイされたアプリケーション内にバンドルされている依存関係のセキュリティ更新を管理するのは、アプリケーションメンテナの責任です。以下のツールとデータソースは、この取り組みに役立つ可能性があり、サポートや保証なしで提供されます。

ツールとデータソース

JBoss パッチメーリングリスト

JBoss パッチメーリングリストにサブスクライブすると、JBoss 製品で修正されたセキュリティ上の欠陥に関する情報が得られ、デプロイされたアプリケーションが影響を受けるコンポーネントの脆弱なバージョンにバンドルされているかどうかを確認できます。

バンドルされたコンポーネントのセキュリティアドバイザリーページ

多くのオープンソースコンポーネントには、独自のセキュリティアドバイザリーページがあります。たとえば、Struts 2 は一般的に使用されるコンポーネントであり、JBoss EAP ディストリビューションの一部として提供されていない多くの既知のセキュリティ問題があります。Struts 2 プロジェクトは、アップストリームのセキュリティアドバイザリーページを維持しています。デプロイされたアプリケーションが Struts2 をバンドルしている場合、このページを監視する必要があります。多くの市販コンポーネントもセキュリティアドバイザリーページを維持しています。

定期スキャンによるデプロイされたアプリケーションにおける既知の脆弱性の確認

これは、いくつかの市販ツールを使用して実行できます。Victims と呼ばれるオープンソースツールもあります。これは Red Hat の従業員によって開発されましたが、サポートや保証はありません。Victims は、いくつかのビルドおよびインテグレーションツール用のプラグインを提供します。これらのツールは、既知の脆弱な依存関係をバンドルするためにアプリケーションを自動的にスキャンします。プラグインは、Maven、Ant、および Jenkins で使用できます。Victims ツールの詳細については、<https://victi.ms/about.html> を参照してください。

バグの報告

3.3. JBOSS EAP 6 のアップグレード

3.3.1. アップグレードの準備

ZIP または RPM インストールを使用して JBoss EAP をアップグレードする前に、以下の潜在的な問題に注意する必要があります。

- この更新により、一時フォルダーが削除される場合があります。**data/content/**ディレクトリーに保存されているスタンドアロンまたはドメイン管理のデプロイメントは、更新前にバックアップし、更新の完了後に復元する必要があります。そうしないと、コンテンツが不足しているためにサーバーを起動できません。
- 更新を適用する前に、開いているトランザクションを処理してください。次に、**data/tx-object-store/** トランザクションディレクトリーを削除します。
- 新しいポイントリリースに更新するときに設定ファイルをバックアップおよび復元すると、新しい設定が上書きされ、新しい機能が自動的に有効にならない可能性があります。この場合、旧設定と新設定を比較し、維持する必要のある特定の設定のみを再適用することが推奨されます。これは、手作業で行うことができ、複数のサーバー設定ファイルに変更を一貫して適用できる CLI スクリプトを作成して行うこともできます。
- 更新のために既存の設定をコピーすることはできますが、サーバーを再起動するとファイルが更新され、以前のバージョンのサーバーとの互換性がなくなる可能性があります。
- **data/timer-service-data** にある永続タイマーデータをチェックし、互換性の有無を判断する必要があります。更新する前に、そのフォルダー内の **deployment-BEAN_NAME** ファイルを確認して、使用されているタイマーを確認します。

バグの報告

3.3.2. JBoss EAP 6 ZIP インストールのアップグレード

前提条件

- ベースのオペレーティングシステムが最新の状態であるようにしてください。
- JBoss EAP 6 がインストールされてから変更されたファイルを確認します。
- 変更された設定ファイル、デプロイメント、およびすべてのユーザーデータをバックアップします。
- [「JBoss EAP 6 のダウンロード \(Zip インストール\)」](#)。

概要

この手順では、マイナーバージョン間 (たとえば JBoss EAP 6.1 から 6.2) での JBoss EAP 6 ZIP インストールのアップグレードについて説明します。特定のマイナーバージョンのパッチのインストールについては、『パッチのインストール』セクションを参照してください。JBoss EAP 6 の最新リリースにアップグレードするには、最初に既存のインストールをバックアップする必要があります。



警告

管理対象ドメインの場合、各ホストコントローラーをアップグレードする前に、まずマスターホストコントローラー (またはドメインコントローラー) インスタンスをアップグレードする必要があります。

手順3.7 JBoss EAP 6 の最新バージョンへのアップグレード

1. ダウンロードした ZIP アーカイブを目的の場所に移動します。既存の JBoss EAP 6 インストールとは別の場所を選択することが推奨されます。



重要

最新バージョンの JBoss EAP 6 を既存のインストールと同じディレクトリーの場所にインストールする場合は、既存のインストールを別の場所に移してから作業を続ける必要があります。これは、変更した設定ファイル、デプロイメント、およびアップグレードの損失を防ぎます。

2. アーカイブを解凍します。この手順では、最新の JBoss EAP 6 リリースのクリーンインスタンスをインストールします。
3. 以前のインストールの `EAP_HOME/domain/` and `EAP_HOME/standalone/` ディレクトリーを新しいインストールディレクトリーにコピーします。



注記

設定ファイルが以前の JBoss EAP 6 インストールからコピーされると、新しいサブシステムなどの新リリースの新機能はアクティベートされないことがあります。これらの新機能を使用するには、以前の設定ファイルを新バージョンの設定ファイルと比較し、更新する必要があります。

4. 以前のインストールの `bin` ディレクトリーに加えられた変更を確認し、同等の変更を新しいディレクトリーに追加します。



警告

`bin` ディレクトリーのファイルは、以前のバージョンのファイルに上書きされていないはずで、変更は手作業で行う必要があります。

5. 以前のインストールで変更された残りのファイルを確認し、変更内容を新しいインストールに移動します。このようなファイルには以下のファイルが含まれることがあります。
 - `welcome-content` ディレクトリー。
 - `modules` ディレクトリーのカスタムモジュール。
 - `bundles` ディレクトリーのカスタムバンドル。
6. **任意設定:** JBoss EAP 6 がサービスとして実行されるよう設定されていた場合は、既存のサービスを削除し、アップグレードしたインストールに新しいサービスを設定します。

結果

JBoss EAP 6 ZIP インストールが正常に最新リリースにアップグレードされました。

[バグの報告](#)

3.3.3. JBoss EAP 6 RPM インストールのアップグレード

前提条件

- ベースがオペレーティングシステムが最新の状態で、Base OS チャンネルにサブスクライブしており、更新を取得できる。
- 正しい JBoss EAP 6 RHN チャンネルが有効になっている。たとえば、x86、64 ビットアーキテクチャーでは、これは 6Server x86_64 チャンネル (**jbappplatform-6-x86_64-server-6-rpm**) 用の JBoss Application Platform (v 6) になります。
- 変更された設定ファイル、デプロイメント、およびすべてのユーザーデータをバックアップします。

概要

JBoss EAP 6 の最新リリースにアップグレードするには、最初に既存のインストールをバックアップする必要があります。このトピックでは、Red Hat Network (RHN) を介した RPM インストールのアップグレードについて説明します。



警告

管理対象ドメインの場合、各ホストコントローラーをアップグレードする前に、まずマスターホストコントローラー(またはドメインコントローラー)インスタンスをアップグレードする必要があります。

手順3.8 最新の JBoss EAP 6 リリースへのアップグレード

1. ターミナルで次のコマンドを実行して、インストールをアップグレードします。

```
yum update
```

2. 変更を含む作成済みの各 ***.rpmnew** ファイルを本番設定ファイルに手動でマージします。

結果

JBoss EAP 6 は正常にアップグレードされました。

[バグの報告](#)

3.3.4. JBoss EAP クラスターのアップグレード

前提条件

- なし

概要

JBoss EAP 6 は、異なるバージョンの JBoss EAP サーバーで異なるノードが構成されたクラスターの作成をサポートしません。したがって、バージョンが異なるためにクラスターが混合されている場合はサポートされず、クラスター内のすべてのノードは同じバージョンである必要があります。



警告

したがって、トラフィックを 6.3 クラスターから 6.4 クラスターに移行するためのアップグレードプロセスは、すべてのトラフィックを 6.4 クラスターに転送してから、6.3 クラスター内のサーバーまたはノードをシャットダウンすることになります。

手順3.9 JBoss EAP クラスターの設定

1. 6.4 で JBoss EAP クラスターを設定する方法については、J『JBoss EAP 6.4 Administration and Configuration Guide』の『HTTP Clustering and Load Balancing』の章を参照してください。
2. 『JBoss EAP 6.4 Administration and Configuration Guide』の『Migrate Traffic between Clusters』の章で概説されている手順を使用して、すべてのトラフィックをこの新しいクラスターに移行します。

結果

JBoss EAP 6.3 クラスターが JBoss EAP 6.4 に基づくクラスターに移行されます。

[バグの報告](#)

付録A 参考資料

A.1. JBOSS EAP 6 で利用可能なダウンロード

JBoss EAP 6 には、さまざまなインストールタイプとオプションのコンポーネントが含まれています。これらは、Red Hat Customer Portal <https://access.redhat.com/> からダウンロードできます。次の表で、さまざまなオプションについて説明します。一部のコンポーネントは、特定のオペレーティングシステムまたはアーキテクチャーにのみ適切であるため、それらの特定のバリエーションでのみ使用できます。

表A.1利用可能なダウンロード

名前	説明	オペレーティングシステム
Apache HTTP サーバー	サポートされている各オペレーティングシステムとアーキテクチャーのスタンドアロン Apache HTTP サーバーインスタンス。この HTTP サーバーは、JBoss EAP 6 で動作することがテストおよび検証されています。	Red Hat Enterprise Linux 5、Red Hat Enterprise Linux 6、Microsoft Windows Server 2008、Solaris10 および 11
ネイティブコンポーネント	特定のプラットフォーム用に最適化されるようにコンパイルされたコンポーネント。たとえば、DLL は Microsoft Windows 環境用に提供されています。場合によっては、ネイティブコンポーネントによってパフォーマンスが向上することがあります。	Red Hat Enterprise Linux 5、Red Hat Enterprise Linux 6、Microsoft Windows Server 2008、Solaris 10 および 11、Hewlett-Packard HP-UX
ネイティブユーティリティ	オペレーティングシステムにサービスとして JBoss EAP 6 をインストールし、SSL 暗号化キーと証明書を生成するためのスクリプトやユーティリティなど、サポートされている各オペレーティングシステムとアーキテクチャーに固有のユーティリティ。	Red Hat Enterprise Linux 5、Red Hat Enterprise Linux 6、Microsoft Windows Server 2008、Solaris 10 および 11、Hewlett-Packard HP-UX
Web サーバーコネクタネイティブ	HTTP 負荷分散と高可用性機能のための、Apache、Microsoft、および Oracle iPlanet Web サーバー用のプリコンパイル済みモジュール。これらのバイナリは広範囲にテストされており、JBossEAP6 で適切に機能することが知られています。	Red Hat Enterprise Linux 5、Red Hat Enterprise Linux 6、Microsoft Windows Server 2008、Solaris 10 および 11、Hewlett-Packard HP-UX
Javadocs	JBoss EAP 6 によって公開されるすべてのパブリック API のドキュメント。これらをローカル HTTP サーバーまたは IDE にインストールすることも、ローカルマシンで表示することもできます。	プラットフォームに依存しません

名前	説明	オペレーティングシステム
Installer	JBoss EAP 6 の Java インストーラー。クイックスタートと Maven リポジトリをインストールする手順が含まれています。	プラットフォームに依存しません
Maven リポジトリ	Maven リポジトリはダウンロードしてローカル開発環境で利用でき、JBoss EAP 6 でビルドされたアプリケーションに共通するアーチファクトが含まれます。Maven リポジトリは、JBoss EAP 6 インストーラーからも利用できません。	プラットフォームに依存しません
クイックスタート	JBoss EAP 6 で提供される API を使用して Java EE 6 アプリケーションの開発を開始するのに役立つサンプルアプリケーション。クイックスタートは、JBoss EAP 6 インストーラーからも利用できません。	プラットフォームに依存しません
ソースコード	JBoss EAP 6 の Java ソースコードは、独自の環境で再コンパイルしたり、自分で監査したりするために提供されています。	プラットフォームに依存しません
アプリケーションプラットフォーム	サポートされているすべてのプラットフォームにインストールして実行できる Zip インストールパッケージ。これは、JBoss EAP 6 をインストールするための最も一般的な方法です。	プラットフォームに依存しません



重要

RPM インストール方法のダウンロードは、カスタマーポータルでは利用できませんが、Red Hat Network (RHN) 経由で利用できます。

バグの報告

A.2. JBOSS EAP 6 のディレクトリー構造

概要

JBoss EAP 6 には、以前のバージョンと比較して簡略化されたディレクトリー構造が含まれています。このトピックには、ディレクトリーのリストと、各ディレクトリーに含まれる内容の説明が含まれています。

次のディレクトリー/ファイルは共有可能です: appclient、bin、bundles、docs、jboss-modules.jar、modules、welcome-content。ドメインディレクトリーとスタンドアロンディレクトリーは共有できません。

システムプロパティを使用して `$JBOSS_HOME` ディレクトリーを使用し、複数のサーバーインスタンスに異なるスタンドアロンまたはドメインディレクトリーを指定して共有可能なディレクトリーを使用できるようにし、共有できないディレクトリーに別のディレクトリーを指定することができます。

また、**standalone/** および **domain/** フォルダーのディレクトリー構造も含まれています。

表A.2 トップレベルのディレクトリーとファイル

名前	目的
appclient/	アプリケーションクライアントコンテナの設定の詳細が含まれています。
bin/	Red Hat Enterprise Linux および Microsoft Windows 上の JBoss EAP 6 の起動スクリプトが含まれています。
docs/	ライセンスファイル、スキーマ、および例。
domain/	JBoss EAP 6 が管理対象ドメインとして実行される際に使用される設定ファイル、デプロイメントコンテンツ、および書き込み可能領域。
modules/	サービスが要求したときに JBoss EAP 6 によって動的にロードされるモジュール。
standalone/	JBoss EAP 6 がスタンドアロンサーバーとして実行される際に使用される設定ファイル、デプロイメントコンテンツ、および書き込み可能領域。
welcome-content/	デフォルトインストールのポート 8080 で利用可能な Welcome Web アプリケーションで使用されるコンテンツが含まれています。
.installation/	パッチ適用メカニズムのメタデータが含まれています。このディレクトリーの内容を変更する必要はありません。
jboss-modules.jar	モジュールをロードするブートストラップメカニズム。
JBossEULA.txt	ライセンス同意書の詳細が含まれています。
LICENSE.txt	ライセンスの詳細が含まれています。
version.txt	バージョンの詳細が含まれています。



注記

`$JBOSS_HOME/domain` は、2つのホストコントローラー間またはドメインコントローラーとホストコントローラー間で共有できません。

表A.3 domain/ ディレクトリー内のディレクトリー

名前	目的
configuration/	管理対象ドメインの設定ファイル。これらのファイルは、管理コンソールおよび管理 CLI によって変更され、直接編集するためのものではありません。
data/	デプロイされたサービスに関する情報。サービスは、デプロイメントスキャナーではなく、管理コンソールと管理 CLI を使用してデプロイされます。そのため、このディレクトリーにファイルを手動で配置しないでください。
log/	ローカルインスタンスで実行されるホストおよびプロセスコントローラーのランタイムログファイルが含まれます。
servers/	ドメイン内の各サーバーインスタンスに相当する data/ 、 log/ 、および tmp/ ディレクトリーが含まれます。これらには、トップレベル domain/ ディレクトリー内の同じディレクトリーと同様のデータが含まれます。
tmp/	管理対象ドメインに対してローカルユーザーを認証するために管理 CLI によって使用される共有キーマニズムに関連するファイルなどの一時データが含まれます。



注記

スタンドアロンモードでは、`$JBOSS_HOME/standalone` を 2 つの JBoss サーバーインスタンス間で共有することはできません。

表A.4 standalone/ ディレクトリー内のディレクトリー

名前	目的
configuration/	スタンドアロンサーバーの設定ファイル。これらのファイルは、管理コンソールおよび管理 CLI によって変更され、直接編集するためのものではありません。
data/	デプロイされたサービスに関する情報。サービスは、デプロイメントスキャナーではなく、管理コンソールと管理 CLI を使用してデプロイされます。そのため、このディレクトリーにファイルを手動で配置しないでください。

名前	目的
deployments/	デプロイされたサービスに関する情報。スタンドアロンサーバーにはデプロイメントスキャナーが含まれているため、このディレクトリーにアーカイブを配置してデプロイできます。ただし、推奨されるアプローチは、管理コンソールまたは管理 CLI を使用してデプロイメントを管理することです。
lib/	スタンドアロンサーバーモードに関連する外部ライブラリー。デフォルトでは空です。
log/	ローカルインスタンスで実行されるホストおよびプロセスコントローラーのランタイムログファイルが含まれます。
tmp/	サーバーに対してローカルユーザーを認証するために管理 CLI によって使用される共有キーマニズムに関連するファイルなどの一時データが含まれます。

バグの報告

A.3. JBOSS EAP 6 の RPM パッケージリスト

概要

JBoss EAP 6 は、YUM パッケージグループ **JBoss EAP 6** を使用して Red Hat Enterprise Linux 6 にインストールされます。そのグループには次のパッケージが含まれています。

表A.5 パッケージ一覧

パッケージ	説明
jbossas-appclient	JEE アプリケーションクライアントコンテナー
jbossas-core	コアコンポーネントこれはすべての設定に必要です。
jbossas-domain	ドメイン設定
jbossas-hornetq-native	JBoss AS HornetQ ファイルのコンテナー
jbossas-jbossweb-native	JBoss Enterprise Web Platform
jbossas-modules-eap	JBoss EAP モジュール
jbossas-product-eap	製品設定コンポーネント。これにより、製品の実行がカスタマイズされます。

パッケージ	説明
jbossas-standalone	スタンドアロン設定
jbossas-welcome-content-eap	起動メッセージとコンソールページで使用されるウェルカムコンテンツ。



重要

jbossas-hornetq-native パッケージは JBoss EAP 6 の高可用性のために含まれていますが、デフォルトではアクティブ化されていません。



注記

OSGi は、JBoss EAP ではサポートされません。詳細については、カスタマーポータルの記事 <https://access.redhat.com/articles/112673> を参照してください。

バグの報告

A.4. JBOSS EAP 6 の RPM インストール設定ファイル

概要

JBoss EAP 6 の RPM インストールには、ZIP インストールに 3 つの追加設定ファイルが含まれています。これらのファイルは、アプリケーション・サーバーの起動環境を指定するために、サービス初期化スクリプトによって使用されます。これらのファイルの 1 つはすべての JBoss EAP 6 インスタンスに適用され、他の 2 つはスタンドアロンおよびドメインモードサーバーのオーバーライドを提供します。

表A.6 追加の RPM 設定ファイル

ファイル	説明
/etc/jbossas/jbossas.conf	このファイルは最初に読み取られ、すべての JBoss EAP 6 インスタンスに適用されます。
/etc/sysconfig/jbossas	スタンドアロンサーバーに固有の設定。ここで指定された値は、スタンドアロンサーバーとして実行している場合、jbossas.conf の値を上書きします。
/etc/sysconfig/jbossas-domain	ドメインモードサーバーに固有の設定。ここで指定された値は、ドメインモードサーバーとして実行しているときに jbossas.conf の値を上書きします。

次の表に、使用可能な設定プロパティのリストとそのデフォルト値を示します。

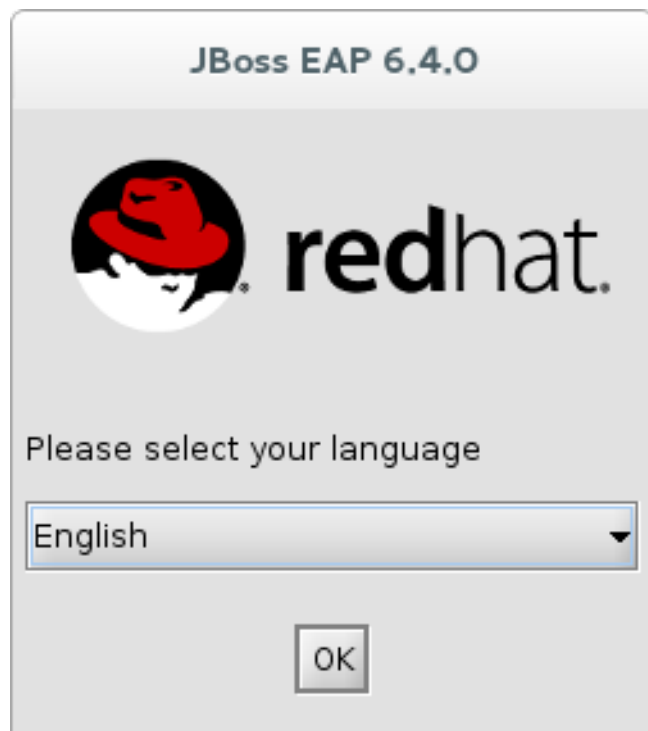
表A.7 RPM インストール設定のプロパティ

プロパティ	説明
JBOSS_USER	JBoss EAP 6 が実行されるシステムユーザーアカウント。このユーザーはファイルの所有権も持っています。 デフォルト値: jboss
JBOSS_GROUP	JBoss EAP 6 ファイルが属するシステムユーザーグループ。 デフォルト値: jboss
JBOSS_STARTUP_WAIT	start または restart コマンドを受け取った後にサーバーが正常に起動されたことを確認するまで、初期化スクリプトが待機する秒数。 デフォルト値: 60
JBOSS_SHUTDOWN_WAIT	stop または restart コマンドの受信時、続行する前に初期化スクリプトがサーバーのシャットダウンを待機する秒数。 デフォルト値: 20
JBOSS_CONSOLE_LOG	CONSOLE ログハンドラーがリダイレクトされるファイル。 デフォルト値: /var/log/jbossas/\$JBOSSCONF/console.log
JAVA_HOME	Java Runtime Environment がインストールされたディレクトリー。 デフォルト値: /usr/lib/jvm/jre
JBOSS_HOME	アプリケーションサーバーファイルがインストールされているディレクトリー。 デフォルト値: /usr/share/jbossas
JAVAPATH	Java 実行可能ファイルがインストールされたパス。 デフォルト値: \$JAVA_HOME/bin
JBOSSCONF	このサーバーを standalone または domain で起動するサーバーモード。 デフォルト値: サーバーモードに応じて standalone または domain 。
JBOSSSH	サーバーの起動に使用されるスクリプト。 デフォルト値: \$JBOSS_HOME/bin/\$JBOSSCONF.sh
JBOSS_SERVER_CONFIG	使用するサーバー設定ファイル。 このプロパティにはデフォルト値がありません。開始時に standalone.xml または domain.xml を定義できます。
JBOSS_HOST_CONFIG	このプロパティを使用すると、ユーザーはホスト設定 (host.xml など) を指定できます。デフォルトとして設定されている値はありません。

付録B インストーラーのスクリーンショット

B.1. 言語の選択

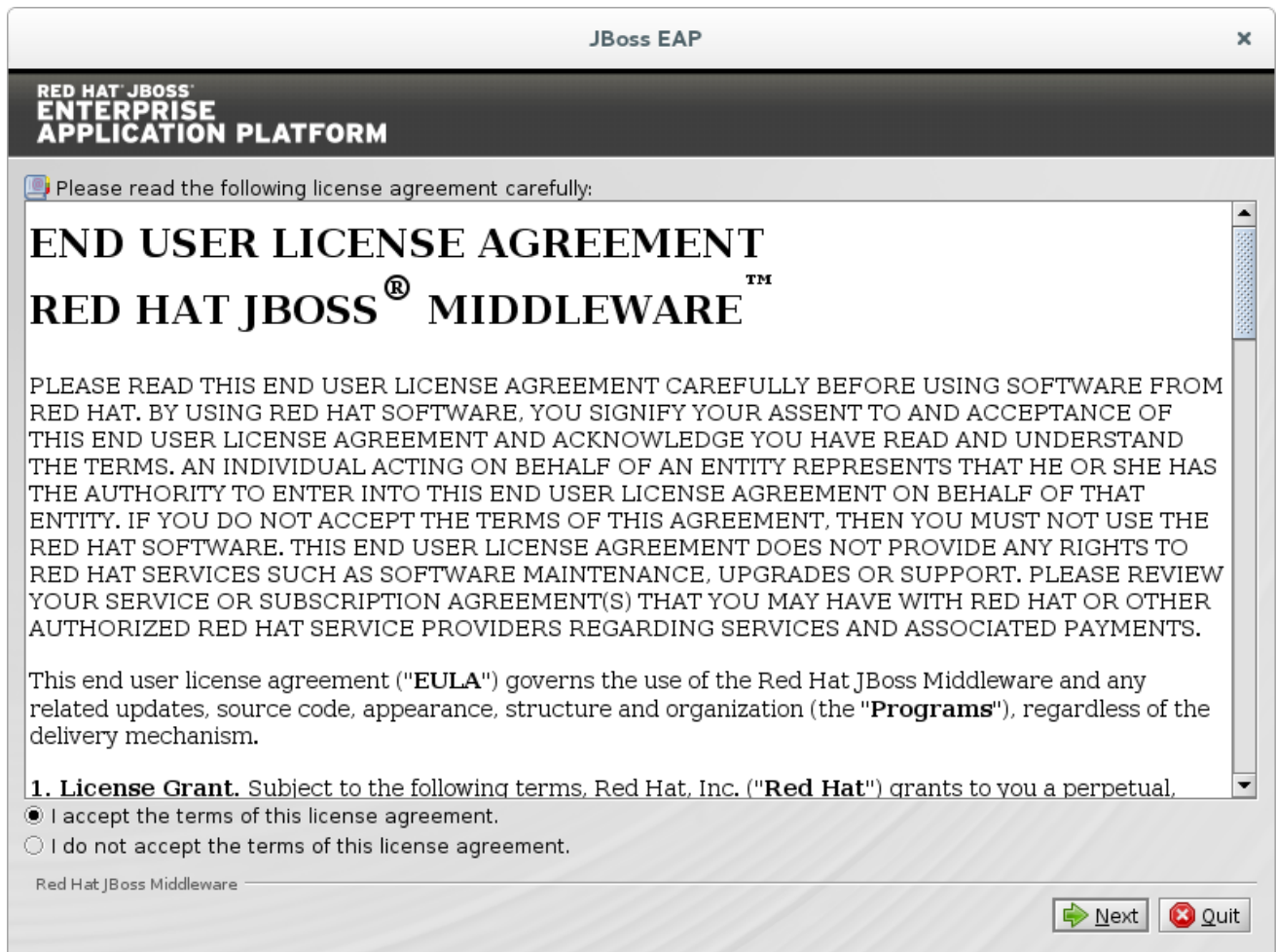
図B.1 JBoss EAP インストールプログラムの言語選択



[バグの報告](#)

B.2. 使用許諾契約書

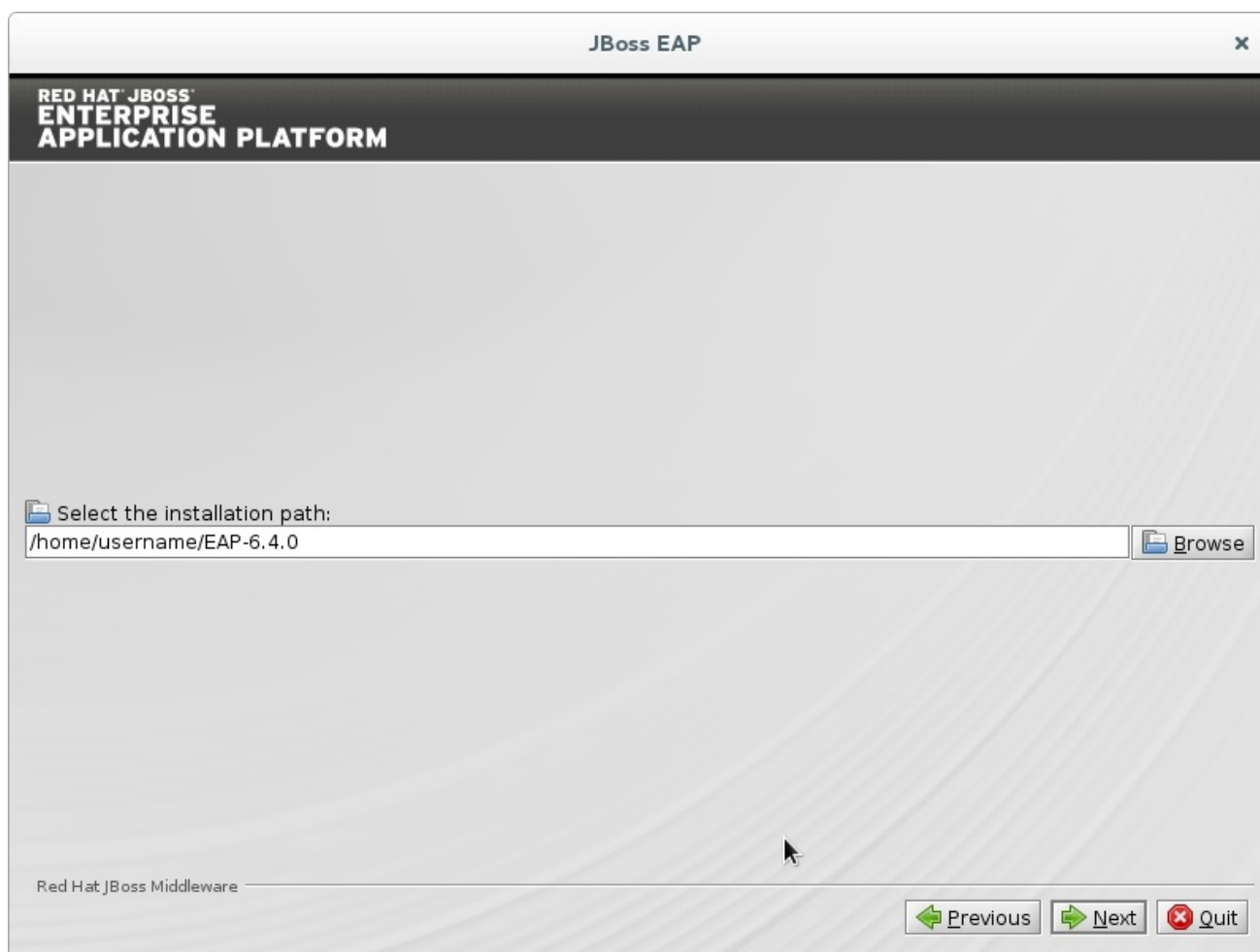
図B.2 JBoss EAP インストールプログラムのエンドユーザー使用許諾契約



[バグの報告](#)

B.3. インストールパス

図B.3 JBoss EAP インストールプログラムのインストールパス

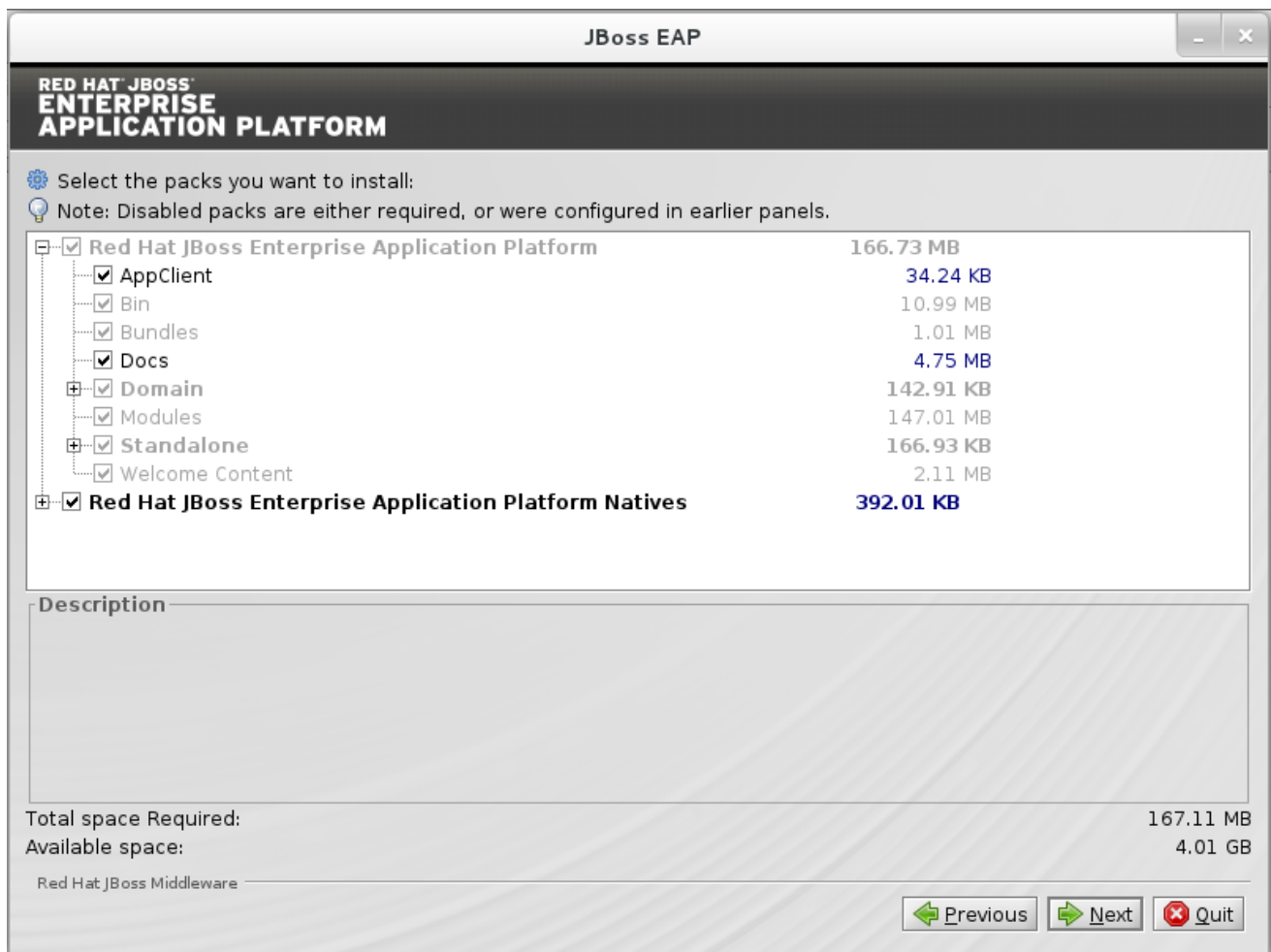


バグの報告

B.4. インストールするパックを選択します

インストールするパックを選択または選択解除します。必要なパックは選択解除のために無効になっています。

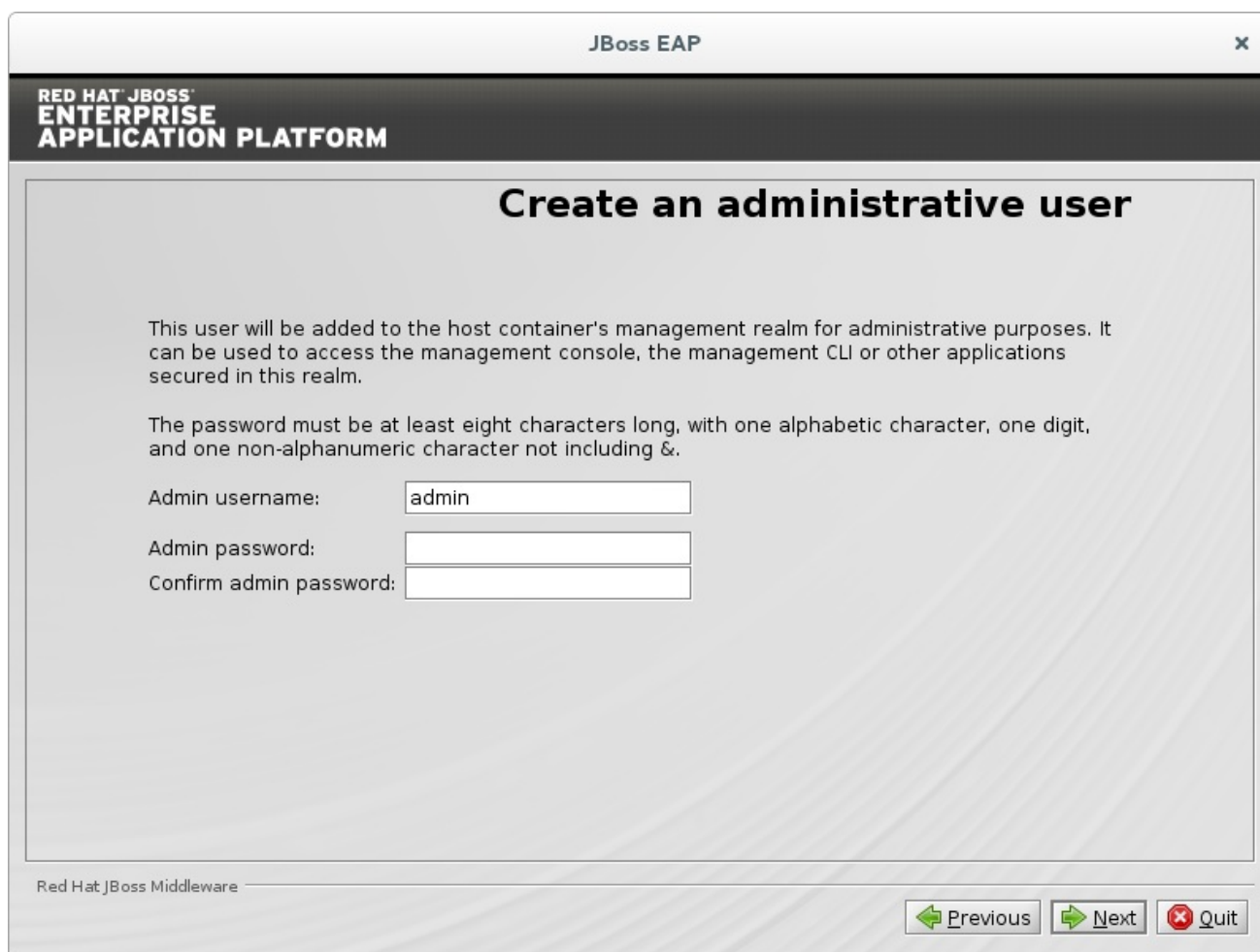
図B.4 JBoss EAP インストールプログラムをインストールするパックを選択



[バグの報告](#)

B.5. 管理ユーザーの作成

図B.5 JBoss EAP インストールプログラム管理ユーザーの作成



The screenshot shows a window titled "JBoss EAP" with a close button in the top right corner. Below the title bar is a dark header with the text "RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM". The main content area is titled "Create an administrative user" and contains the following text:

This user will be added to the host container's management realm for administrative purposes. It can be used to access the management console, the management CLI or other applications secured in this realm.

The password must be at least eight characters long, with one alphabetic character, one digit, and one non-alphanumeric character not including &.

Admin username:

Admin password:

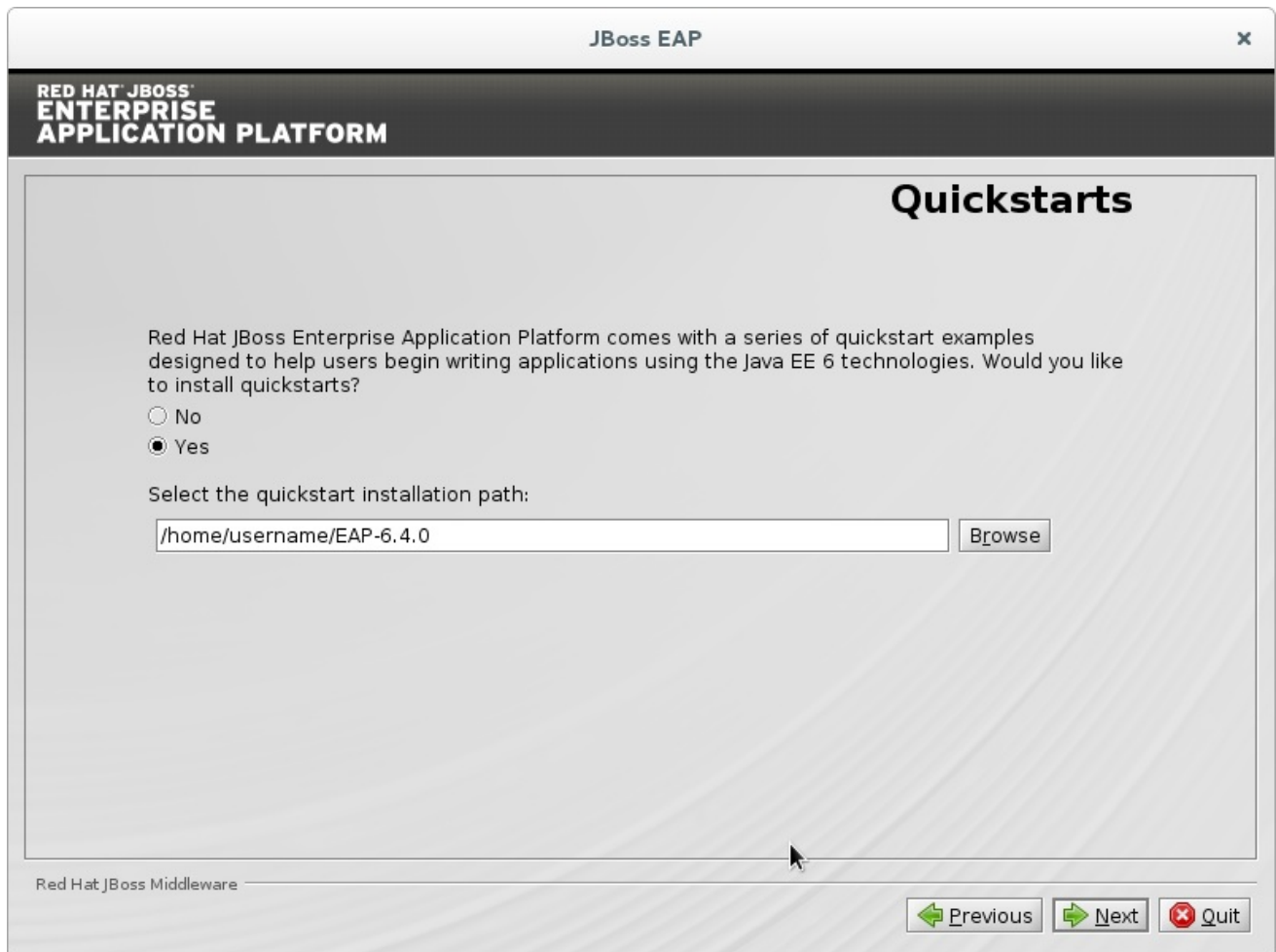
Confirm admin password:

At the bottom left, it says "Red Hat JBoss Middleware". At the bottom right, there are three buttons: "Previous" (with a left arrow), "Next" (with a right arrow), and "Quit" (with a red X icon).

[バグの報告](#)

B.6. クイックスタートインストール

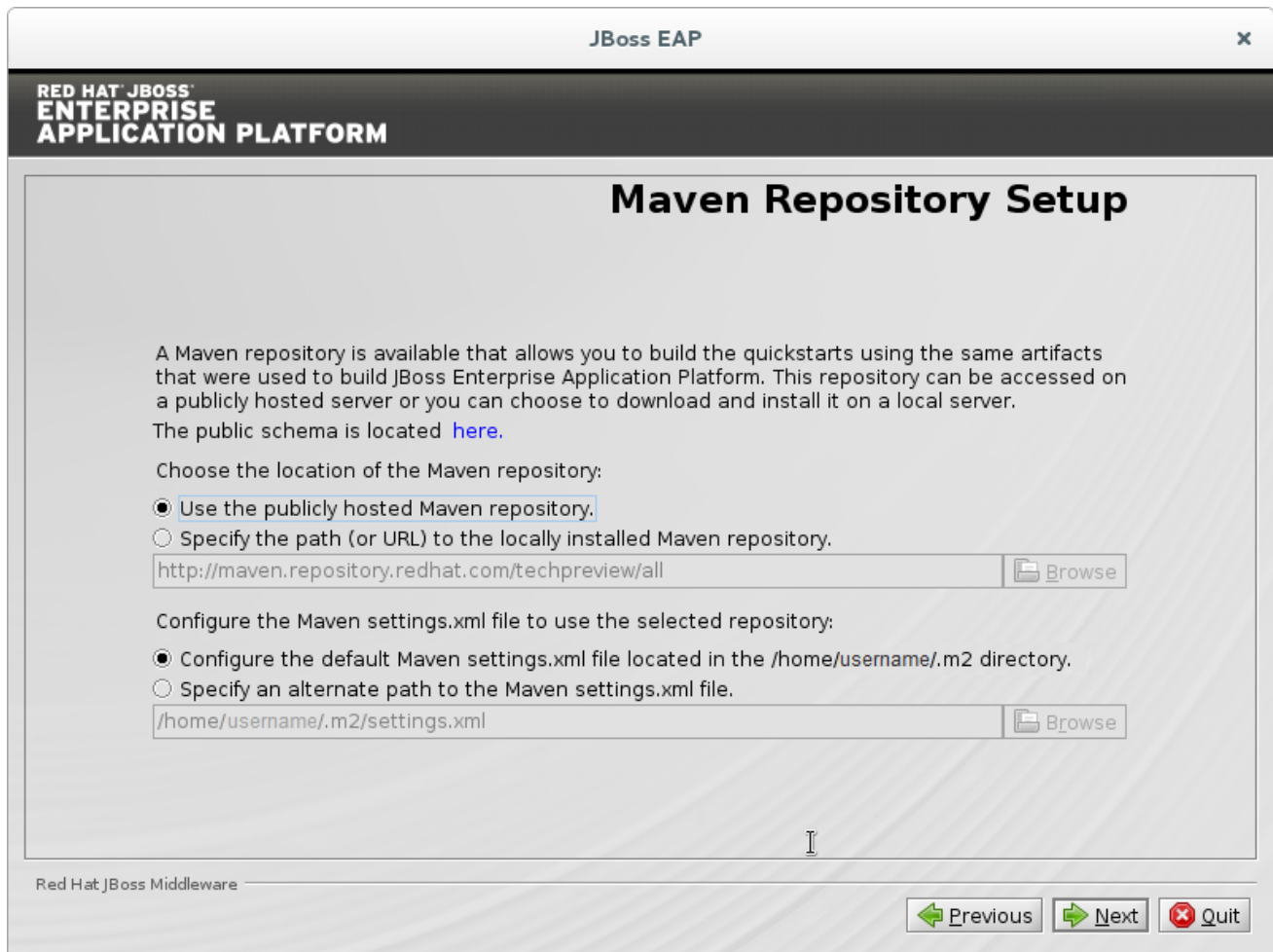
図B.6 JBoss EAP インストールプログラムのクイックスタートセットアップ



[バグの報告](#)

B.7. MAVEN リポジトリのセットアップ

図B.7 JBoss EAP インストールプログラム Maven リポジトリリセットアップ

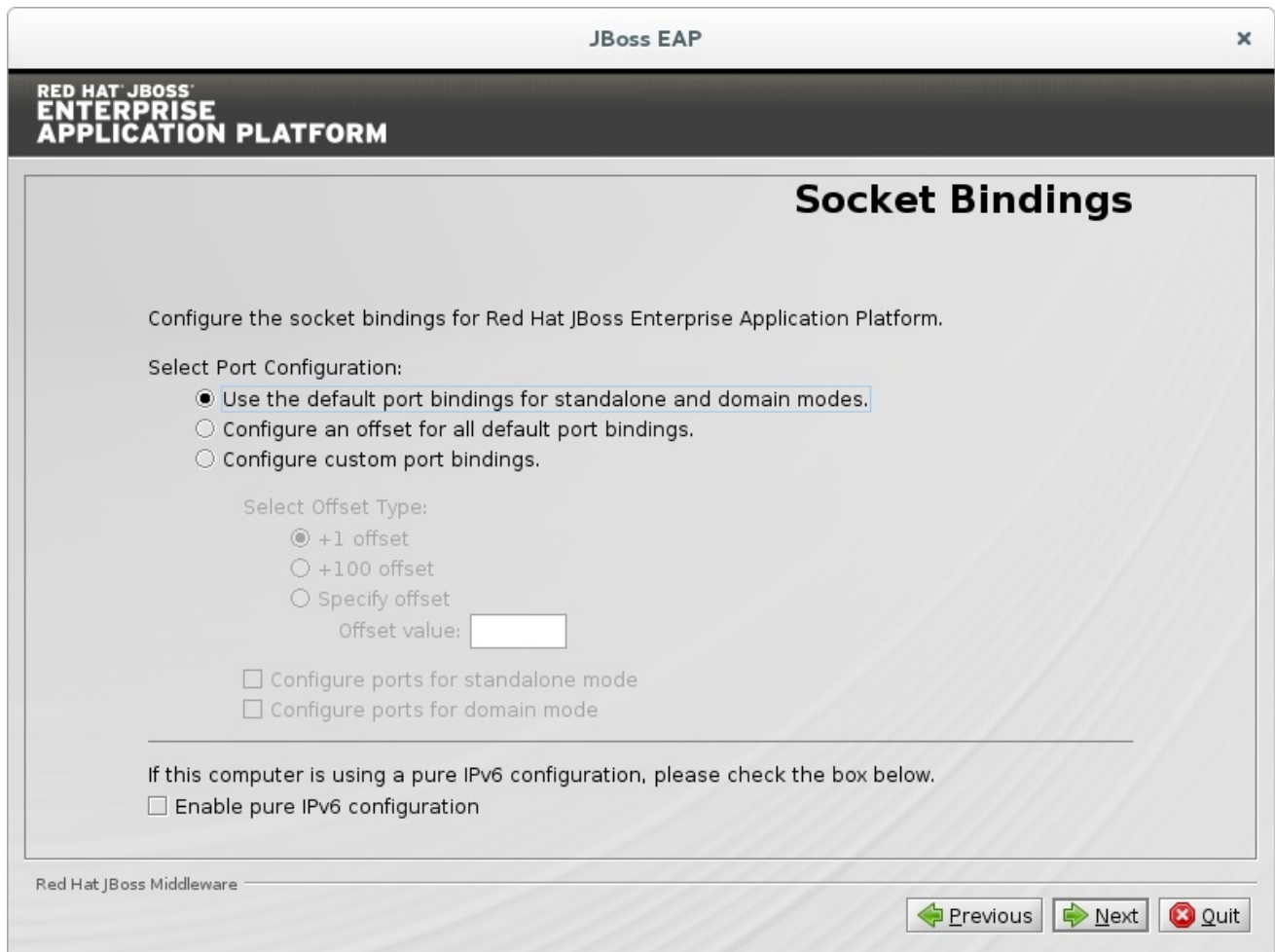


バグの報告

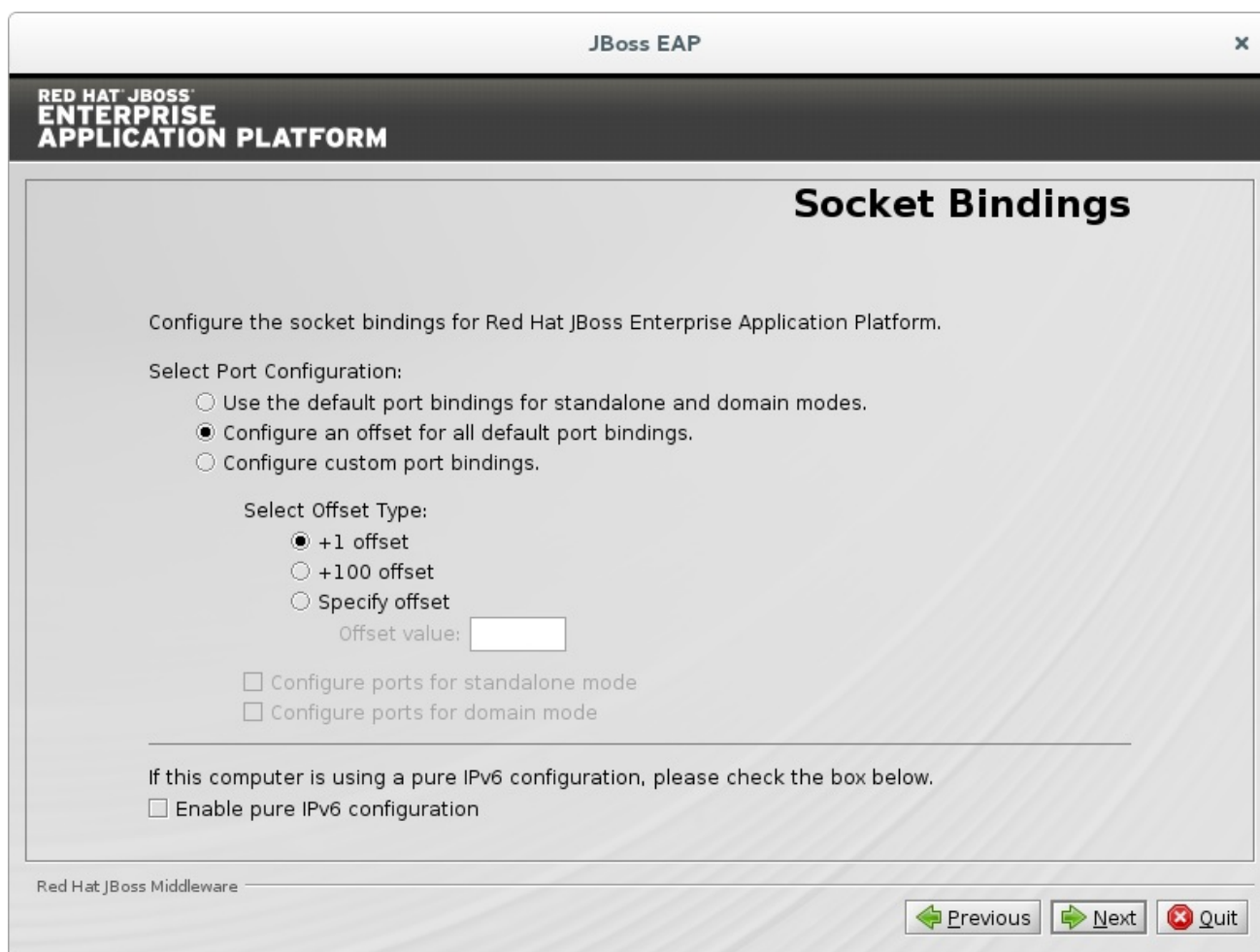
B.8. ソケットバインディングのセットアップ

デフォルトのバインディングを使用するか、カスタムバインディングを設定するかを決定します。ホストが IPv6 only に設定されている場合は、**Enable pure IPv6 configuration** チェックボックスをオンにします。

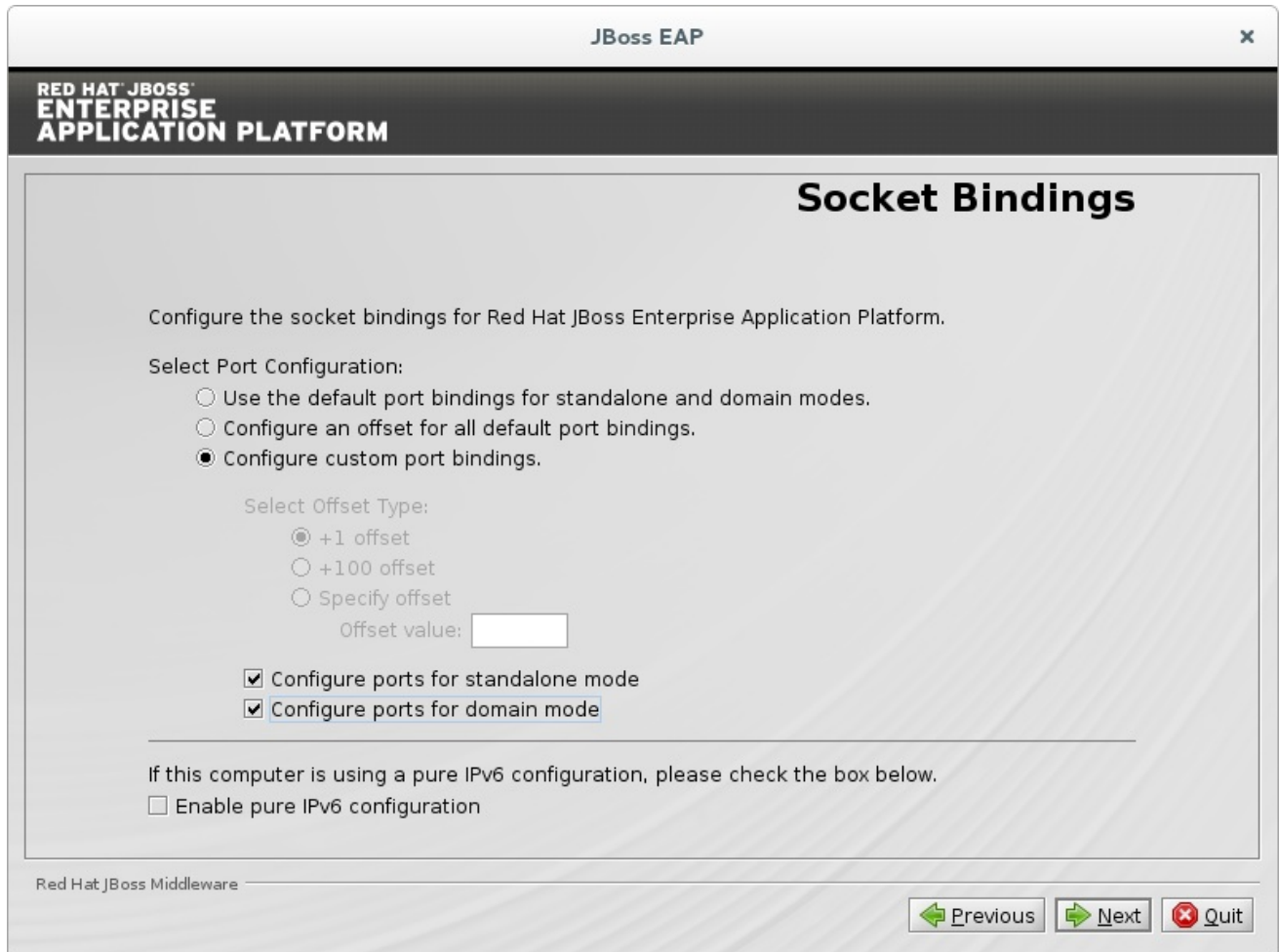
図B.8 JBoss EAP インストールプログラムのデフォルトのソケットバインディング



図B.9 JBoss EAP インストールプログラムのカスタムのポートソケットバインディング



図B.10 JBoss EAP インストールプログラムでデフォルトのソケットバインディングのオフセットを設定



バグの報告

B.9. スタンドアロン設定のカスタムソケットバインディング

スタンドアロンモードのカスタムポートバインディングを設定することを選択した場合、次の一連の画面が表示されます。

図B.11 JBoss EAP インストーラーのスタンドアロンソケットバインディング設定

Port	System Property (Optional)	Default Value
ajp Port Number	<input type="text"/>	8009
http Port Number	<input type="text"/>	8080
https Port Number	<input type="text"/>	8443
management-native Port Number	<input type="text" value="jboss.management.native.p"/>	9999
management-http Port Number	<input type="text" value="jboss.management.http.por"/>	9990
management-https Port Number	<input type="text" value="jboss.management.https.po"/>	9443
remoting Port Number	<input type="text"/>	4447
txn-recovery-environment Port Number	<input type="text"/>	4712
txn-status-manager Port Number	<input type="text"/>	4713

Red Hat JBoss Middleware

← Previous Next → × Quit

図B.12 JBoss EAP インストーラーのスタンドアロン HA ソケットバインディング設定

Port	System Property (Optional)	Default Value
ajp Port Number	<input type="text"/>	8009
http Port Number	<input type="text"/>	8080
https Port Number	<input type="text"/>	8443
jgroups-mping Multicast-Address	<input type="text" value="jboss.default.multicast.addr"/>	230.0.0.4
jgroups-mping Multicast-Port	<input type="text"/>	45700
jgroups-tcp Port Number	<input type="text"/>	7600
jgroups-tcp-fd Port Number	<input type="text"/>	57600
jgroups-udp Port Number	<input type="text"/>	55200
jgroups-udp Multicast-Address	<input type="text" value="jboss.default.multicast.addr"/>	230.0.0.4
jgroups-udp Multicast-Port	<input type="text"/>	45688
jgroups-udp-fd Port Number	<input type="text"/>	54200

Red Hat JBoss Middleware

図B.13 JBoss EAP インストーラーのスタンドアロンフルスタンドアロンソケットバインディング設定

Port	System Property (Optional)	Default Value
ajp Port Number		8009
http Port Number		8080
https Port Number		8443
jacorb Port Number		3528
jacorb-ssl Port Number		3529
messaging-group Multicast-Address	jboss.messaging.group.add	231.7.7.7
messaging-group Multicast-Port	jboss.messaging.group.port	9876
messaging-throughput Port Number		5455
management-native Port Number	jboss.management.native.p	9999
management-http Port Number	jboss.management.http.por	9990
management-https Port Number	jboss.management.https.po	9443

Red Hat JBoss Middleware

Previous Next Quit

図B.14 JBoss EAP インストーラーのスタンドアロンフル HA スタンドアロンソケットバインディング設定

Port	System Property (Optional)	Default Value
ajp Port Number		8009
http Port Number		8080
https Port Number		8443
jacobd Port Number		3528
jacobd-ssl Port Number		3529
jgroups-mping Multicast-Address	jboss.default.multicast.addr	230.0.0.4
jgroups-mping Multicast-Port		45700
jgroups-tcp Port Number		7600
jgroups-tcp-fd Port Number		57600
jgroups-udp Port Number		55200
jgroups-udp Multicast-Address	jboss.default.multicast.addr	230.0.0.4

Red Hat JBoss Middleware

Previous Next Quit

バグの報告

B.10. ドメイン設定のカスタムソケットバインディング

ドメインモードのカスタムポートバインディングを設定することを選択した場合、次の一連の画面が表示されます。

図B.15 JBoss EAP インストーラーのドメインホストソケットバインディング設定

Port	System Property (Optional)	Default Value
management-native Port Number	jboss.management.native.p	9999
management-http Port Number	jboss.management.http.por	9990

Red Hat JBoss Middleware

Previous Next Quit

図B.16 JBoss EAP インストーラーのデフォルトドメインソケットバインディング設定

Port	System Property (Optional)	Default Value
ajp Port Number	<input type="text"/>	8009
http Port Number	<input type="text"/>	8080
https Port Number	<input type="text"/>	8443
remoting Port Number	<input type="text"/>	4447
txn-recovery-environment Port Number	<input type="text"/>	4712
txn-status-manager Port Number	<input type="text"/>	4713

Red Hat JBoss Middleware

← Previous Next → × Quit

図B.17 JBoss EAP インストーラーの HA ドメインソケットバインディング設定

Port	System Property (Optional)	Default Value
ajp Port Number	<input type="text"/>	8009
http Port Number	<input type="text"/>	8080
https Port Number	<input type="text"/>	8443
jgroups-mping Multicast-Address	jboss.default.multicast.addr	230.0.0.4
jgroups-mping Multicast-Port	<input type="text"/>	45700
jgroups-tcp Port Number	<input type="text"/>	7600
jgroups-tcp-fd Port Number	<input type="text"/>	57600
jgroups-udp Port Number	<input type="text"/>	55200
jgroups-udp Multicast-Address	jboss.default.multicast.addr	230.0.0.4
jgroups-udp Multicast-Port	<input type="text"/>	45688

Red Hat JBoss Middleware

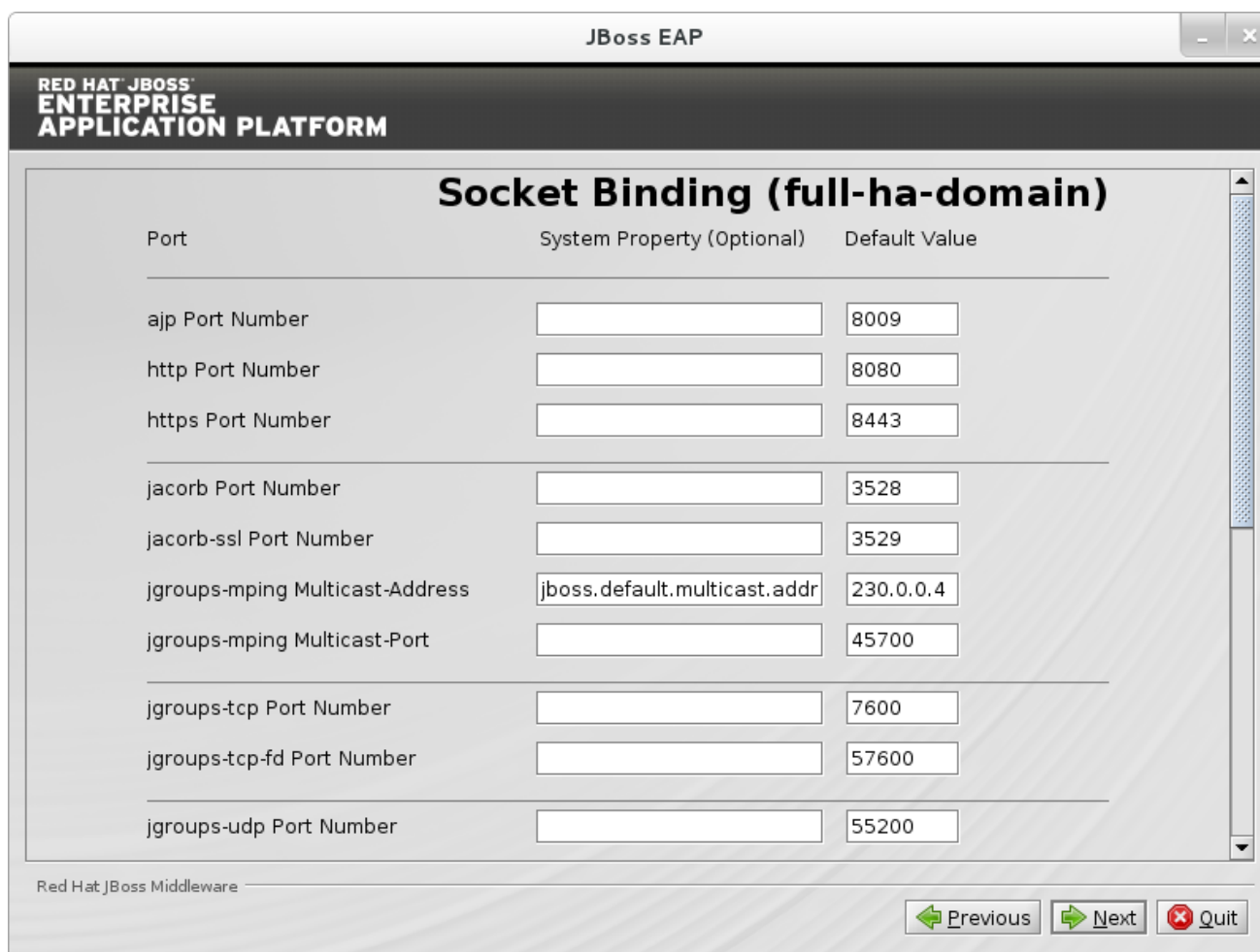
← Previous Next → × Quit

図B.18 JBoss EAP インストーラーのフルドメインソケットバインディング設定

Port	System Property (Optional)	Default Value
ajp Port Number	<input type="text"/>	8009
http Port Number	<input type="text"/>	8080
https Port Number	<input type="text"/>	8443
jacorb Port Number	<input type="text"/>	3528
jacorb-ssl Port Number	<input type="text"/>	3529
messaging Port Number	<input type="text"/>	5445
messaging-group Multicast-Address	<input type="text" value="jboss.messaging.group.add"/>	231.7.7.7
messaging-group Multicast-Port	<input type="text" value="jboss.messaging.group.port"/>	9876
messaging-throughput Port Number	<input type="text"/>	5455
remoting Port Number	<input type="text"/>	4447
txn-recovery-environment Port Number	<input type="text"/>	4712

Red Hat JBoss Middleware

図B.19 JBoss EAP インストーラーのフル HA ドメインソケットバインディング設定



The screenshot shows the 'Socket Binding (full-ha-domain)' configuration window in the JBoss EAP installer. The window title is 'JBoss EAP'. The header of the window displays 'RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM'. The main content area is titled 'Socket Binding (full-ha-domain)' and contains a table with three columns: 'Port', 'System Property (Optional)', and 'Default Value'. The table lists various ports and their corresponding system properties and default values. At the bottom of the window, there are three buttons: 'Previous', 'Next', and 'Quit'.

Port	System Property (Optional)	Default Value
ajp Port Number		8009
http Port Number		8080
https Port Number		8443
jacorb Port Number		3528
jacorb-ssl Port Number		3529
jgroups-mping Multicast-Address	jboss.default.multicast.addr	230.0.0.4
jgroups-mping Multicast-Port		45700
jgroups-tcp Port Number		7600
jgroups-tcp-fd Port Number		57600
jgroups-udp Port Number		55200

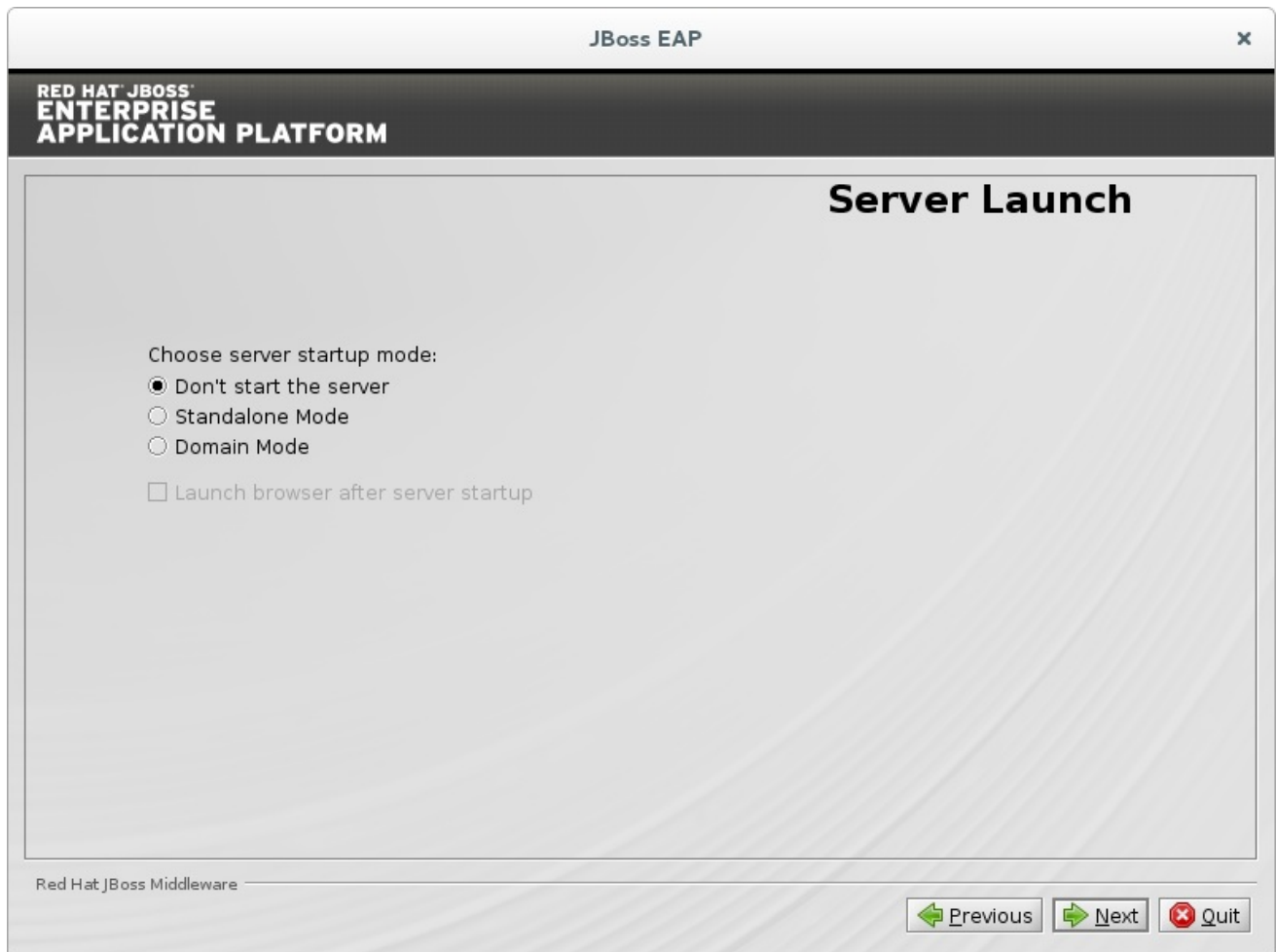
Red Hat JBoss Middleware

Previous Next Quit

[バグの報告](#)

B.11. サーバーの起動

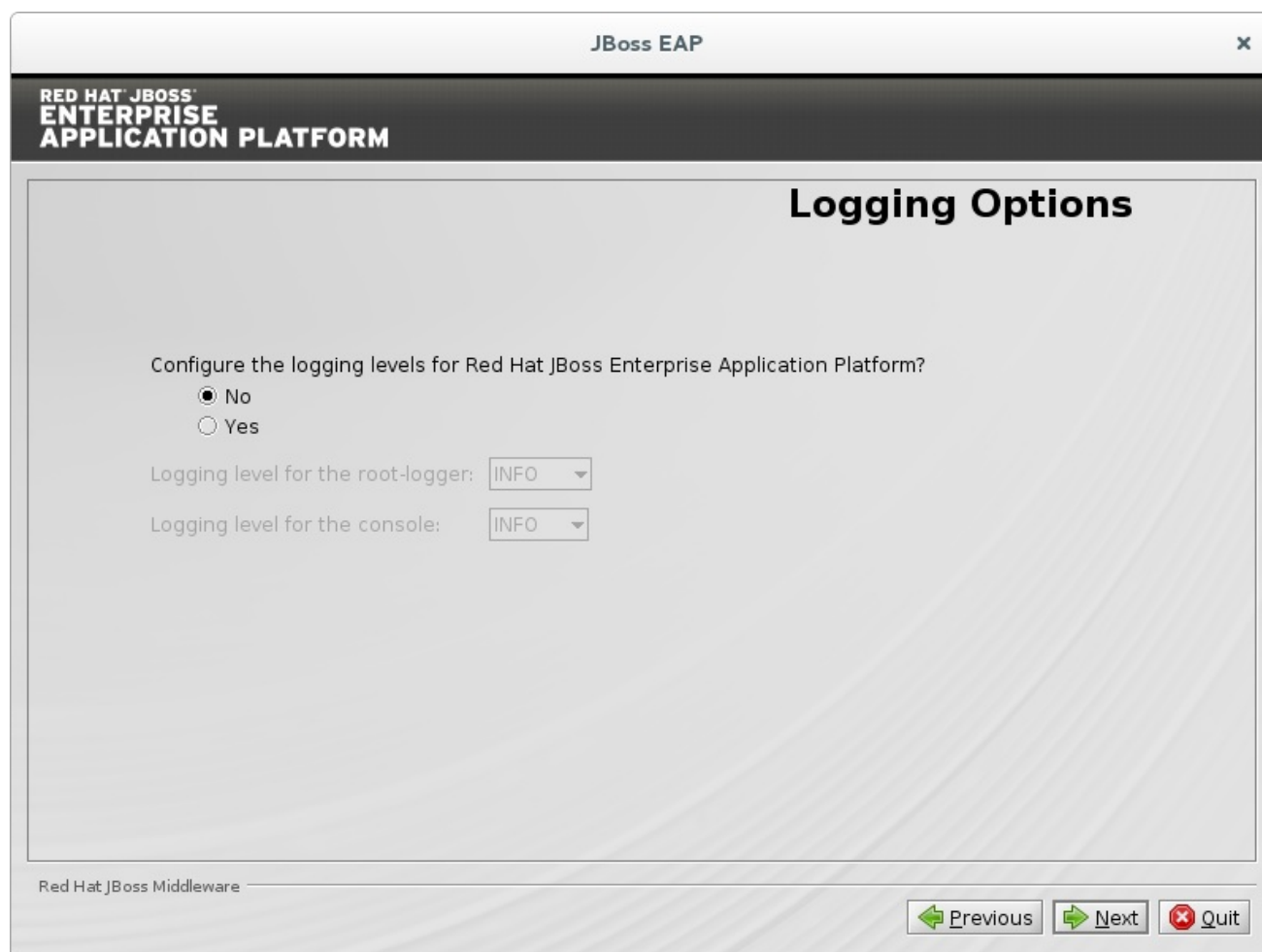
図B.20 JBoss EAP インストールプログラムサーバーの起動



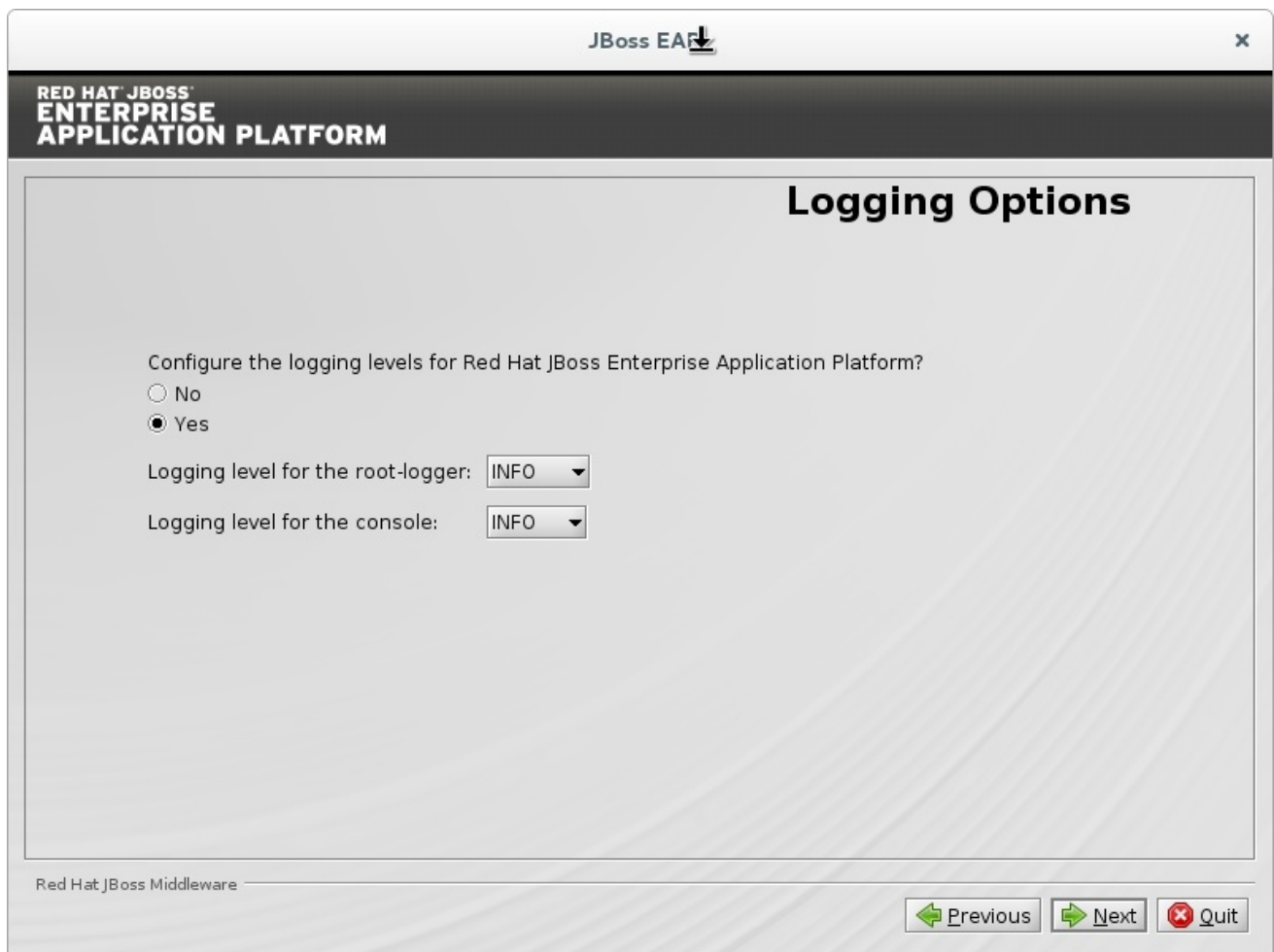
[バグの報告](#)

B.12. ログインレベルの設定

図B.21 JBoss EAP インストールプログラムはロギングレベル設定をスキップする



図B.22 JBoss EAP インストールプログラムによるログインレベルの設定

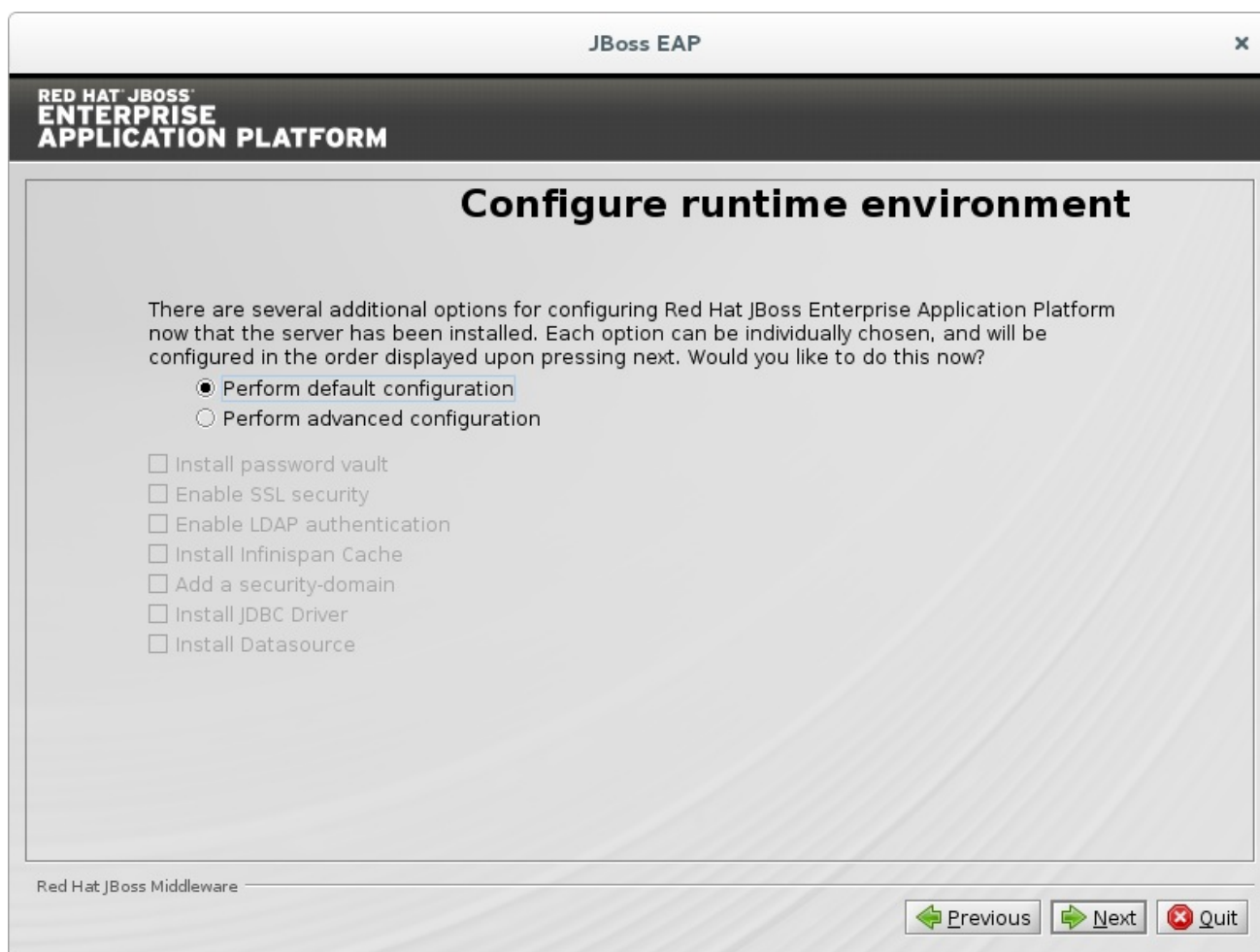


[バグの報告](#)

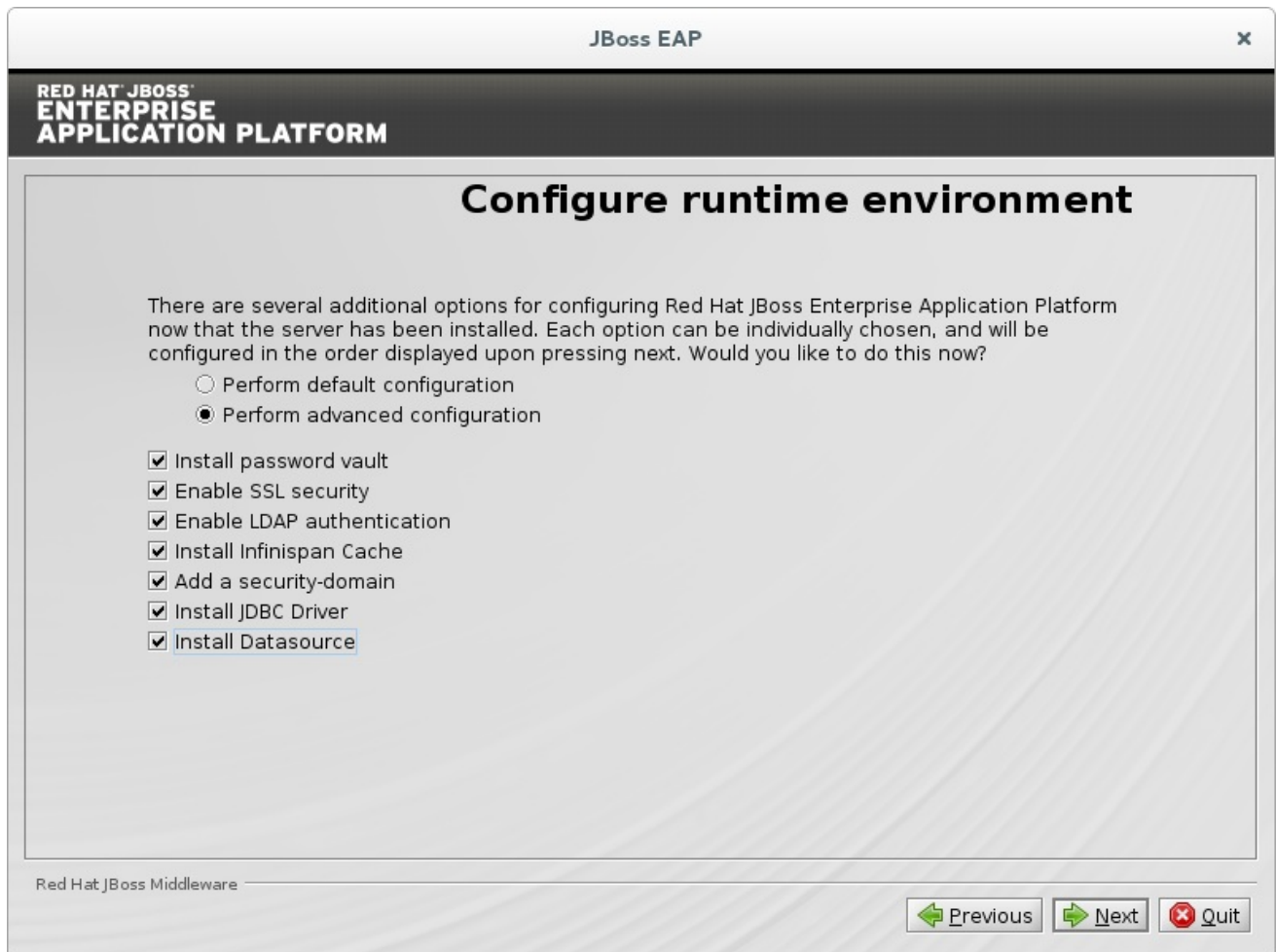
B.13. ランタイム環境の設定

Perform advanced configuration を選択して、セキュリティー、キャッシュ、LDAP、およびデータソースオプションのインストールと設定をカスタマイズします。

図B.23 JBoss EAP インストールプログラムランタイム環境の設定 - デフォルト



図B.24 JBoss EAP インストールプログラムランタイム環境の設定 - 詳細



[バグの報告](#)

B.14. パスワード VAULT の設定

図B.25 JBoss EAP インストールパスワード vault の設定

JBoss EAP

RED HAT JBOSS
ENTERPRISE
APPLICATION PLATFORM

Configure password vault

A password vault encrypts sensitive strings and stores them in an encrypted keystore. The vault mechanism manages decrypting the strings for use with security domains, security realms, or other verification systems. Note that the keystore must be of type "JCEKS".

Please make note of your entry below in order to mask any subsequent passwords. See JBoss EAP 6 documentation for further details.

The password must have no fewer than 6 characters.

Vault alias:

Salt (8-chars)

Iteration count

Vault keystore password:

Re-enter vault keystore password:

New Keystore location:

Encrypted file directory:

Red Hat JBoss Middleware

[バグの報告](#)

B.15. SSL セキュリティーの設定

図B.26 JBoss EAP インストール SSL セキュリティーの設定

The screenshot shows a window titled "JBoss EAP" with a close button in the top right corner. Below the title bar is a dark header with the text "RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM". The main content area is titled "SSL Security" and contains the following text: "SSL security can be enabled for the management interfaces by specifying the location of a keystore and the password for it." Below this text are three input fields: "SSL keystore password:" with a masked password field, "Confirm SSL keystore password:" with a masked password field, and "Keystore location:" with a text input field containing "/home/username/keystore" and a "Browse" button. At the bottom left of the window, it says "Red Hat JBoss Middleware". At the bottom right, there are three buttons: "Previous" with a left arrow, "Next" with a right arrow, and "Quit" with a red X icon.

[バグの報告](#)

B.16. LDAP の設定

図B.27 JBossEAP インストール LDAP の設定

JBoss EAP

RED HAT JBOSS
ENTERPRISE
APPLICATION PLATFORM

LDAP Configuration

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform can be configured to allow you to use a LDAP server as the authentication and authorization authority, both for applications and the management interface. This is a 2-step process.

Connection Name:

Directory Server:

Distinguished Name (DN):

DN Password:

Confirm DN Password:

Red Hat JBoss Middleware

[バグの報告](#)

B.17. INFINISPAN の設定

図B.28 JBoss EAP インストール Infinispan の設定

JBoss EAP

RED HAT JBOSS
ENTERPRISE
APPLICATION PLATFORM

Infinispan Configuration

Specify information below for creating an infinispan cache.

Infinispan Name:

JNDI Name:

Local Cache Name:

Transaction Mode:

Eviction Strategy:

Eviction Max Entries:

Expiration Max Idle:

Red Hat JBoss Middleware

[バグの報告](#)

B.18. セキュリティードメインの設定

図B.29 JBoss EAP インストールセキュリティードメインの設定

JBoss EAP x

RED HAT JBOSS
ENTERPRISE
APPLICATION PLATFORM

Security Domain

Configure a security-domain using the fields below. The only required field is the security-domain name. The rest of the fields are optional. Most fields have a predefined list of valid values.

Security-Domain Name:

Security-Domain Cache-type:

Add authentication element:

Authentication code:	Authentication flag:	Authentication options:
<input type="text" value="Client"/>	<input type="text" value="Required"/>	<input type="text" value="testName=testValue"/>
		<input type="button" value="Add Module"/> <input type="button" value="Remove Module"/>

Add authorization element:

Authorization code:	Authorization flag:	Authorization options:
<input type="text" value="DenyAll"/>	<input type="text" value="Required"/>	<input type="text" value="testName=testValue"/>
		<input type="button" value="Add Module"/> <input type="button" value="Remove Module"/>

Add mapping element:

Mapping code:	Mapping type:	Mapping options:
<input type="text" value="PropertiesRoles"/>	<input type="text" value="Principal"/>	<input type="text" value="testName=testValue"/>
		<input type="button" value="Add Module"/> <input type="button" value="Remove Module"/>

Red Hat JBoss Middleware

JBoss EAP x

RED HAT JBOSS
ENTERPRISE
APPLICATION PLATFORM

JSSE Configuration

Configure a JSSE element. The JSSE element requires either a keystore or a truststore to be configured.

Add jsse element

Cipher suites used by SSLContext:

Protocols used by SSLContext:

Alias of client-side keystore:

Alias of server-side keystore:

Third party validation token:

Add keystore element

JSSE keystore password:

Confirm JSSE keystore password:

Keystore Provider:

Provider argument:

Keystore type:

Keystore URL:

Add keystore manager element

KeyManagerFactory algorithm:

KeyManagerFactory Provider:

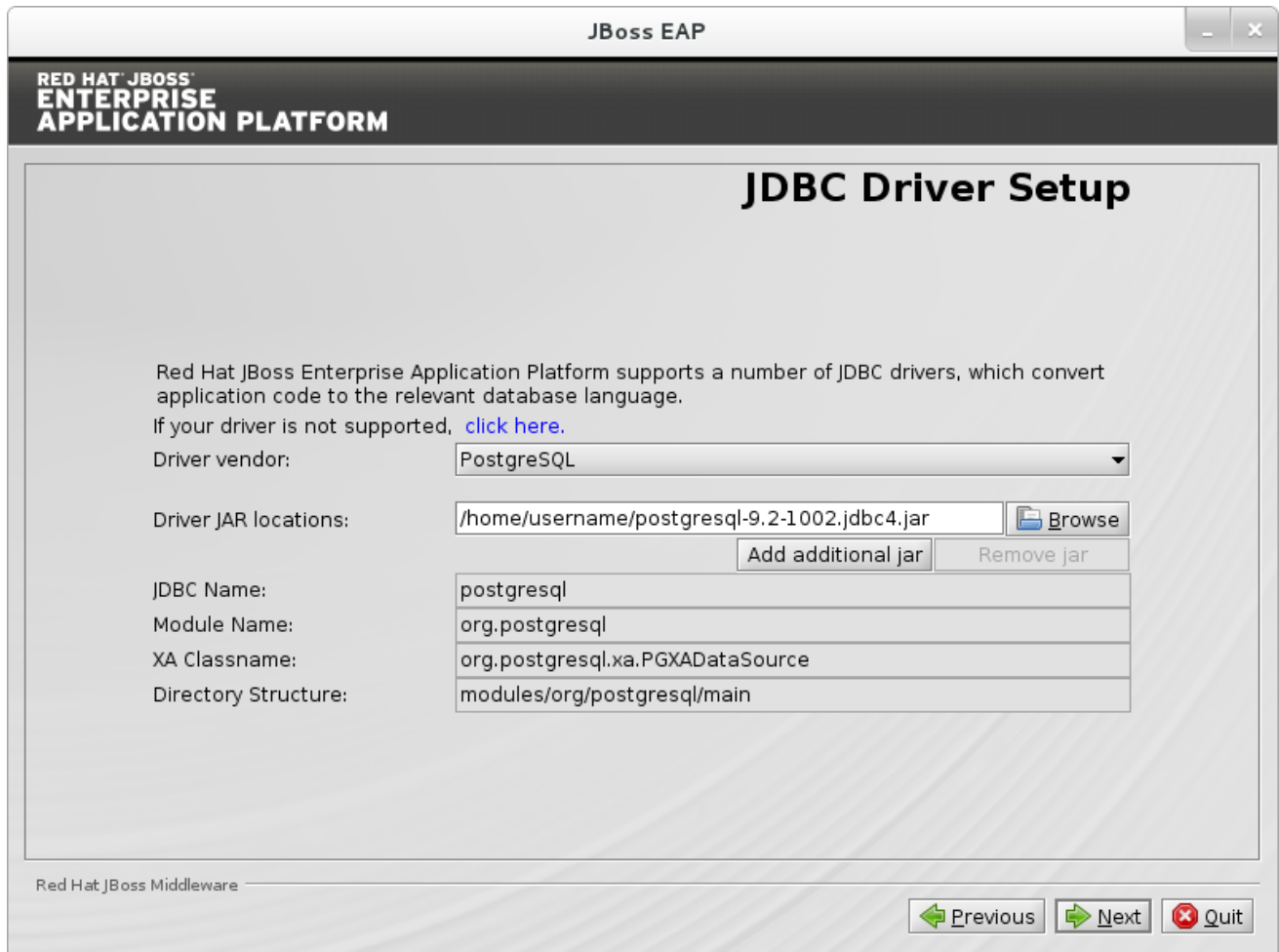
Add truststore element

Red Hat JBoss Middleware

[バグの報告](#)

B.19. JDBC ドライバーのセットアップ

図B.30 JBoss EAP インストール JDBC ドライバーの設定

[バグの報告](#)

B.20. データソースのセットアップ

図B.31 JBoss EAP インストールデータソースの設定

JBoss EAP

RED HAT JBOSS
ENTERPRISE
APPLICATION PLATFORM

Datasource Setup

Configure the datasource for Red Hat JBoss Enterprise Application Platform below.

Name:	myNewDatasource
JNDI Name:	java:jboss/PostgresDS
Min Pool Size:	0
Max Pool Size:	20
Security Type:	Security-domain
Security-domain:	mySecurityDomain
Datasource type:	postgresql
Connection URL:	jdbc:postgresql://SERVER_NAME:PORT/DATABASE_NAME

Test Datasource Connection

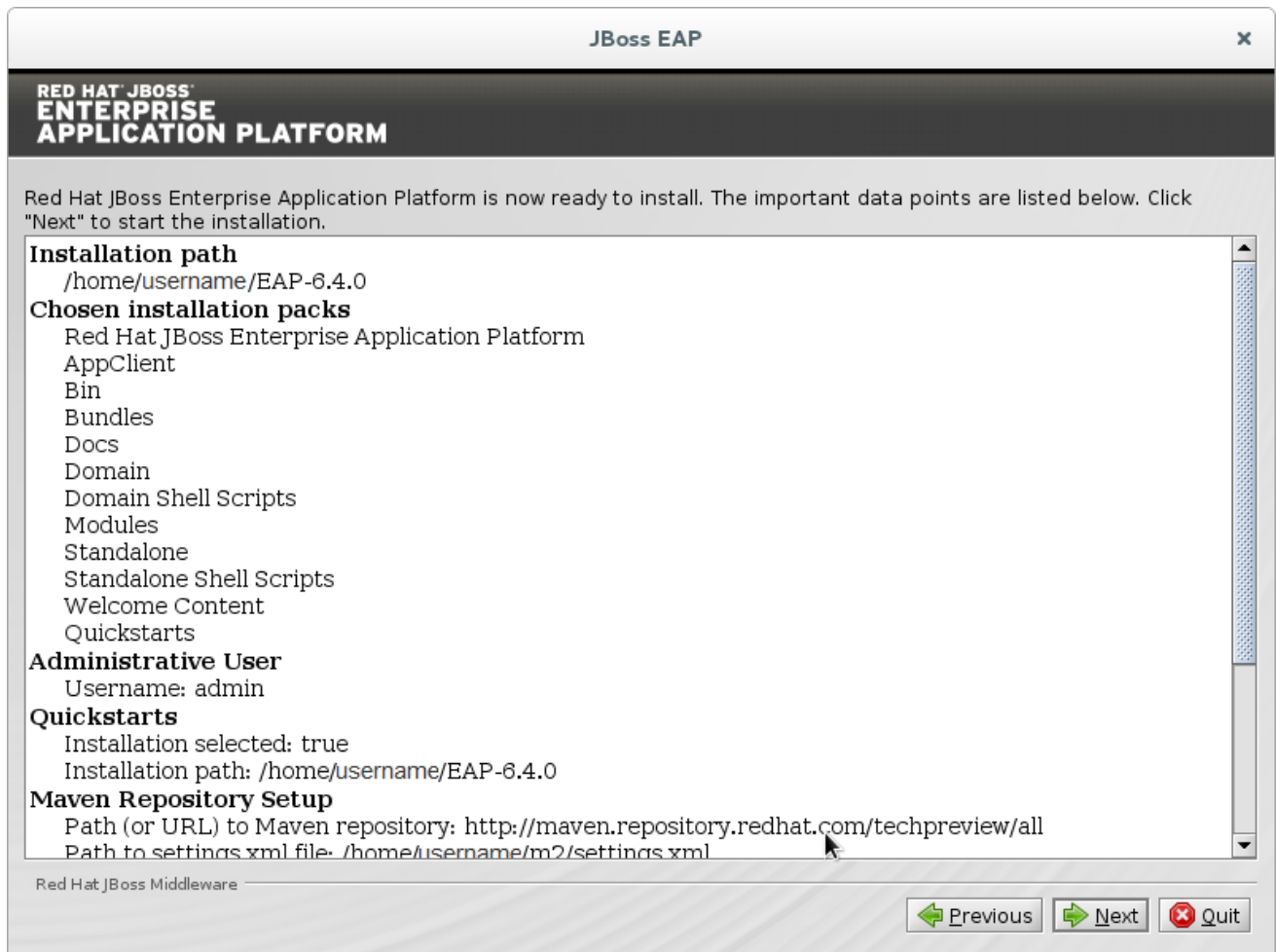
Red Hat JBoss Middleware

Previous Next Quit

バグの報告

B.21. インストールコンポーネントを確認する

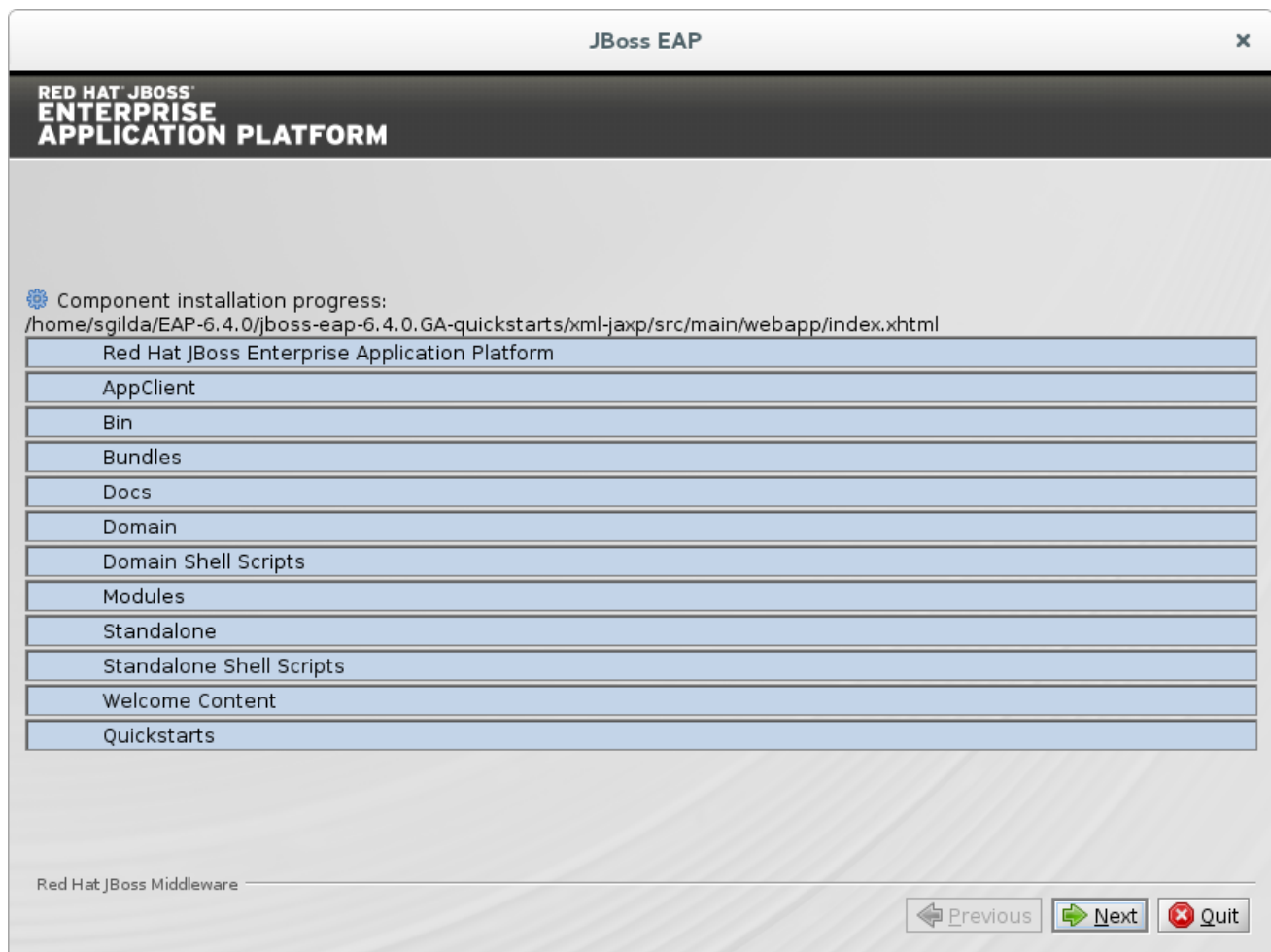
図B.32 JBoss EAP インストールプログラムで選択したコンポーネントを確認する



[バグの報告](#)

B.22. インストールの進捗

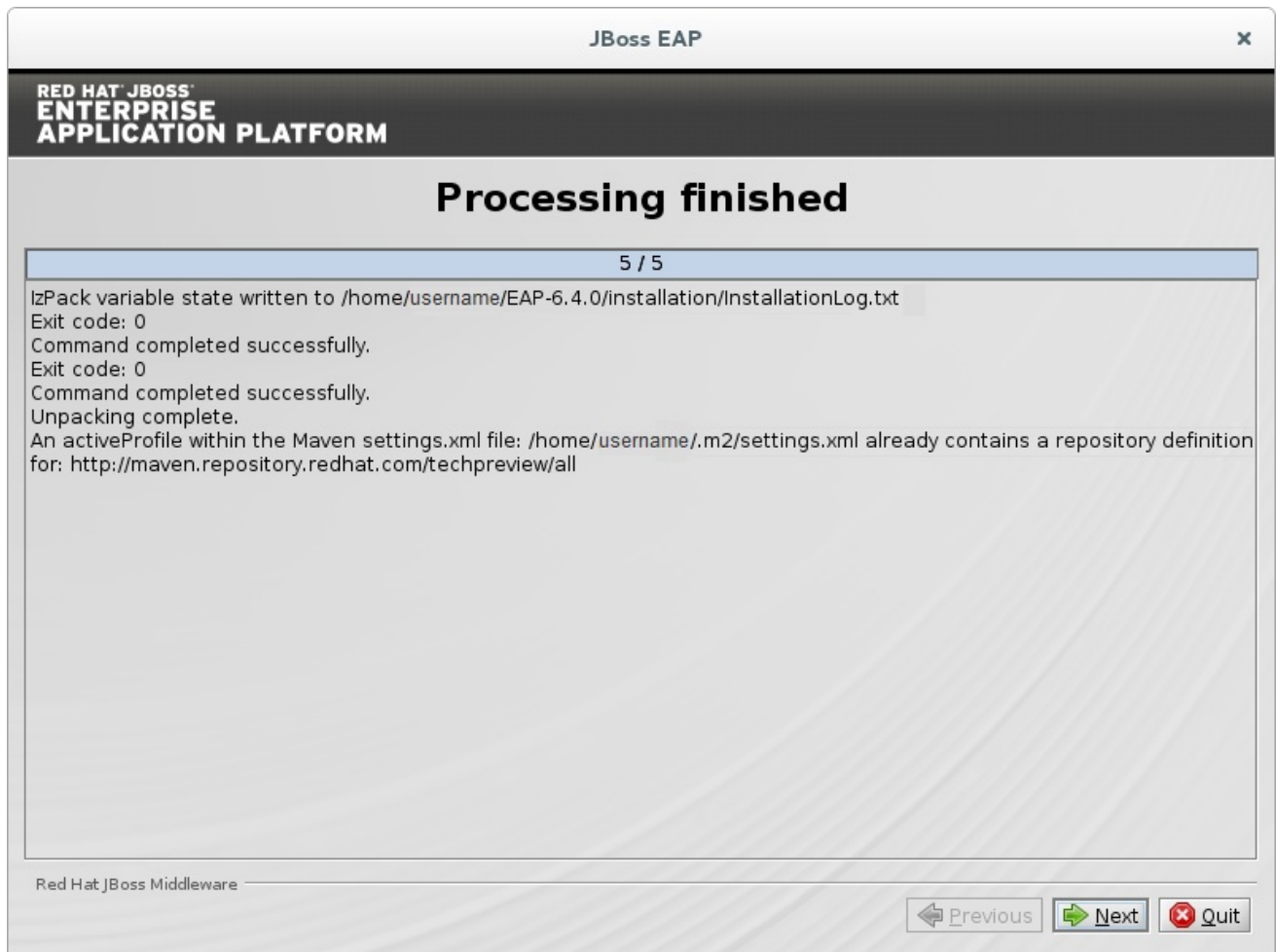
図B.33 JBoss EAP インストールプログラムコンポーネントのインストールの進捗



[バグの報告](#)

B.23. インストール処理が完了しました

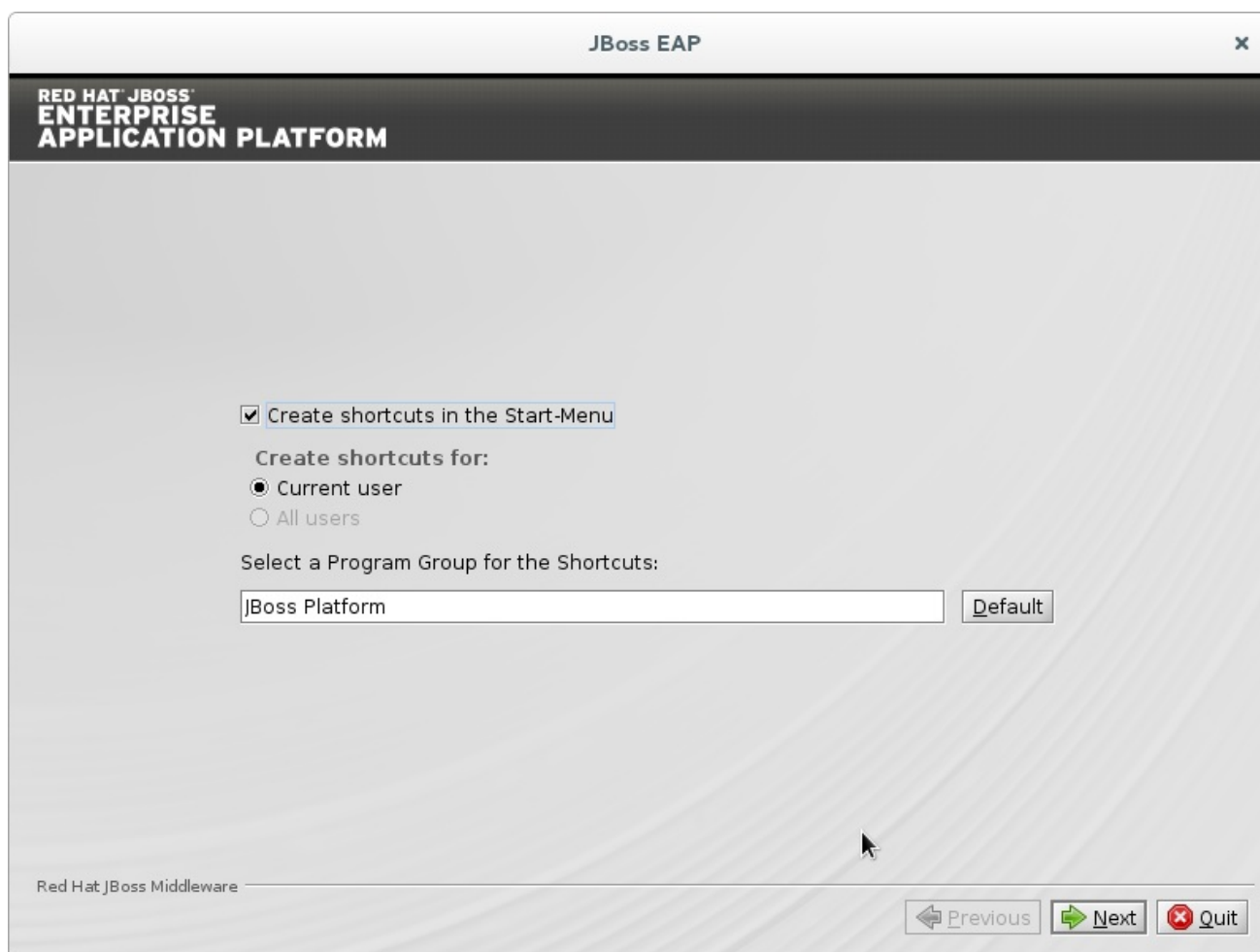
図B.34 JBoss EAP インストールプログラムの処理が終了しました



[バグの報告](#)

B.24. ショートカットを作成する

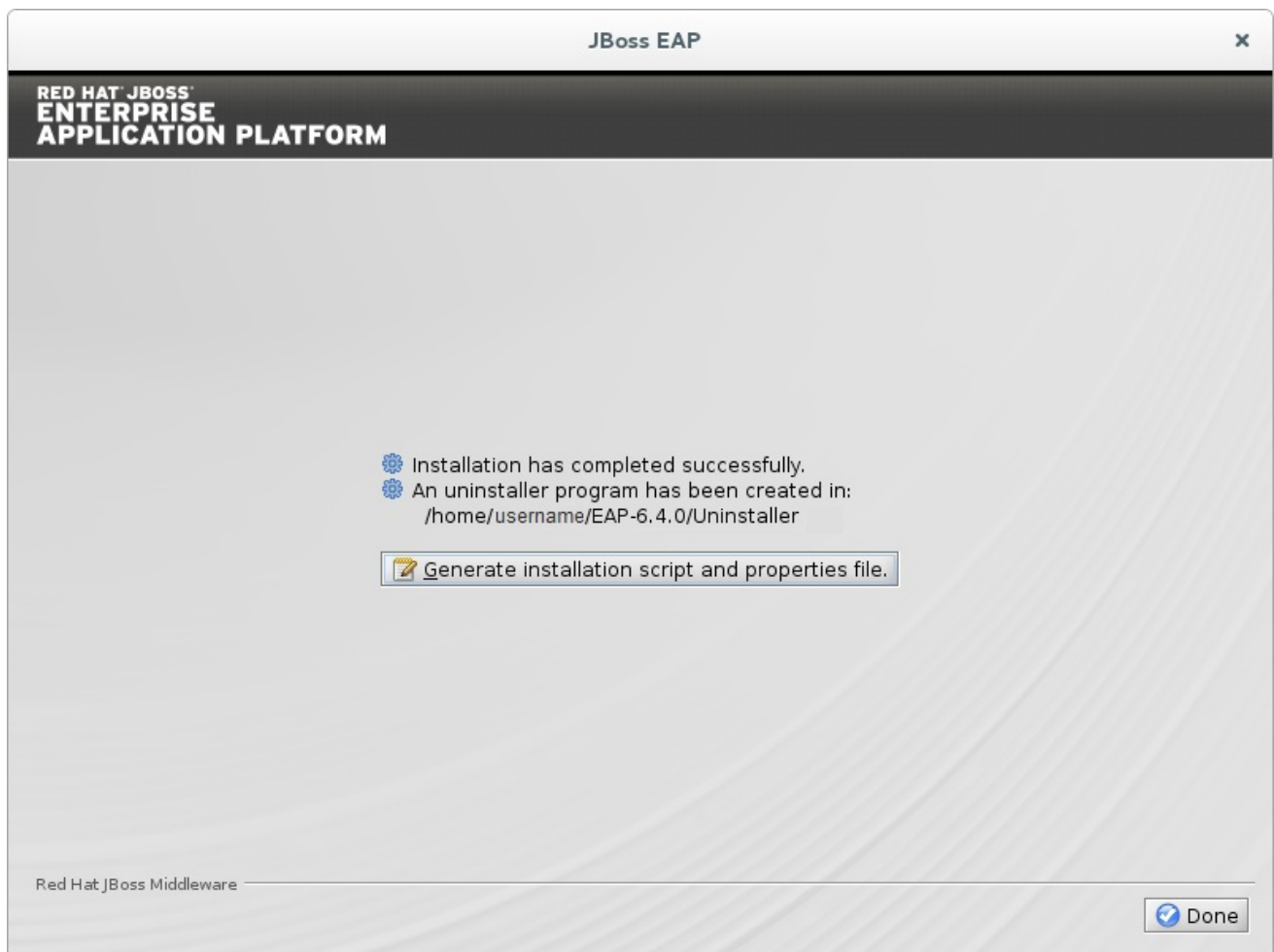
図B.35 JBoss EAP インストーラーによるショートカットの作成



[バグの報告](#)

B.25. インストールスクリプトを生成する

図B.36 JBoss EAP インストールプログラムはインストールスクリプトを生成します



[バグの報告](#)

付録C 改訂履歴

改訂 6.4.0-45

Thursday November 16 2017

Red Hat Customer Content Services

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.4 継続的リリース